

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 哺乳類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国外由来の外来種】

網掛けは、H25年度第2回リスト会議以降に変更した項目 下線は特定外来生物等分類群専門家グループ委員会からの意見を反映

※緊急的防除種・重点対策種のみ

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 侵害の予測 生態系へ 移行可能性	特定外来 旧要注 意	和名	学名	選定理由	定着可能性									付着 混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事 項	備考	抽出根拠					文献等					
								生物 導入	競争 排除	交雑	捕食 摂食	繁殖	気候	重要 地域	人体	経済 産業		利用	原産地や分布	日本での分布				生息環境など	①外来法	②W100	③GISD	④各県		⑤その他				
定着を予防する外来種(定着予防種)																																		
侵入予防種																																		
1	A未定着	侵入予防種			特定外来	ジャワマングース	<i>Herpestes javanicus</i>	IV	◎	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、マレーシア、インドネシア	森林、草地、農耕地	-	-	日本に定着しているマングースは本種であると考えられていたが、調査の結果、フィリピンマングースとして別種と扱わなければならないことが明らかになった。	特定	日本・IUCN					Veron et al.(2007).		
その他の定着予防種																																		
2	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	フクロゴツネ	<i>Trichosurus vulpecula</i>	I,IV	○	-	-	-	◎	-	○	-	-	-	○	-	オーストラリア	森林性、人家に入り込むこともある。	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	牛結核や寄生性線虫の伝播。	特定	IUCN	○	北海道			日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)		
3	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	I,IV	○	-	◎	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	東南アジア原産。パラオ、モリシヤ、サモア等の島嶼に侵入。	森林、マンガローブ等	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンザルとの競争・交雑、寄生虫や病原菌の伝播、農業被害。1971年に伊豆諸島内島に放され野生化した後、1995年ごろに消滅。	特定	IUCN	○				自然環境研究センター(編者)(2008)、山田他(2011)		
4	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	タイリクモモンガ	<i>Pteromys volans</i>	I	○	-	◎	◎	-	-	○	-	-	-	-	○	ロシア、カザフスタン、中国東北部、朝鮮半島	森林	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	エゾモモンガ <i>P. v. orii</i> は本種の亜種。	特定				北海道、京都		自然環境研究センター(編者)(2008)		
5	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	トウハイロリス	<i>Sciurus carolinensis</i>	I,III	○	-	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	北米原産。ヨーロッパ、南アフリカ、オーストラリアに侵入。	森林、公園	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	リスボックスウイルスの媒介、樹皮剥ぎ被害。	特定	IUCN	○	北海道			Gurnell et al.(2006)、自然環境研究センター(編者)(2008)		
6	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	フィンレイソノリス	<i>Callosciurus finlaysonii</i>	I,III	○	-	○	-	○	-	◎	-	-	-	○	○	ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー等	原生林、二次林、植林地や公園など、多様な森林環境	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。展示、学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	静岡県浜松市では、クリハラリスと思われていた個体からフィンレイソノリスのミトコンドリアDNAゲノムが確認されている。	特定						蔵本(2009)、Francis, M. C.(2008)		
7	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	カニクイアライグマ	<i>Procyon cancrivorus</i>	I,III,IV	○	-	○	-	◎	-	○	-	-	-	○	-	中南米	水辺の森林	かつてアライグマに混入してペットとして輸入されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	アライグマと同様の被害を及ぼす可能性。	特定				滋賀		自然環境研究センター(編者)(2008)		
8	A未定着	その他の定着予防種			旧要注	フェレット	<i>Mustela furo</i>	I	○	◎	-	-	○	-	○	-	-	-	◎	-	ヨーロッパのヨーロッパカニクイザルを家畜化。北米、ニュージーランドに侵入。	ヨーロッパカニクイザルは、森林、草原、耕作地	ペットとして大量に流通し、飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	知見の集積が必要	要注意		○	北海道、千葉、兵庫、愛媛			自然環境研究センター(編者)(2008)		
9	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	シママングース	<i>Mungos mungos</i>	I,IV	○	-	-	-	◎	-	-	-	-	○	○	-	アフリカ	森林、草地等	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。		特定						Wilson & Mittermeier (eds.)(2009)		
10	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	アキシスジカ(アキシスジカ)属	<i>Axis spp.</i>	I,IV	○	-	○	◎	◎	-	-	-	-	○	○	-	インド、スリランカ原産。東ヨーロッパ、北米、南米、ニューギニア等に侵入。	森林、草原	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンジカとの競争・交雑の可能性が指摘されている。本属には計4種が含まれる。	特定		○	京都(シカ垂科として)			自然環境研究センター(編者)(2008)		
11	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	ダマシカ属	<i>Dama spp.</i>	I,IV	○	-	○	◎	◎	-	-	-	-	○	○	-	ヨーロッパ、西アジア原産。世界各地に侵入。	森林、草原	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンジカとの競争・交雑の可能性が指摘されている。	特定				京都(シカ垂科として)		自然環境研究センター(編者)(2008)		
12	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	シフゾウ	<i>Elaphulus davidianus</i>	I,IV	○	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	○	-	中国	沼地、湿地	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	野生の個体群は絶滅した国際的な希少動物で、動物園で飼育されているのみ。現状では野外に逸出する可能性は低い。飼育下ではシカ属との交雑例が報告されている。	特定				京都(シカ垂科として)		自然環境研究センター(編者)(2008)		
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																																		
緊急的防除種																																		
13	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①④	⑤	特定外来	タイワンザル	<i>Macaca cyclops</i>	I,III		◎	◎	-	-	-	◎	-	-	○	-	台湾	伊豆大島、大根島(静岡県)、和歌山	平地から亜高山帯までの樹林	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンザルとの交雑。農業被害。	特定	日本・IUCN			青森、東京、静岡、和歌山			日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編者)(2008)、山田他(2011)	
14	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①④	⑤	特定外来	アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>	I,III		◎	◎	-	-	-	○	◎	-	◎	○	-	南アジア~インドシナ半島、中国中南部	南房総 産地外～半乾燥地まで様々な森林。房総では常緑広葉樹林と耕作地が混在した丘陵地。	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	房総半島ではニホンザルとの交雑が進んでいる。寄生虫や病原菌の伝播、農業被害。	特定			○	千葉			自然環境研究センター(編者)(2008)、山田他(2011)	
15	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①	⑤	特定外来	キタリス	<i>Sciurus vulgaris</i>	I			◎	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	旧北区全域	狭山丘陵	森林	かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	エゾリス <i>S. v. orientalis</i> は本種の亜種であり、交雑が懸念される。本州以南ではニホンリスとの競争が予想される。ベスト等感染症や、ダニによる回帰熱の媒介。	特定				北海道			日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)
16	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①②③④	⑤		ノヤギ(ヤギの野生化したもの)	<i>Capra hircus</i>	I,II			-	-	◎	○	◎	-	-	○	○	-	西アジア地中海沿岸が原産地とされている。	伊豆諸島八丈小島、小笠原父島、尖閣諸島鳥島等の島嶼	森林、草原等	家畜として飼育されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	摂食が植生の衰退を引き起こし、生態系の改変につながる。	特定				愛媛、佐賀、鹿児島、沖縄			日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編者)(2008)、山田他(2011)
17	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①②③	⑤	特定外来	フイリマングース	<i>Herpestes auropunctatus</i>	I			-	-	◎	-	◎	◎	-	◎	○	-	中東、南アジア、東アジア、中国南部	沖縄島、奄美大島、鹿児島県本土	森林、草原、農地等	かつてはペットとして流通し、飼養された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	奄美大島でアマミクロウサギ、沖縄島でヤンバルクイナ等、多くの絶滅のおそれのある種に影響を与えている。日本に侵入した個体群はかつてはジャワマングース <i>H. javanicus</i> とみなされていた。	特定	日本・IUCN		○	鹿児島、沖縄			日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編者)(2008)、山田他(2011)、亙(2011)
18	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①	⑤	特定外来	キョン	<i>Muntiacus reevesi</i>	I			-	-	○	-	-	-	-	○	○	-	中国南部、台湾	千葉、伊豆諸島	森林	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	動物園の飼育個体が逸出して定着した。	特定				千葉			日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編者)(2008)
19	C分布拡大期~まん延期	緊急的防除種	①②③④	⑤	特定外来	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	I,II		○	-	◎	◎	◎	◎	○	-	◎	-	-	北米	都市部から森林、湿地、水辺	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	知床国立公園、支笏洞爺国立公園に侵入。北海道ではニホンザリガニやエゾサンショウウオの食害、サギ類のコロニーの消失などの生態系影響を生じている。 なお、アライグマを人が経口摂取すると、中枢神経障害を引き起こすことがあるが、国内の野生化した個体からは検出されていない。	特定	日本		○	北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、佐賀、鹿児島			日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編者)(2008)、山田他(2011)	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 鳥類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国外由来の外来種】

網掛けは、H25年度第2回リスト会議以降に変更した項目 下線は特定外来生物等分類群専門家グループ委員会からの意見を反映

※緊急的防除種・重点対策種のみ

No	定着段階	カテゴリ	対策実施の要件		特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性										生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等			
			被害の発生 可能性	繁殖・定着 可能性					生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	繁殖	気候	重要 地域	人体	経済 産業	利用	付着 混入	原産地や分布				日本での分布	生息環境など	①外来法	②W100	③GISD		④各県	⑤その他	
定着を予防する外来種(定着予防種)																																	
その他の定着予防種																																	
1	A未定着	その他の定着予防種			旧要注意	シリアカヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>	I	○	-	○	-	-	-	○	-	-	○	○	-	インド、パキスタン、中国南部、ブータン、ミャンマー、タイ北部等原産。オーストラリア、太平洋諸島等へ侵入。	都市、農耕地、森林等	ペットとして飼養されている可能性がある。	ペット用の安易な輸入や飼養は控えることが望ましい。また逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	神奈川県での観察事例がある。	要注意	IUCN	○				Chrustipher Lever(1987)、自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)	
2	A未定着	その他の定着予防種			旧要注意	外国産メジロ	<i>Zosterops spp.</i>	I	○	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	○	朝鮮半島、台湾、中国、ベトナム、フィリピン等原産。	都市、農耕地、森林等	ペット、鳴き合わせ等の愛玩目的で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	日本産メジロの別亜種のヒメメジロ <i>japonicus simplex</i> 、チヨウセンメジロ <i>erythropleurus</i> 、ハイバラメジロ <i>palpebrosus</i> 等を含む。輸入されていた個体の多くは、密猟された日本産と入れ替えて販売されていたという。「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における動物の輸入届出制度により、高病原性インフルエンザの発生国や地域からの輸入が禁止されている。		要注意				京都	自然環境研究センター(編著)(2008)	
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																																	
緊急的防除種																																	
3	C分布拡大期 ~まん延期	緊急的防除種	①③	⑤	特定外来	カナダガン	<i>Branta canadensis</i>	I													北米原産。ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリアに侵入。	茨城、神奈川、山梨、静岡、湖沼、河川等	展示目的等で飼養されているが、平成26年8月より特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	在来の種シジュウカラガン(<i>Branta hutchinsii</i>)や他の在来ガン類と交雑する可能性が危惧されている。	特定		○	千葉		Chrustipher Lever(1987)、自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)		
4	C分布拡大期 ~まん延期	緊急的防除種	①②③④	⑤	旧要注意	インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	I, II, III													インド、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ等原産。	福島、埼玉、滋賀、三重、愛媛、小豆島、大隅諸島、先島諸島	各地で観賞用に飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	先島諸島では駆除が行われている。	要注意			徳島、愛媛、沖縄		自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)		
重点対策種																																	
5	C分布拡大期 ~まん延期	重点対策種	①		特定外来	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	I													中国中・西・南部、ラオス北東部、ベトナム北部、台湾原産。ハワイに侵入。	本州、四国、九州	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	分布拡大中。	特定	日本		熊本		日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)		
6	C分布拡大期 ~まん延期	重点対策種	①		特定外来	カオグロガビチョウ	<i>Garrulax perspicillatus</i>	I													中国中南部、ベトナム原産。	岩手、群馬、埼玉、東京、神奈川	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。		特定					自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)		
7	C分布拡大期 ~まん延期	重点対策種	①		特定外来	カオジロガビチョウ	<i>Garrulax sannio</i>	I													インド北東部、中国南部、東南アジア等原産。	北関東~千葉	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。		特定					自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)		
8	C分布拡大期 ~まん延期	重点対策種	①		特定外来	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	I													ヒマラヤ西部~ミャンマー南西部、中国中部~南東部、インドアッサム州~ベトナム北東部原産。	本州、四国、九州	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	分布拡大中。複数の国立公園内で確認されている(雲仙天草国立公園、富士箱根伊豆国立公園等)。	特定	日本	○	京都、兵庫、鳥取、徳島、宮崎、鹿児島		日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)		
その他の総合対策種																																	
9	B定着初期/分布限定	その他の総合対策種				コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>	I													ユーラシア原産。北米、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ等に侵入。	北海道ウトナイ湖(繁殖地)、茨城県ケ浦(越冬地)、鹿児島県牟婁田池、その他多くの県府で確認	湖沼、河川等	愛玩目的で屋外飼育されることが多い。	逸出しないよう、十分な管理が望まれる。	知見の集積が必要。オオヒシクイと生息場所を巡る競合及び採食の生態系への影響が指摘されている。飼育個体は翼を切って飛べないようにした上で半ば放し飼いにされていることが多い。鹿児島県牟婁田池(ラムサール条約登録湿地、泥炭植物群落は国指定天然記念物)では、観光目的で放し飼いにされているが、2014年にこのうち20羽余りが周辺の河川等へ逸出し、生態系への影響が懸念されている。					北海道、青森、千葉、愛知、京都、鳥取		川上(2012)、朝日新聞記事(2014)
10	B定着初期/分布限定	その他の総合対策種			旧要注意	コリンウズラ	<i>Colinus virginianus</i>	I													アメリカ中東部~メキシコ等原産。	関東~近畿、四国	森林、草原、河川敷	猟犬の訓練用として放鳥された。	猟犬訓練のための放逐・放置は慎むべき。	知見の集積が必要。	要注意			京都、徳島		自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)	
11	B定着初期/分布限定	その他の総合対策種				ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i>	I													インド中・南部、スリランカ原産。ヨーロッパ(イギリス、ドイツ、ベルギー、オランダ等)、アラブ諸国、北米、ハワイ等に侵入。	東京、千葉、神奈川、愛知、京都、広島	都市、森林等	愛玩目的として、ツキノワインコの名称で販売飼養されている。	逸出しないよう、十分な管理が望まれる。	原産地のインドでは、農作物の害鳥として知られており、トウモロコシの苗やソルガムきび、ゴマ、小麦、大麦、芥子菜、落花生、マンゴー、グアバ、イチヂク、ブドウ、モモ、ヒマワリ、ひよこ豆、ザクロ、貯蔵穀物など様々な作物への被害が記録されている(Lever, 1987)。					森島委員のご意見 Chrustipher Lever(1987)、日高(1997)、川上(2002)		
12	C分布拡大期 ~まん延期	その他の総合対策種				コウライキジ(大陸産亜種)	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>	III													中国南東部・朝鮮半島原産。種としてはヨーロッパ、北米、ハワイ、オーストラリア等に侵入。	北海道、本州、四国、九州、大隅、奄美、沖縄、先島諸島	草原	狩猟目的で放鳥された。	新たな放鳥は慎むべき。	北海道では生息数減少。2013年、石垣市では農作物被害が拡大(新聞記事)。在来キジとの交雑個体らしき個体も確認されている。				北海道、千葉、愛媛、鹿児島、沖縄		日本生態学会(編)(2002)、川上(2012)	
13	C分布拡大期 ~まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	クロエリセイトカシギ	<i>Himantopus mexicanus</i>	I													アメリカ西・南部、中米~ペルー南西部、ブラジル北西部、インド諸島等原産。	奈良、京都、大阪	湿地、干潟、水田		逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	奈良県で個人によって飼育増殖された個体が故意に多数放鳥された。大阪ではセイトカシギとの交雑が起きている可能性が指摘されている。	要注意			京都		自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)	
14	C分布拡大期 ~まん延期	その他の総合対策種				シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis ssp.</i>	III													台湾原産。八重山諸島ものは在来亜種。	沖縄諸島	林縁、農耕地、草原	ペットとして飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	亜種不明。定着の由来(自然分布、人為分布)が確定していない。		日本	沖縄		自然環境研究センター(編著)(2008)、川上(2012)		
15	C分布拡大期 ~まん延期	その他の総合対策種			未判定	ヒゲガビチョウ	<i>Garrulax cineraceus</i>	IV													中国南部~ミャンマー~インド原産	愛媛、高知	森林	少量だが、ペットとして飼養されることもあると考えられる。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	高知県内では、複数の県立公園内(石工山、横倉山等)で確認情報が報告されている。知見の集積が必要。	未判定					濱田・佐藤(2006)、川上(2012)	

<評価を行ったものの掲載種(案)としなかったもの>

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来 旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害		分布拡大		重要 地域	人体	経済 産業	利用	付着 混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出方法					文献等		
			被害の深さ	繁殖性-実行性					生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	繁殖						気候	原産地や分布	日本での分布				生息環境など	①外来法	②W100	③GISD	④各県		⑤その他	
16	B定着初期/分布限定					コクチョウ	<i>Cygnus atratus</i>				-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	オーストラリア原産	北海道、関東、近畿	湖沼、河川等	愛玩目的で屋外飼育されることが多い。	逸出しないよう、十分な管理が望まれる。	水生生物を幅広く採食するが、生態系への影響は不明。					北海道		Chrutipther Lever(1987)、川上(2012)

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻 度 実効性・実行 可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要 地域	人体	経済 産業	利用	付着 混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等	
								生物 導入	競争	交雑	捕食 摂食	繁殖	気候	原産地や分布						日本での分布	生息環境など	①外来法				②W100	③GISD	④各県	⑤その他			
重点対策種																																
17	C分布拡大 期～まん延 期	重点対 策種	①		旧要注意	アカミミガメ	<i>Trachemys scripta</i>	I	/	/	◎	-	○	-	○	-	-	○	◎	-	北米産。ハワイ、イン ドシナ、インド、ヨー ロッパに侵入。	小笠原を除くほ ぼ日本全国	多様な水域	ペットとして飼養され ることが多い。	逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。	3亜種(ミシシippアカミミガメ <i>T. s. elegans</i> 、キハラ ガメ <i>T. s. scripta</i> 、カンバーランドキミミガメ <i>T. s. troosti</i>)から成る。 ペットとして安価に大量に販売されている。遺棄や逸 走が頻繁に生じていると考えられる。流通等が規制 された場合に大量遺棄が生じないよう事前の対策が 求められる。	要注意	日本・ IUCN	○		北海道、青 森、千葉 愛知、滋 賀、京都、 兵庫、鳥 取、佐賀、 宮崎、熊 本、沖縄	日本生態学会(編) (2002)、自然環境研 究センター(編著) (2008)、谷口・亀崎 (2011)、Kraus (2009)、Lever (2003)、ISSG-GISD、 安川委員
18	C分布拡大 期～まん延 期	重点対 策種	①③			クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>	I	/	○	◎	○	-	○	-	-	-	◎	-	中国、朝鮮半島	北海道、本州、 四国、九州、沖 縄島、久米島、 喜望島でも確 認。	流れの緩やかな 河川や低地の 湖沼	ペットとして飼養され ることが多い。	逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。	本州・四国・九州のものはかつて自然分布と考えら れていたが、現在では18世紀末に導入されたと考え られている。また近年、ペットとして輸入された中国 産の個体が各地で遺棄されている可能性もある。 ニホンシガメとの交雑が野外でも確認されており、 これらの生息地では特に留意が必要。			北海道、青 森、兵庫	足田・鈴木(2010)			
19	D小笠原・南 西諸島	重点対 策種	①②		旧要注意	グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>	IV	/	-	-	○	-	○	-	-	-	◎	-	中南米、西インド諸島	石垣島	森林	ペットとして飼養され ている。	逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。	知見の集積が必要	要注意		○			自然環境研究セン ター(編著)(2008)、 ISSG-GISD、Kraus (2009)、Lever (2003)	

その他の総合対策種																														
20	B定着初期/ 分布限定	その他 の総合 対策種	/		旧要注意	ミナミシガメ	<i>Mauremys mutica mutica</i>	IV	/	○	○	Q	-	○	○	-	-	○	-	中国、台湾、ベトナム	大阪、京都、滋 賀	池沼や低湿地、 小さな水路等	ペットとして飼養され ている。	逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。	八重山諸島に亜種ヤエヤマシガメ <i>M. m. kami</i> が 分布。本亜種の属するシガメ科は属間交雑のおそ れもあるため、特に留意が必要。					日本生態学会(編) (2002)、自然環境研 究センター(編著) (2008)、Ota et al. (2004)
21	B定着初期/ 分布限定	その他 の総合 対策種	/		旧要注意	チュウゴクスッポン	<i>Pelodiscus sinensis sinensis</i>	I	/	○	-	◎	-	○	-	-	-	○	-	ベトナム南部から中 国大陸沿岸部、ロシ ア極東地域	沖縄島以南の 琉球列島	河川の中・下流 域や池、湖沼	水産資源としての価値 が高く、食用や養殖用 に生体の流通が多い。	逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。	ニホンスッポンの同物異名と見なす考えもある。た だし、日本本土の集団と台湾や香港の集団の間には 比較的明確な遺伝的差違があるとされる。知見の 集積が必要。	要注意			北海道、青 森、兵庫	日本生態学会(編) (2002)、自然環境研 究センター(編著) (2008)
22	B定着初期/ 分布限定	その他 の総合 対策種	/			スインホーキノボリカゲ	<i>Japalura swinhonis</i>	IV	/	○	-	○	-	○	-	-	-	○	-	台湾	静岡	森林、林縁、農 耕地、住宅地			輸入植物への混入による侵入と推測されている。知 見の集積が必要。					加藤他(2010)、加藤 他(2013)

<評価をおこなったものの掲載種(案)としなかったもの>

No	定着状況	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻 度 実効性・実行 可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要 地域	人体	経済 産業	利用	付着 混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等
生物 導入	競争	交雑	捕食 摂食	繁殖	気候	原産地や分布	日本での分布	生息環境など	①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他																		
23	A未定着	/	/		ヘミダクティルス・マボウイ ア	<i>Hemidactylus mabouia</i>	/	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	○	-	アフリカ原産、南米等 に侵入。		森林、人家周辺								ISSG GISD、Kraus (2009)、Lever (2003)	
24	A未定着	/	/		ナトリクス・マイア	<i>Natrix maura</i>	/	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	○	-	ヨーロッパ本土原産。 スペインマヨルカ島に 侵入。										ISSG GISD、Kraus (2009)、Lever (2003)	
25	D小笠原・南 西諸島	/	/		ホオグロヤモリ	<i>Hemidactylus frenatus</i>	/	○	-	Q	-	○	○	-	-	-	○	◎	-	南アジア～東南アジ ア原産。世界各地の 熱帯亜熱帯に侵入。	奄美諸島、沖縄 諸島、大東諸 島、先島諸島、 小笠原諸島	人家周辺、農耕 地等	ペットとして飼養され ている。							ISSG GISD、Ota et al. (2004)、高橋 (2005)、Kraus (2009)、Lever (2003)	
26	D小笠原・南 西諸島	/	/		オガサワラヤモリ	<i>Lepidodactylus lugubris</i>	/	○	-	Q	-	○	○	-	-	-	○	◎	-	太平洋、インド洋の熱 帯亜熱帯の島嶼、イン ド、中南米の太平 洋沿岸地域	沖縄島諸島以 南の琉球列島、 小笠原諸島	森林、住宅地等	ペットとして飼養され ている。							Yamashiro et al. (2000)、太田他 (2004)、Ota et al. (2004)、Kraus (2009)、Lever (2003)	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 爬虫類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案) 【国内由来の外来種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻 度 実効性・実行 可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要 地域	人体	経済 産業	利用	付着 混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等
生物 導入	競争	交雑	捕食 摂食	繁殖	気候	分布	問題となっ ている地域	生息環境など	①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他																		
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																															
重点対策種																															
1	X国内由来 の外来種	重点対 策種	①②		琉球列島のニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis japonicus</i>	IV	/	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	本州、四国、九州	大隅諸島、奄美 諸島	池沼、河川	食用、養殖用として持 ち込まれたと考えられ る。	逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。	知見の集積が必要。						日本生態学会(編) (2002)、自然環境研 究センター(編著) (2008)
2	X国内由来 の外来種	重点対 策種	①		九州のオキナワキノボリカ ゲ	<i>Japalura polygonata polygonata</i>	IV	/	-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	奄美諸島、沖縄諸 島。	宮崎県日南市、 鹿児島県指宿 市、屋久島。		ペットとして飼養され ている。		知見の集積が必要。九州南部の個体群については 生態、防除法等についての研究が行われている。				宮崎	太田他(2012)、Jono et al. (2013)、日本 爬虫両棲類学会 (2009)	
3	X国内由来 の外来種	重点対 策種	①③		伊豆諸島のニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>	I	/	○	◎	-	-	○	○	-	-	-	-	-	近畿中・北西部～西 日本と周辺島嶼	八丈島	森林、農耕地、 住宅地			本種の分類が見直され、東日本とロシア沿海州のもの は別種ヒガシニホントカゲ <i>P. finitimus</i> とされた。 八丈島の外来個体群は狭義のニホントカゲ。オカダ トカゲとの交雑が確認されている。					栗山他(2009)、 Okamoto et al. (2013)	
4	X国内由来 の外来種	重点対 策種	②③		沖縄諸島及び宮古諸島の ヤエヤマシガメ	<i>Mauremys mutica kami</i>	I	/	○	-	◎	-	○	○	-	-	-	○	-	石垣島、西表島、与 那国島	沖縄島、阿嘉 島、宮古島等	河川、池沼、湿 地	ペットとして飼養され ている。	逸出には十分な注意を 払い、放逐を厳に慎むべ き。	知見の集積が必要。しばしば野外で個体が確認され、 定着している可能性もあるが、これらの亜種は 確定されていない。					Ota (1999)、安川委 員	
5	X国内由来 の外来種	重点対 策種	②③		沖縄諸島のヤエヤマセマル ハコガメ	<i>Cuora flavomarginata evelynae</i>	I	/	○	◎	-	-	○	○	-	-	-	-	-	石垣島、西表島	沖縄島、宮古 島、黒島等	森林とその周 辺、河川の周 辺、沼沢地、湿 原。			知見の集積が必要。セマルハコガメは国の天然記 念物に指定されている。しばしば野外で個体が確認 され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は 確定されていない。リュウキュウヤマガメとの雑種と 思われる個体も確認されている。					Ota (1999)、安川委 員	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 両生類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国外由来の外来種】

網掛けは、H25年度第2回リスト会議以降に変更した項目 下線は特定外来生物等分類群専門家グループ合会委員からの意見を反映

※緊急的防除種・重点対策種のみ

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度 繁殖可能性 実行可能性	特定外来 旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性										生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等						
								生物	導入	競合	交雑	捕食	摂食	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入				原産地や分布	日本での分布	生息環境など	①外来法	②W100		③GISD	④各県	⑤その他			
定着を予防する外来種(定着予防種)																																			
侵入予防種																																			
1	A未定着	侵入予防種			特定外来	コキーコヤスガエル	<i>Eleutherodactylus coqui</i>	I	○	◎	○	-	◎	◎	○	-	-	○	-	○	-	○	フエルトリコ原産。小アンティル、フロリダ、ハワイ、ガラバゴスに侵入。	-	森林を中心に幅広い環境に生息。	かつてペット等として飼養されていたことがあるが、現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。		海外では貨物などに紛れて移動したと考えられている。導入されたハワイ島では高密度に生息し、観光ホテル等々で鳴き声による騒音被害が発生している。	特定	IUCN	○				自然環境研究センター(編者)(2008)、ISSG-GISD、Beard(2009)、Kraus(2009)、Lever(2003)
2	A未定着	侵入予防種			未判定	オンシツガエル	<i>Eleutherodactylus planirostris</i>	IV	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	大アンティル諸島原産。ジャマイカ、メキシコ、フロリダ、グアム、ハワイ等に侵入。	-	森林、草原、湿地	かつてペット等として飼養されていたことがあるが、現在は輸入・飼養等は規制されている。		知見の集積が必要	未判定		○			ISSG-GISD、IUCN-red list、Kraus(2009)、Lever(2003)		
3	A未定着	侵入予防種					<i>Eleutherodactylus johnstonei</i>	IV	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	小アンティル諸島原産。ベネズエラ、ジャマイカ等に侵入。	-	農耕地、都市、湿地等			知見の集積が必要			○			ISSG-GISD、Kraus(2009)、Lever(2003)		
4	A未定着	侵入予防種			特定外来	キューバズツキガエル(キューバアマガエル)	<i>Osteopilus septentrionalis</i>	I	○	◎	○	-	◎	-	○	-	-	-	-	-	○	キューバ、バハマ等原産。フロリダ、フエルトリコ、小アンティル諸島、ハワイ等に侵入。	-	森林、草原、湿地、住宅地等。	かつてペット等として飼養されていたことがあるが、現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。		皮膚粘液による上位捕食者への影響も考えられる。捕食性が強く、他のカエルも餌とする。	特定						自然環境研究センター(編者)(2008)、ISSG-GISD、Kraus(2009)、Lever(2003)	
その他の定着予防種																																			
5	A未定着	その他の定着予防種			未判定	ヘリグロヒキガエル	<i>Bufo melanostictus</i>	IV	○	◎	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	◎	南アジア~東南アジア	-	森林、草原、農耕地等	かつてペット等として飼養されていたことがあるが、現在は輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	輸入貨物への混入例が確認されている。知見の集積が必要。	未判定						DAFWA(2010)、Kraus(2009)、Lever(2003)	
6	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	特定外来生物のヒキガエル属(オオヒキガエルを除く)	<i>Bufo</i> spp.	IV	○	◎	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	○	北米~南米	-	森林、草原、農耕地等、種によって異なる。	かつてペット等として飼養されていたことがあるが、現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ブレーンズヒキガエル <i>B. cognatus</i> 、キンイロヒキガエル <i>B. guttatus</i> 、アカボシヒキガエル <i>B. punctatus</i> 、オークヒキガエル <i>B. quercicus</i> 、テキサスヒキガエル <i>B. speciosus</i> 、コノハヒキガエル <i>B. typhonius</i> の6種。	特定					北海道、京都	自然環境研究センター(編者)(2008)、第6回特定外来生物等分類群専門家グループ合会(爬虫類・両生類)、Kraus(2009)、Lever(2003)	
7	A未定着	その他の定着予防種			旧要注意	ヨーロッパミドリヒキガエルなどヒキガエル属5種	<i>Bufo</i> spp.	IV	○	◎	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	○	ヨーロッパ、北米、南米	-	森林、草原、農耕地等、種によって異なる。	ペット等の目的で国内で飼育されていたことがある。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ヨーロッパミドリヒキガエル <i>B. viridis</i> 、テキサスミドリヒキガエル <i>B. debilis</i> 、ナンブヒキガエル <i>B. terrestris</i> 、ガルブフーストヒキガエル <i>B. valliceps</i> 、ロコヒキガエル(キヤハンヒキガエル) <i>B. paracnemis</i> の5種。	要注意						自然環境研究センター(編者)(2008)、第2回特定外来生物等分類群専門家グループ合会(爬虫類・両生類)、Kraus(2009)、Lever(2003)	
8	A未定着	その他の定着予防種				アジアジムグリガエル	<i>Kaloula pulchra</i>	IV	○	◎	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	◎	南アジア~東南アジア~中国原産。ボルネオ、スラウェシに侵入。	-	森林、水辺	ペット等の目的で国内で飼育されていたことがある。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	輸入貨物への混入例が確認されている。知見の集積が必要。							DAFWA(2010)、Kraus(2009)、Lever(2003)	
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																																			
緊急的防除種																																			
9	D小笠原・南西諸島	緊急的防除種	①②③⑤		特定外来	オオヒキガエル	<i>Bufo marinus (Rhinella marina)</i>	I, II														北米南部~南米北部	小笠原諸島、大東諸島、先島諸島	森林、農耕地、水路等	害虫駆除のために導入された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、展示等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	互譲からの毒液により、カエルの捕食者が死にすることがある。	特定	日本・IUCN	○		沖縄		日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、Kidera & Ota(2009)、Kraus(2009)、Lever(2003)、ISSG-GISD	
重点対策種																																			
10	B定着初期/分布限定	重点対策種	①③			チュウゴクオオサンショウウオ	<i>Andrias davidianus</i>	I														中国	京都	河川	かつて食用に輸入されたといわれているが詳細は不明。		遺伝子浸透によるオオサンショウウオへの影響							松井(2005)	
11	C分布拡大期~まん延期	重点対策種	①③		特定外来	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana (Lithobates catesbeianus)</i>	I														北米原産。メキシコ、大アンティル諸島、ヨーロッパ、東南アジア、中国、台湾等に侵入。	北海道南部以南の日本列島のほぼ全域	池沼	かつて食用に輸入され、養殖されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、学校教材等で許可を受けた個体が多数飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	カエルツボカビ症・ランウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。小笠原諸島では根絶された。	特定	日本・IUCN	○			北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、宮崎	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、Kraus(2009)、Lever(2003)、ISSG-GISD	
12	D小笠原・南西諸島	重点対策種	①②③		特定外来	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	I, II														南アジア~東南アジア	与論島、沖縄諸島、宮古諸島、石垣島、北大東島	森林、農耕地、住宅地	かつてペットとして飼養されていたこともあるらしい。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	外来の寄生虫が確認されている。	特定	日本					日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、Kraus(2009)、Lever(2003)	
その他の総合対策種																																			
13	B定着初期/分布限定	その他の総合対策種			旧要注意	アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	IV														アフリカ中南部	千葉、静岡、和歌山	池沼	実験動物、ペットとして大量に飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	カエルツボカビ症・ランウイルス症病原体を媒介すると指摘されているが、評価未了。鯉養殖場でコイの幼魚が食べられる被害。	要注意					千葉	自然環境研究センター(編者)(2008)、小林・長谷川(2005)、光岡他(2011)	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 両生類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国内由来の外来種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度 繁殖可能性 実行可能性	特定外来 旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性										生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等					
								生物	導入	競合	交雑	捕食	摂食	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入				分布	問題となっている地域	生息環境など	①外来法	②W100		③GISD	④各県	⑤その他		
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																																		
重点対策種																																		
1	X国内由来の外来種	重点対策種	①②			伊豆諸島などのアズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	I														鳥根半島、鳥取県、近畿地方北部、志摩半島-紀伊半島中部、中部地方以東。	北海道、佐渡、伊豆諸島	森林、農耕地、草原、公園等			八丈島では駆除が実施されている。							日本生態学会(編)(2002)
2	X国内由来の外来種	重点対策種	①			関東以北及び島に侵入したスマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>	IV															本州中部以西、四国、九州、奄美諸島、沖縄諸島、台湾、中国	関東、長崎(島嶼部)ただし種子島	水田、河川敷等			カエル類の中で近年の侵入が最も頻繁に生じている種であり注意を要する。知見の集積が必要。					千葉	福山他(2010)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 魚類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国外由来の外来種】

網掛けは、H25年度第2回リスト会議以降に変更した項目 下線は特定外来生物等分類群専門家グループ会合委員からの意見を反映

※緊急的防除種・重点対策種のみ

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻性 採種・実行可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性										生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等							
								生物	導入	競合	交雑	捕食	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	原産地や分布				日本での分布	生息環境など	①外來法	②W100	③GISD		④各県	⑤その他					
侵入予防種																																				
1	A未定着	侵入予防種		未判定	ブラウンブルヘッド	<i>Ameiurus nebulosus</i>	IV	○	-	-	-	◎	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部	-	河川緩流域の低質が柔らかい場所、湖沼に生息。	霞ヶ浦などで定着しているチャネルキャットフィッシュと原産地の分布域が重なるため、同様の環境への放流は厳に慎むべき。	アメリカでは移入された湖の在来のトゲウオを駆逐した例がある。	未判定		○				Wydoski and Whitney (2003), Etnier and Sstarnes (1993), Boschung and Mayden (2004), GISD data sheet		
2	A未定着	侵入予防種		未判定	フラットヘッドキャットフィッシュ	<i>Pylodictis olivaris</i>	I, IV	○	-	◎	-	◎	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部、中部	-	倒木や枯れ枝が沈んでいる池の斜面が緩やかな場所を好む。		アメリカでは本種が侵入した水域で、同科の在来ナマズ類やザリガニ類などの減少が見られている。	未判定		○				Boschung and Mayden (2004), Etnier and Sstarnes (1993), Wydoski and Whitney (2003)		
3	A未定着	侵入予防種			ホワイトパーチ	<i>Morone americana</i>	IV	○	-	○	-	◎	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ北東部の沿岸地域	-	中・大規模河川の止水部分や池に生息。主に汽水域に生息するが、淡水域にも生息している。		肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アメリカの各地で本種が在来種の卵を捕食することによる影響が報告されている。塩分耐性が強く、海を通過して水系を超えた移動が可能。			○				Werner (2004), GISD data sheet		
4	A未定着	侵入予防種		未判定	ラッフ	<i>Gymnocephalus cernuus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	◎	-	-	-	○	-	-	-	-	イギリスからロシア、中国までのユーラシア大陸	-	低地から高地までの河川、富栄養湖。大河川の河口や汽水湖に多い。		イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来種の減少などの悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生きる。	未判定		○				Kotteat and Freyhof (2007), Lever (1996), GISD data sheet		
5	A未定着	侵入予防種			ラウンドゴビー	<i>Neogobius melanostomus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	アゾフ海、黒海、カスピ海流域	-	大河川の汽水域や湖沼、湾などの底質が砂や岩である浅瀬を好む。		アメリカの五大湖などで、産卵環境や餌の競合、卵の食害などによって、在来種の減少を引き起こしている。			○				Kotteat and Freyhof (2007), GISD data sheet		
その他の定着予防種																																				
6	A未定着	その他の定着予防種			ガー科	<i>Atractosteus, Lepisosteus</i> の全種	I, IV	○	○	-	-	○	-	○	-	-	-	◎	-	-	-	-	中央アメリカから北米、カナダ	-	河川(汽水-淡水域)、湖沼	一般的な観賞魚として多く流通している。一部の種は比較的安価に種魚が販売されている。	ガー類は大型になるため、飼いきれなくなる可能性がある。野外への放流は厳に慎むべき。	魚類学会意見：国内で遺棄された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、得米、繁殖に成功した場合、急速に増加するおそれがあるため、評価対象種に含めるべきである。							魚類学会	Etnier and Sstarnes (1993), Goldstein et al. (2000), Boschung and Mayden (2004), 自然環境研究センター(編著)(2008)
7	A未定着	その他の定着予防種			レッドホースミノー	<i>Cyprinella lutrensis</i>	I	○	◎	◎	-	○	-	◎	-	-	-	◎	-	-	-	-	アメリカ中央南部から中央北部	-	河川中流域の底が砂泥や岩の池や水路に生息。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に流通している。	温帯性であるため、特に本州中部以南では野外への放流は厳に慎むべき。	海外では近縁種と雑種を伴うことによる希少種の減少を引き起こしている。ただし、日本に同属種はいない。			○				Etnier and Sstarnes (1993), Boschung and Mayden (2004), GISD data sheet	
8	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種			オリノコセイルフィンキャットフィッシュ	<i>Pterygoplichthys multiradiatus</i>	I	○	○	◎	-	○	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	オリノコ川流域	-	河川、湖沼の泥で水草が生える水域に生息する。	セイルフィンプレコなどの名前で複数種が流通している可能性があり、本種がこれに含まれる可能性がある。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	インドやプエルトリコでは本種が在来種の減少を引き起こした例が知られている。			○				FishBase, GISD data sheet	
9	A未定着	その他の定着予防種		旧要注意	ヨーロッパナマズ	<i>Silurus glanis</i>	I	○	○	○	○	◎	-	◎	-	-	-	◎	-	-	-	-	中央・東ヨーロッパ	-	大きな湖や河川に生息し、汽水域に入ることもある。	観賞魚として比較的安価に大量に流通している。	非常に大型になるため、飼いきれなくなる危険がある。野外への放流は厳に慎むべき。	ヨーロッパの侵入地では在来種の減少を引き起こしたとされている。在来の同属種との交雑も懸念されている。在来の同属種と交雑のおそれがあるため、これらの生息域では特に侵入に留意が必要。	要注意							自然環境研究センター(編著)(2008), Kotteat and Freyhof (2007)
10	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	ノーザンバイク	<i>Esox lucius</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	アメリカ北部、カナダ、ヨーロッパ、アジア北部	-	河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	アメリカのデービス湖では捕食や競争により在来魚類に影響を与えた事例がある。寿命が最長24年と長い。	特定		○				佐賀	自然環境研究センター(編著)(2008), Etnier and Sstarnes (1993), Kotteat and Freyhof (2007)
11	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	マスキーバイク	<i>Esox masquinongy</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ北東部とカナダ南東部	-	河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として飼養されていた。特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。		ウィスコンシン州の湖では同所的に生息するオオクチバスを駆逐するなどの被害が確認されている。寿命が最長30年と長い。	特定						佐賀	自然環境研究センター(編著)(2008), Boschung and Mayden(2004), Kotteat and Freyhof (2007)
12	A未定着	その他の定着予防種		未判定	バイク科	<i>Esocidae spp.</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ大陸とユーラシア大陸の北部	-	河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。	かつては観賞魚として流通していた種もある。現在は輸入等が規制されている。		マスキーバイクやノーザンバイクと同じ科に属し、生態が似ているためにこれらの種と同様の影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。	未判定						佐賀	自然環境研究センター(編著)(2008), Etnier and Sstarnes (1993), Wydoski and Whitney (2003)
13	A未定着	その他の定着予防種		未判定	ガンブシア・ホルブローキ	<i>Gambusia holbrooki</i>	I, IV	○	-	◎	-	◎	○	◎	-	-	-	-	○	-	-	-	アメリカ東部の沿岸地域	-	主に水田地帯などの流れの無い用水路に生息するが、河川本流や湖沼にも生息。	観賞魚としてごく稀に流通している。輸入等は規制されている。	カダヤンと生態がほぼ同じであり、野外に放流するとカダヤン同様に広まる危険があるため、注意を要する。野外への放流は厳に慎むべき。	オーストラリアでは希少種を含む在来魚の卵や仔稚魚の捕食、攻撃が確認されており、これらの減少につながっている。卵胎生。	未判定		○					自然環境研究センター(編著)(2012), Kotteat and Freyhof (2007)
14	A未定着	その他の定着予防種		旧要注意	ナイルパーチ	<i>Lates niloticus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	○	-	-	-	◎	-	-	-	-	西アフリカからナイル川流域	-	湖、河川緩流域、水路などに生息し、湖では沿岸部に分布する。	一般的な観賞魚として、広く普及しており、価格も安価で比較的普通に流通している。	非常に大型になるため、遺棄の危険性が高く、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アフリカの湖で在来のシクリッド200種以上が絶滅した事例がある。	要注意		○					自然環境研究センター(編著)(2008), Goldstein et al. (2000), Lever (1996)
15	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	ストライプトバス	<i>Morone saxatilis</i>	I	○	-	○	-	◎	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	アメリカ大西洋岸とカナダのセントローレンス川流域	-	内湾や河口域に生息し、産卵のために河川を遡上する。	本種そのものの利用はほぼ無いが、本種と同じく特定外来生物であるホワイバスとの雑種がストライパーとして国内の管理釣り場で利用されている。雑種も特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	雑種同士では繁殖出来ないが、長寿命であるため捕食や競合による影響を長期間与える可能性があり、雑種も野外への放流は厳に慎むべき。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のデービス湖では駆除対象となっている。	特定							自然環境研究センター(編著)(2008), Boschung and Mayden(2004), Etnier and Sstarnes (1993), Wydoski and Whitney (2003)
16	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	ホワイバス	<i>Morone chrysops</i>	I	○	-	○	-	◎	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部とカナダのセントローレンス川流域	-	河川緩流域や湖沼に生息し、産卵のために河川を遡上する。	本種そのものの利用は無いが、本種と同じく特定外来生物であるホワイバスとの雑種がストライパーとして国内の管理釣り場で利用されている。雑種も特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	雑種同士では繁殖出来ないが、長寿命であるため捕食や競合による影響を長期間与える可能性があり、雑種も野外への放流は厳に慎むべき。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のカウエア湖とその下流では駆除対象となっている。	特定							自然環境研究センター(編著)(2008), Boschung and Mayden(2004), Etnier and Sstarnes (1993), Wydoski and Whitney (2004)

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度 繁殖性・実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	生態的特徴										利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等					
								定着可能性 生物 導入	生態系被害 競合 交雑	分布拡大 捕食 摂食	繁殖 気候	重要地域 人体	経済産業 利用	付着混入	原産地や分布	日本での分布	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他						
17	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	ケツギョ	<i>Siniperca chuatsi</i>	I	○	-	○	-	◎	-	◎	-	-	-	○	-	アムール川水系、中国	河川緩流域や湖沼に生息。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	中国では養殖池に紛れ込んだ場合に他種を捕食する害魚とされている。	特定						自然環境研究センター(編著)(2008)、土井・青山茂(2004) Doi et al.(2004)
18	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	コウライケツギョ	<i>Siniperca scherzeri</i>	I	○	-	○	-	◎	-	◎	-	-	-	○	-	中国、朝鮮半島、ベトナム	河川や湖沼に生息し、ケツギョよりも流れのある場所を好む。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。		特定					自然環境研究センター(編著)(2008)、土井・青山茂(2004) Doi et al.(2004)	
19	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	ヨーロッパアンバーチ	<i>Perca fluviatilis</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	◎	-	-	-	-	ヨーロッパとアジア北部	河川緩流域、湖沼などに生息し、木の根が張り出したり水草が豊富な場所を好む。			オーストラリアで競合によって在来の希少種を絶滅させた事例がある。スベインのダムでも外来種を含む魚類を減少させた例がある。最長10年生きる。	特定		○			Kottelat and Freyhof (2007), Lever (1997), GISD data sheet		
20	A未定着	その他の定着予防種		特定外来	バイクパーチ	<i>Sander lucioperca</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	◎	-	-	-	-	ヨーロッパ中央部から西アジア	河川緩流域や湖沼に生息し、深みのある静穏な水域を好む。汽水域にも生息。			トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例がある。デンマークやスベインなどのヨーロッパ諸国で在来のカワカマス科魚類などの減少を引き起こしていると考えられる。最長16年生きる。	特定					Kottelat and Freyhof (2007), Lever (1998), Invasive Species Compendium HP		
21	A未定着	その他の定着予防種			スポッテッドティラピア	<i>Tilapia mariae</i>	I,IV	○	-	◎	-	○	○	○	-	-	-	○	-	アフリカ大陸西部のギニア湾周辺諸国	沿岸域の沼や河川下流域に生息。	国内ではほとんど流通していない。	餌や産卵基質を巡る競争により在来種に悪影響を及ぼしている。巣で親魚が卵と仔魚を保護する。	特定		○			FishBase, GISD data sheet		
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																															
緊急的防除種																															
22	C分布拡大期 ~まん延期	緊急的防除種	①②③⑤	特定外来	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマス)	<i>Ictalurus punctatus</i>	I												アメリカ、カナダ南部、メキシコ	福島、霞ヶ浦、北浦、利根川水系(茨城、栃木、埼玉、千葉、東京)、琵琶湖(滋賀)、愛知、岐阜、島根	河川下流、湖沼などの流れが緩やかな場所に生息。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているものもある。茨城県霞ヶ浦や岐阜県下小島ダムで養殖されている。地域の名物として利用されている。この他、展示用の利用も少数ある。	養殖地から自然水域に逸出させてならない。	霞ヶ浦ではイサザアミやハゼ類などの水産利用種を捕食し、これらの漁獲高を減少させている。ヒシにある鋭い棘で漁業者がけがをする被害がある。	特定					熊本	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、石川ほか(編)(2013)
23	C分布拡大期 ~まん延期	緊急的防除種	①②③⑤	特定外来	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	I,II												カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部	全国	主に流れの緩やかな河川下流域や湖沼に生息。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が主に展示用として多く利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	捕食や競争により国内各地で在来種を駆逐し、優占種となっている。卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長10年以上。	特定	日本			北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、佐賀、熊本	川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)	
24	C分布拡大期 ~まん延期	緊急的防除種	①②③⑤	特定外来	コクチバス	<i>Micropterus dolomieu</i>	I												カナダ南部、アメリカ中東部	青森から和歌山までの山梨を除く19都道県	主に湖沼に生息するが、流れのある河川にも見られる。オオクチバスよりも流水域に適応できる。	かつては管理釣り場で利用されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。定着している湖などでは釣魚となっている。この他、許可を受けた個体が展示用に利用されている。	生息水域から逸出させないよう注意が必要。	南アフリカでは在来種を捕食し、在来種の多くが見られなくなった例がある。ハワイでも在来種はもとより、オオクチバスやブルーギルを含む魚類を駆逐した。国内でも分布を拡大しており、オオクチバスより低温や流れに強いため、より上流域での捕食や競合の被害が懸念されている。卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長15年。	特定	日本			滋賀、京都、佐賀	Lever (1996)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Woodford et al.(2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)	
25	C分布拡大期 ~まん延期	緊急的防除種	①②③④⑤	特定外来	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	I,II												カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部	北海道を除く全国	主に湖沼や河川下流域など、止水域や流れの緩やかな場所に生息。	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているものもある。一部の管理釣り場や湖でスポーツフィッシングに利用されている。山中湖などでは漁業権が免許され、放流も行われている。この他、展示用の利用もある。	生息水域から逸出させないよう注意が必要。	国内各地で捕食や競合により、在来種と置き換わるなど、在来魚類群集に様々な影響を及ぼしている。卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長10年以上。	特定	日本・IUCN	○		青森、千葉、滋賀、京都、鳥取、佐賀、熊本	Lever (1996)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)	
重点対策種																															
26	C分布拡大期 ~まん延期	重点対策種	①②③	旧要注意	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	I,II												中国、朝鮮半島、台湾	北海道、本州、四国、九州	河川下流域、湖沼、水路	一般的な観賞魚として大量に流通している。また、釣魚でもある。	産卵母貝となるインガイ科二枚貝のタナゴの繁殖期の移植を控える等配慮が必要	ニッポンバラタナゴとの交雑が進行しているため、これらの生息範囲では本種の侵入に特に留意が必要	要注意	日本			青森、千葉、滋賀、京都、鳥取、愛媛、佐賀、熊本	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、水野・細谷(監修・編)(2001)、Kawamura et al.(2001)	
27	C分布拡大期 ~まん延期	重点対策種	①③	特定外来	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	I												アメリカ南東部	福島以南の本州、四国、沖縄、小笠原	主に水田地帯などの流れの無い水路に生息するが、河川本流や湖沼にも生息。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が主に展示用として利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	メダカの生息地に本種が侵入した場合、メダカが減少し、カダヤシに置き換わってしまうケースがある。卵胎生。	特定	日本・IUCN	○		滋賀、京都、佐賀、熊本	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds.(2012)	
その他の総合対策種																															
28	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種		旧要注意	オオタナゴ	<i>Acheliognathus macropterus</i>	I												中国、朝鮮半島、アムール川	霞ヶ浦、北浦、利根川水系の千葉、埼玉、栃木(渡良瀬)に分布拡大中。	湖、水路の沿岸から沖合まで	観賞魚として比較的多く流通している。また、釣魚でもある。	淡水真珠養殖用のヒレケチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性がある。産卵母貝となるインガイ科二枚貝のタナゴの繁殖期の移植を控える等配慮が必要	茨城県霞ヶ浦、北浦に移入。在来種との交雑の恐れがあるため、これらの生息域では特に侵入に留意が必要。知見の集積が必要	要注意				滋賀	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、萩原(2011)、藤澤・高岡(2007)、侵入生物DB、http://www.gef.or.jp/aotivity/ecosystem/tana go/ootanago2007.pdf	
29	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種		旧要注意	ソウギョ	<i>Otenopharhyngodon idellus</i>	I												中国、アムール川	東北から九州(自然繁殖は利根川・江戸川水系のみ)	河川下流域、湖沼	除草目的や釣魚として河川・湖沼、公園などに放流されている。また、観賞魚としてアルビノ個体などが比較的普通に流通している。釣魚でもある。	本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。	<i>Otenopharhyngodon idella</i> としてGISD、利根川・江戸川水系、霞ヶ浦・北浦に定着。繁殖は利根川等大規模河川に限られる	要注意	日本	○		滋賀、愛媛、熊本	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)	
30	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種		旧要注意	アオウオ	<i>Mylopharyngodon piceus</i>	I,IV												中国、アムール川	自然繁殖は利根川・江戸川水系のみ、樺山湖、岡山	河川下流域、湖沼	観賞魚としてごく少量が流通している。釣魚でもある。	本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。	本種の繁殖には利根川のような大河川が必要。海外ではスクミンゴガイなどの外来種の貝類の除去に利用されている例もある。知見の集積が必要	要注意					自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度	対策の深刻度	対策の発生可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	生態的特徴										利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等						
										定着可能性	生態系被害	分布拡大	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	原産地や分布	日本での分布				生息環境など	①外來法	②W100	③GISD	④各県		⑤その他					
31	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種	/	/	/		コクレン	<i>Aristichthys nobilis</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国、アムール川	自然繁殖は利根川・江戸川水系のみ、淀川	河川下流域、湖沼	観賞魚として少量が流通している。釣魚でもある。野外への放流は厳に慎むべき。	本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。	Hypophthalmichthys nobilisとしてGISD。繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。							魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds(2012)		
32	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種	/	/	/		ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国、アムール川	自然繁殖は利根川・江戸川水系淀川水系のみ、北海道と沖縄を除く国内各地	河川下流域、湖沼、水路	観賞魚として少量が流通している。釣魚でもある。	本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。	繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。						魚類学会	瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds(2013)			
33	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種	/	/	/		ベヘレイ	<i>Odontesthes bonariensis</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル南部	丹沢湖、霞ヶ浦、北浦	湖に生息。適水温は10-28℃だが、冬期に5℃程度になる場所でも生息できる。	管理釣り場などで放流されることがある。養殖もされている。丹沢湖で野生化しているものは地域の名物として食用に利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	知見の集積が必要。魚類学会意見：霞ヶ浦・北浦では沖合生態系の優占種となるほど増殖しており、生態系に影響を及ぼしていると言われている。ワカサギやシラウオ等への漁業被害も懸念される。他水域への拡散を防ぐ意味でもリストに掲載すべきである。							魚類学会	瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、春日(2001)、侵入生物DB		
34	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種	/	/	/	旧要注意	カフスマズメ	<i>Oreochromis mossambicus</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	モザンビークから南アフリカのアルゴア湾にかけての南東部	北海道、鹿児島、南西諸島	河川下流域や湖沼などの流れの緩やかな場所に好んで生息。	少数が養殖されている。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	世界の熱帯・亜熱帯の河川や湖沼では競争により在来種や淡水魚を駆逐した例があるほか、付着藻類、テリトリア底生動物などを食して食物網の基盤を改造している。局所的に長期間にわたって定着。マウスブルーダー。最長寿命は11年。定着は、国内の亜熱帯地域のほかは、温泉水や温排水などのごく一部に限られる。	要注意	IUCN					魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、北海道ブルーリスト		
35	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種	/	/	/	旧要注意	ナイルティラピア	<i>Oreochromis niloticus</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アフリカ大陸西部、タンガニカ湖以北のナイル川水系、イスラエルのヤルコン川	南日本の温泉水や工場排水で温暖な水域、南西諸島	河川緩流域、湖沼、ダム湖、河口域などに生息。	少数が養殖されている。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に注意が必要。	世界の熱帯・亜熱帯域では競争により在来種を駆逐した例があるほか、付着藻類、テリトリア底生動物などを食して食物網の基盤を改造している。マウスブルーダー。寿命は約7年。鹿児島県(池田湖)、沖縄、小笠原等に移入。局所的に長期間にわたって定着。	要注意			愛知、熊本			魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)		
36	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種	/	/	/		ジルティラピア	<i>Tilapia zillii</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アフリカ大陸赤道以北、パレスチナ	滋賀、鹿児島、南西諸島	河川緩流域、湖沼などに生息。多様な環境に生息し、水温や塩分濃度に対してきわめて広い適正を示す。										魚類学会	瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、GISD data sheet		
37	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/		ソードテール	<i>Xiphophorus hellerii</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	メキシコ、グアテマラ、ペルー、ホンジュラス	山梨、沖縄島、久米島	比較的流れの速い河川から水路や池などいろいろな場所に生息している。	一般に広く知られた観賞魚の代表であり、大量に流通している。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	本州では温泉水に局所的に定着。沖縄では1960年代から定着。知見の集積が必要。魚類学会意見：沖縄島では河川で増加し、在来魚種への影響が懸念されていることから、リストに掲載すべきである。							魚類学会	嶋津(2013)、Kottelat and Freyhof(2007)、Miller(2005)		
38	C分布拡大期～まん延期	その他の総合対策種	/	/	/	旧要注意	カラドジョウ	<i>Paramisgurnus dabryanus</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国、朝鮮半島	宮城、埼玉、茨城、栃木、静岡県、長野、香川	水田や周辺の農業用水路に生息。	食用や観賞魚等の餌用として流通している。	在来のドジョウに酷似するため、気づかれずに放流されることがある。	ドジョウとカラドジョウが混在する水域で、後者が優占する場所も知られている。遺伝的攪乱が心配される。また、正常な繁殖相手を選る競争が生じており、その影響が懸念される。知見の集積が必要。	要注意				愛知、愛媛			魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、清水・高木(2010)	
39	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/		パールダニオ	<i>Danio albolineatus</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ミャンマー、タイ、ラオス、マレー半島、スマトラ	沖縄島北部	丘陵地の水のきれいな小川や河川下流を好む。日本ではため池に生息。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に流通している。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	沖縄でのみ定着。知見の集積が必要。魚類学会意見：定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることを確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧されるため、評価対象種とすべき。							魚類学会	瀬能・松沢(2008)、Ishikawa and Tachihara(2013)		
40	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/		ゼブラダニオ	<i>Danio rerio</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	インド、パキスタン、ネパール、バングラディッシュ、ミャンマー	沖縄島北部	丘陵地の緩流や淀み、日本ではため池に生息。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に流通している。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	沖縄でのみ定着。知見の集積が必要。魚類学会意見：定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることを確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧されるため、評価対象種とすべき。							魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、Ishikawa and Tachihara(2013)		
41	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/		アカヒレ	<i>Tanichthys albonubes</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国広東省、ベトナム	沖縄	清涼な河川緩流域の水草のある場所に生息。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に流通している。	温帯性であるため、特に、本州中部以南では野外への放流は厳に慎むべき。	沖縄でのみ定着。知見の集積が必要。魚類学会意見：定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることを確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧されるため、評価対象種とすべき。							魚類学会	山崎・阿部(2007)、吉野・岩崎(2004)、Ishikawa and Tachihara(2013)		
42	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/	旧要注意	マダラロカリヤ	<i>Pterygoplichthys disjunctus</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	マデライ川流域	沖縄島	原産国では氾濫原などに生息。日本では河川や湖沼生活排水で汚染された水域にも生息。	観賞魚として大量に流通している。	特に、南西諸島や温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	知見の集積が必要。魚類学会意見：マダラロカリヤとされているものの中に本種が含まれている可能性が高いため、評価対象に含めるべき。	要注意							魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、GISD data sheet、USGS NAS	
43	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/		スノープレコ	<i>Pterygoplichthys anisitsi</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ブラグアイ、ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン	沖縄島?	氾濫原や湖沼、河川緩流域に生息。	観賞魚として大量に流通している。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	知見の集積が必要。魚類学会意見：沖縄島でマダラロカリヤとされているものの中に本種が含まれている可能性が高いため、評価対象に含めるべき。							魚類学会	FishBase、GISD data sheet		
44	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/		アマゾンセイルフィンキャットフィッシュ	<i>Pterygoplichthys pardalis</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	アマゾン川中下流域	沖縄島?	河川、湖、湿地	セイルフィンプレコなどの名前が複数種が流通している可能性があり、本種がこれに含まれる可能性がある。	特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	海外では同属種が繁殖行動による濁り等の水質の悪化や水底の植生の破壊し、それに伴う在来種の生息環境悪化と減少を引き起こしている。知見の集積が必要。魚類学会意見：沖縄島でマダラロカリヤとされているものの中に本種が含まれている可能性が高いため、評価対象に含めるべき。									魚類学会	FishBase、GISD data sheet
45	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/	旧要注意	ウォーキングキャットフィッシュ	<i>Clarias batrachus</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	東南アジア、インド	沖縄島	湖沼、水田、河川緩流域、運河、湿地などに生息し、汽水域にも侵入する。	観賞魚として安価に大量に流通している。	比較的大型になるため、飼いきれなくなる危険がある。特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	東南アジアやアメリカ南部では捕食や競争により魚類や甲殻類、カエル類を駆逐しており、特に乾季で水域が狭まった際に影響が大きくるとされる。沖縄島に定着しているヒレナマスは本種の可能性がある。	要注意	IUCN							魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)
46	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種	/	/	/		ヒレナマス	<i>Clarias fuscus</i>	I,IV	/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国、台湾、フィリピン、ベトナム、ラオス	沖縄島、石垣島	河川下流域や湖沼など流れの緩やかな水域を好む。	観賞魚として安価に大量に流通している。	比較的大型になるため、飼いきれなくなる危険がある。野外への放流は厳に慎むべき。	沖縄島、石垣島に移入。1960年代に石垣島へ輸入。沖縄島では1985年に南風原町で記録。知見の集積が必要。									魚類学会	瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)
47	B定着初期/限定分布	その他の総合対策種	/	/	/	旧要注意	カワマス	<i>Salvelinus fontinalis</i>	I	/	/	/	/	/	/	/	/	/	カナダ、アメリカ東部	北海道、栃木、長野	平地から高地の河川や湖沼の冷水域に生息。	古くから大量に養殖・放流がなされている。複数の都道府県で漁業種魚種として免許されている。また、管理釣り場の利用も多い。	北海道や長野県などで定着しており、定着はごく一部であるが、いったん定着すると在来種との競合が生じるため、これ以上の分布拡大をしないよう注意が必要。	定着はごく一部の地域に限られる。20年以上前から確認。北海道や長野県では在来のイワナやアマスなどの種と区別が難しく、混同されることがある。混同は遺伝子攪乱の危険を生じることが報告されている。ただ、正常な繁殖の機会が失われ、存続しない種個体群が生じることによる在来種への影響が懸念される。定着できる地域が北海道や寒冷地に限られるため、対策を優先的に行う地域を選定して実施するのが効果的である。漁業種が認められている地域もあるため、防除を行う際は確認する必要がある。	要注意					北海道、滋賀			魚類学会	自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、侵入生物DB

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度 繁殖性・実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	生態的特徴											利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等								
								定着可能性	生物導入	生態系被害	分布拡大	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	原産地や分布	日本での分布				生息環境など	①外來法	②W100	③GISD	④各県		⑤その他							
48	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種		旧要注意	グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	I																												自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds.(2012)
49	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種			インディアングラスフィッシュ	<i>Pseudambassis ranga</i>	I																											瀬能・松沢(2008)	
50	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種			コンウヰクトシクリッド	<i>Cichlasoma nigrofasciatum</i>	I																											瀬能・松沢(2008)、Page and Burr(1991)、Allen et al.(2002)	
51	D小笠原・南西諸島	その他の総合対策種			ブルーティラピア	<i>Oreochromis aureus</i>	I																											Kotteat and Freyhof(2007)、FishBase、GISD data sheet	

適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

52	B定着初期/限定分布	産業管理外来種			レイクトラウト	<i>Salvelinus namaycush</i>	I																											自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Ruzychi et al.(2003)、侵入生物DB	
53	C分布拡大期～まん延期	産業管理外来種		旧要注意	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	I																											自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、侵入生物DB	
54	C分布拡大期～まん延期	産業管理外来種		旧要注意	ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>	I																												自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds(2012)、中田ほか(2006)、侵入生物DB、鷹見ほか(2002)

<評価をおこなったものの掲載種(案)としなかったもの>

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度 繁殖性・実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	生態的特徴											利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等							
								定着可能性	生物導入	生態系被害	分布拡大	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	原産地や分布	日本での分布				生息環境など	①外來法	②W100	③GISD	④各県		⑤その他						
55	A未定着			旧要注意	マーレーコッド	<i>Maccullochella peelii</i>																												自然環境研究センター(編著)(2008)、Pusey et al.(2004)
56	A未定着			旧要注意	ゴールデンパーチ	<i>Macquaria ambigua</i>																												自然環境研究センター(編著)(2008)、Pusey et al.(2005)
57	A未定着				コブラスネークヘッド	<i>Channa marulius</i>																												FishBase、GISD data sheet
58	B定着初期/限定分布				ヒメドジョウ	<i>Lefua costata</i>																												瀬能・松沢(2008)、大浜ほか(2011)、清水・高木(2010)
59	B定着初期/限定分布			旧要注意	コウタイ	<i>Channa asiatica</i>																												自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)
60	B定着初期/限定分布			旧要注意	タイワンドジョウ	<i>Channa maculata</i>																												自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)
61	C分布拡大期～まん延期				タウナギ	<i>Monopterus albus</i>																												瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Matsumoto et al.(2009)

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度 繁殖性・実行可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要 地域	人体	経済 産業	利用	付着 混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等		
								生物	導入	競争	文種	捕食 摂食	繁殖	気候						原産地や分布	日本での分布	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他			
62	C分布拡大期 ～まん延期				旧要注意	タイリクスズキ	<i>Lateolabrax</i> sp.				○	○	○	-	◎	-	-	-	-	-	黄海、渤海沿岸、東シナ海の中国大陸沿岸	福島以南の太平洋沿岸、瀬戸内海、秋田、福井	沿岸域から河口域に生息するが、淡水域への指向性が強く河川に遡上する。	養殖対象として利用されている。	生簀養殖では自然水域に逸出しないよう注意が必要。	スズキと分布の重複する朝鮮半島で雑種は見つかっていないが、人工的には容易に雑種を作れる。知見の集積が必要。					愛媛		自然環境研究センター(編著)(2008)
63	C分布拡大期 ～まん延期				旧要注意	カムルチー	<i>Channa argus</i>				○	-	○	○	◎	-	-	-	-	-	アムール川から長江までの中国、朝鮮半島	北海道、本州、四国、九州	主にため池やクレークなどの止水域に生息し、特に水草が豊富な水域を好む。	少量だが観賞魚として流通している。	野外への放流は厳に慎むべき。	新魚が卵や仔魚を保護する。知見の集積が必要。			○	青森、愛媛、熊本		瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 魚類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

網掛けは、H25年度第2回リスト会議以降に変更した項目 下線は特定外来生物等分類専門家グループ会合委員からの意見を反映

※緊急的防除種・重点対策種のみ

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 ※ 被害の深刻度 侵入性・実行可能性	特定外来種/留意種	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等			
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖	気候						分布	問題となっている地域	生息環境など				①外来種	②W100	③GISD	④各県	⑤その他				
1	X国内由来の外来種	その他の総合対策種			琵琶湖・淀川以外のハス	<i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i>	I	-	-	○	◎	○	○							琵琶湖淀川水系、福井県三方湖	関東、北陸地方、濃尾平野、中国地方、九州	ダム湖など大きな遊水池、湖沼、湖沼と結合した河川、大型河川												井原ほか(2011)、川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、野内ほか(2008)
2	X国内由来の外来種	その他の総合対策種			東北地方などのモツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	I, II	-	-	◎		○	◎							関東地方以西の本州、四国、九州	北海道、東北地方、沖縄県	湖、池沼、それに続く細流、河川下流域、泥底の淀み	観賞魚の餌用などとして比較的普通に流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	シナイモツゴ生息地に侵入後、シナイモツゴを駆逐して優占種となっている。雑種は不純であり、遺伝子攪乱はないものの、繁殖に関する観点により正常な繁殖が阻害されることで影響を及ぼしている。								川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、西田(2001)	

<評価をおこなったものの掲載種(案)としなかったもの>

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 ※ 被害の深刻度 侵入性・実行可能性	特定外来種/留意種	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等	
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖	気候						分布	問題となっている地域	生息環境など				①外来種	②W100	③GISD	④各県	⑤その他		
3	X国内由来の外来種				コイ	<i>Cyprinus carpio</i>		-	-	○	○	○	○							本州・四国・九州に広く自然分布すると考えられている	自然分布との区別が困難	大きな河川の中下流域から汽水域、湖、池沼	重要な食用魚として、古くから移植が盛んに行われてきている。	野外に放流しないよう注意が必要。	在来集団に対する遺伝的攪乱							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、GISD data sheet
4	X国内由来の外来種				ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>		-	-	○		○								琵琶湖・淀川水系	全国	湖、池沼	へら釣りの対象として、古くから各地に盛んに移植されている。	野外に放流しないよう注意が必要。	魚類学会意見：遊漁対象(ヘラブナ)として積極的に導入され、すでに全国各地に高密度水域が存在し、在来種に影響を与えている事は明白である。さらに、遊漁のエサに起因する水域の富栄養化も問題である。一方で、本種は環境省R1掲載種であることから、琵琶湖以外の水域でも絶滅危惧種として保護対象と認識されるおそれがあり、侵略的外来種リストに掲載することで、利用者側の認識への是正を促す必要がある。また、移植放流に際してオオクチバスやブルーギル、トラフシノボリ等が混入する可能性が指摘されている。							藤岡(2013)、川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、野内ほか(2008)
5	X国内由来の外来種				ニゴロブナ	<i>Carassius buergeri grandoculis</i>		-	-	○										琵琶湖	富山県	湖	地域名産のふなずしの材料として漁獲され、利用されている。	野外に放流しないよう注意が必要。	侵入年代は不明							藤岡(2013)、川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)
6	X国内由来の外来種				シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>		-	-	○	○		○							濃尾平野、琵琶湖淀川水系、岡山県高梁川水系、四国北東部	青森県、島根県	湖岸の砂泥底部、河川敷内の池や本流から引かれた灌漑用水路	観賞用として少量が流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	侵入年代は不明							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)
7	X国内由来の外来種				アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus</i>		-	-	○	○		○							宮城、栃木、茨城、千葉、東京の各都県	青森県	平野部の河川・湖沼	観賞用として少量が流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	侵入年代は不明							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)
8	X国内由来の外来種				カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>		-	-	○			○							琵琶湖淀川水系以西の本州と九州北西部	宮城県、茨城県	琵琶湖では産卵期に湖岸の砂泥域、平野部の細流や灌漑用水路などの流れのゆるやかなところや池沼	観賞用として少量が流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	霞ヶ浦では30年以上前に定着							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、野内ほか(2008)
9	X国内由来の外来種				イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>		-	-	○			○							琵琶湖淀川水系、和歌山県紀ノ川水系、福井県三方湖、濃尾平野	富山、岡山、熊本、各県、四国	平野部の細流や灌漑用水路などの流れのゆるやかなところや池沼	観賞用として少量が流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	侵入年代は不明							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、野内ほか(2008)
10	X国内由来の外来種				ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>		-	-	○			○							神奈川県・新潟県以北の本州	諏訪湖、静岡県、河口湖	平野部の浅い湖沼や池、そしてこれらの連なる水路	観賞用として少量が流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	侵入年代は不明							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)
11	X国内由来の外来種				オイカフ	<i>Opsarichthys platypus</i>		-	-	○			○							北陸、関東地方以西の本州、四国瀬戸内側、九州北部	東北地方、神奈川県、四国太平洋側、隠岐諸島、五島列島、中通島、種子島、徳之島	河川中・下流域、湖沼	観賞用あるいは観賞魚の餌用として少量が流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	在来の同種集団と交雑							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)
12	X国内由来の外来種				ビワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus microoculus</i>		-	-	○			○							琵琶湖、瀬田川	東北地方、関東平野、本栖湖、北陸地方、木崎湖、諏訪湖、高知県、九州北部	湖や河川の下流域	観賞用として稀に流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。							川那部ほか(編)(2002)、栗田ほか(2011)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、野内ほか(2008)	
13	X国内由来の外来種				ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>		-	-	○	○		○							琵琶湖	東北地方、奥多摩湖、山中湖、河口湖、諏訪湖、湖原湖	湖沼	稀に観賞魚として流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	侵入年代は不明							藤岡(2013)、Kakioka et al.(2012)、川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、酒井・米花(2012)、Sakai et al.(2011)
14	X国内由来の外来種				ゼゼラ	<i>Biwia zezera</i>		-	-				○							濃尾平野、琵琶湖淀川水系、山陽地方および九州北西部	関東地方、新潟県、濃尾平野(琵琶湖由来)、九州(琵琶湖由来)	河川の下流域、平野部の湖や池	観賞用として稀に流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	霞ヶ浦では1960年代に初認							川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、野内ほか(2008)
15	X国内由来の外来種				ギギ	<i>Tachysurus nudiceps</i>		-	-	○			○							近畿地方以西の本州、四国、九州北東部	秋田、新潟、福井、山梨、愛知、岐阜、三重、熊本県	河川中流域や湖沼に生息	観賞用として少量が流通している。	野外に放流しないよう注意が必要。	侵入年代は不明							魚類学会 川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、渡辺・森(2012)

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 ※ 詳細な原則 適用性・実行 可能性	特定外来/旧要 注意	和名	学名	選定理由	生態的特徴														利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等							
								定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他								
								生物	導入	競合	交雑	捕食	競争	繁殖	気候						分布										問題となっている地域	生息環境など					
16	X国内由来の外來種				ナマズ	<i>Silurus asotus</i>		-	-																						北海道、青森	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)					
17	X国内由来の外來種				ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>		-	-	○		○								○	◎											魚類学会	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)				
18	X国内由来の外來種				アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>		-	-	○		○																				魚類学会	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)				
19	X国内由来の外來種				イワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i>		-	-	○	○	○										○											魚類学会	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、山形県水産技術センター(2007)			
20	X国内由来の外來種				サクラマス(ヤマメ)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>		-	-	○	○	○										○											魚類学会	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、山形県内水試(2010)			
21	X国内由来の外來種				サツキマス(アマゴ)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>		-	-	○	◎	○										◎												魚類学会	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、田子(2002)		
22	X国内由来の外來種				ベニザケ(ヒメマス)	<i>Oncorhynchus nerka</i>		-	-	○		○																						川合ほか(編)(1980)、川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)			
23	X国内由来の外來種				イトヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i>		-	-																									日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、自然環境研究センター(2013)			
24	X国内由来の外來種				ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>		-	-																									北海道	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、瀨能(2000)、竹花(2010)		
25	X国内由来の外來種				オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>		-	-	○		○																							愛知、滋賀、愛媛	魚類学会	松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)
26	X国内由来の外來種				トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius kurodai</i>		-	-	○																									魚類学会	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)	
27	X国内由来の外來種				スマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>		-	-	○																									滋賀	川那部ほか(編)(2002)、松沢・瀨能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 ※ 被害の深刻度 繁殖・実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等	
								生物	導入	競合	交雑	捕食	繁殖	気候						原産地や分布	日本での分布	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他		
適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)																																
20	B定着初期/分布限定	産業管理外来種	/	/	特定外来	セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	I	/	/	◎	-	-	-	-	○	-	-	◎	-	ヨーロッパ原産。北米、オーストラリア、イスラエルに侵入。	北海道	林縁、草地、農耕地等	ハウス内の作物の受粉用の農業資材として、特定外来生物の飼養等許可を受けた農家・事業者のみが利用している。	飼養等許可の内容を遵守し認可の際の条件である。ハウスへのネット設置など管理を厳格におこなう。	北海道でのみ継続的な繁殖が確認されている。本州以北でも野外で確認されるが定着は確認されていない。	特定	日本・IUCN			北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、熊本	自然環境研究センター(編著)(2008)、Dohzono et al. (2008)、Kanbe et al. (2008)、Yokoyama & Inoue (2010)

<評価をおこなったもの掲載種(案)としなかったもの>

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 ※ 被害の深刻度 繁殖・実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等
								生物	導入	競合	交雑	捕食	繁殖	気候						原産地や分布	日本での分布	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他	
21	B定着初期/分布限定	/	/	/	ヤエヤマニセツツマグソコガネ	<i>Ataenius picinus</i>	/	/	/	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-		トカラ列島以南の南西諸島	農耕地、牧場、荒地。森林での記録もある。			近年分布を急速に北上させており、今後の注意が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。						川井(2008)、細谷(2010)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 昆虫類の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 ※ 被害の深刻度 繁殖・実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等
								生物	導入	競合	交雑	捕食	繁殖	気候						分布	問題となっている地域	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他	
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																															
1	X国内由来の外来種	その他の総合対策種	/	/	北海道・沖縄のカトムシ本土亜種	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>	I	/	/	○	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	本州、四国、九州、屋久島他、朝鮮半島、中国	北海道・沖縄島	森林			飼育下では沖縄亜種との交雑が確認され、野外での交雑による固有遺伝子への影響が懸念されている。北海道では知見の集積が必要。					北海道、沖縄	
2	X国内由来の外来種	その他の総合対策種	/	/	伊豆諸島などのリュウキュウツヤハナムグリ	<i>Protaetia pryeri</i>	IV	/	/	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-		東京、伊豆諸島	森林			知見の集積が必要						

<評価をおこなったもの掲載種(案)としなかったもの>

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 ※ 被害の深刻度 繁殖・実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等
								生物	導入	競合	交雑	捕食	繁殖	気候						分布	問題となっている地域	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他	
3	X国内由来の外来種	/	/	/	伊豆諸島のアオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i>	/	/	/	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	本州、四国、九州、南西諸島	伊豆諸島	森林、農耕地、住宅地等			ヤマトアオドウガネ伊豆諸島個体群への競合と遺伝子攪乱の可能性					北海道、沖縄	川端(2009)、小林・松岡(2010)
4	X国内由来の外来種	/	/	/	伊豆諸島のキボンカミキリ各亜種	<i>Psacotheta hilaris</i> subsp.	/	/	/	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	伊豆諸島、対馬、南西諸島、台湾、中国等に在来個体群。関東の伊豆諸島は近縁種との交雑が懸念されている。	伊豆諸島	森林、農耕地、住宅地等			中伊豆諸島亜種への遺伝的攪乱の可能性。						日本鞘翅目学会(1985)、福原(1986)、大林・新里(編)(2007)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 陸生節足動物の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国外由来の外来種】

網掛けは、H25年度第2回リスト会議以降に変更した項目

※緊急的防除種・重点対策種のみ

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等		
			網掛けの深さ	網掛けの浅さ					生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖	気候						原産地や分布	日本での分布	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他			
定着を予防する外来種(定着予防種)																																		
侵入予防種																																		
1	A未定着	侵入予防種			特定外来	アトラクス属	<i>Atrax</i> spp.	III	○	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	オーストラリア	-	主に森林			壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定					自然環境研究センター(編著)(2008)	
2	A未定着	侵入予防種			特定外来	ハドロニユケ属	<i>Hadronyche</i> spp.	III	○	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	オーストラリア	-	主に森林			壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定					自然環境研究センター(編著)(2008)	
3	A未定着	侵入予防種			特定外来	イトグモ属3種	<i>Lososceles</i> spp.	III	○	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	北米～南米	-	住宅地等			<i>Lososceles reclusa</i> , <i>L. laeta</i> , <i>L. gaucho</i> の3種。壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定					自然環境研究センター(編著)(2008)	
4	A未定着	侵入予防種			特定外来	ジュウサンボシゴケグモ	<i>Latrodectus tredecimguttatus</i>	III	○	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	ヨーロッパ	-	住宅地等				特定						
その他の定着予防種																																		
5	A未定着	その他の定着予防種			特定外来	キョウトウサソリ科	Buthidae Gen. spp.	III	○	◎	-	-	-	-	-	◎	-	○	-	-	-	世界の熱帯・亜熱帯域に約950種が分布	-	乾燥地、森林等様々な環境に生息	ペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。		本科に属するマダラサソリ <i>Isometrus maculatus</i> が先島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の外来種の両方の可能性があり詳細は不明。	特定						自然環境研究センター(編著)(2008)
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																																		
緊急的防除種																																		
6	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	④	⑤	特定外来	クロゴケグモ	<i>Latrodectus mactans</i>	III								◎	-	-	-	-	北米	山口	都市部、住宅地等			米軍岩国基地とその周囲で見発見される。	特定					自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP		
7	C分布拡大期～まん延期	緊急的防除種	④	⑤	特定外来	ハイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	III								◎	-	-	-	-	原産地は不明。熱帯～亜熱帯に広く分布。	愛知、九州、沖縄に定着。他にも確認記録多い。	都市部、住宅地等	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究の目的で許可を受けた個体が飼養されている。		強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていない。セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いと言われている。	特定				兵庫・宮崎・沖縄	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP		
8	C分布拡大期～まん延期	緊急的防除種	④	⑤	特定外来	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>	III								◎	-	○	-	-	オーストラリア原産と考えられている。北米等に侵入	中部地方以南の主に太平洋側の地域。関東・東北の記録が増加している。	都市部、住宅地等	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払うべき。	強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内では死亡例はない。	特定				京都・兵庫・徳島	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP		
その他の総合対策種																																		
9	C分布拡大期～まん延期	その他の総合対策種				ヤンバルトサカヤステ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>	IV										○	-	○	台湾	神奈川県、埼玉県、静岡県、徳島、高知、八丈島、屋久島、沖縄島、奄美大島、徳島	住宅地、農地、里地・里山的環境			大量発生し不快害虫となる他、農業被害や毒を持つことの影響が大きい。知見の集積が必要。					沖縄	藤岡(2009)、石田・藤山(2013)		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等	
			被害の深刻度	実施性-実行可能性					生物	導入	競争	交雑	捕食摂食	繁殖	気候						原産地や分布	日本での分布	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他		
																																	生物
45	C分布拡大期 ~まん延期					サマキガイ	<i>Physa acuta</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	北米原産と考えられ、世界各地に侵入。	日本全国	富栄養な止水の淡水域	熱帯魚水槽の藻類の"掃除屋"として利用されることがある。	遺棄、放逐を厳に慎むべき。	浄化槽で大量発生することがあり、公衆衛生上の問題が生じることが指摘されている。肝経等の吸虫類の中間宿主になりうる。 生態系影響については不明。 輸入について植物防疫法上の規制あり。				北海道、青森、千葉、滋賀、京都、鳥取、愛媛、鹿児島	学会意見	
46	C分布拡大期 ~まん延期					オオクビキレガイ	<i>Crepidula onyx</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	○	-	○	○	地中海沿岸地域原産。北米、南米、東アジアに侵入。	本州(関東以西)、九州	市街地、農耕地の乾燥した環境でも生息可能。		農作物、園芸植物への影響が懸念されている。生態系影響については不明。 輸入について植物防疫法上の規制あり。				京都、兵庫、熊本	学会意見	松隈・武田(2009)	
47	C分布拡大期 ~まん延期					ニヨリチャコウラナメクジ	<i>Crepidula onyx</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	○	○	ヨーロッパ原産	?	市街地、住宅地、農耕地		農作物、園芸植物への影響が指摘されている。生態系影響については不明。 輸入について植物防疫法上の規制あり。					学会意見		
48	C分布拡大期 ~まん延期					チャコウラナメクジ	<i>Lehmannia valentiana</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	○	○	イベリア半島	本州、四国、九州	市街地、住宅地、農耕地		農作物、園芸植物への影響が指摘されている。生態系影響については不明。 輸入について植物防疫法上の規制あり。				北海道、千葉、京都、兵庫、鳥取、愛媛、熊本、鹿児島	学会意見		
49	C分布拡大期 ~まん延期					オナジマイマイ	<i>Bradybaena pullucida</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	東南アジア原産	北海道南部以南の日本本土	市街地、住宅地、農耕地		畑地での農作物への影響、柑橘類への被害が指摘されている。生態系影響については不明。				北海道、千葉、京都、熊本、鹿児島、沖縄	学会意見		
50	D小笠原・南西諸島					アシヒダナメクジ	<i>Laevicaulis alte</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	○	アフリカ原産と考えられ、インド~中国、台湾、オーストラリア、ハワイ等に侵入。	奄美群島以南の南西諸島	農耕地等		農作物への影響が指摘されている。生態系影響については不明。広東住血線虫の中間宿主となる。				鹿児島	学会意見	嶋田他(1972)	
51	D小笠原・南西諸島					アジアベッコウ	<i>Macrochlamys</i> sp.		/	/	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	東南アジア地域と考えられる。	沖縄島	市街地、住宅地、農耕地		種名未決定。生態系影響については不明。観葉植物に随伴して分布を拡大していると考えられ、本州の温室内でも確認されている。 輸入について植物防疫法上の規制あり。					学会意見	早瀬他(2009)、上島(2009)	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト その他無脊椎動物の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																																
重点対策種																																
No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等
			被害の深刻度	実施性-実行可能性					生物	導入	競争	交雑	捕食摂食	繁殖	気候						分布	問題となっている地域	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他	
1	X国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種	重点対策種		①④		自然分布域外のサキゴロタマソメタ	<i>Euspira fortunei</i>	I, III	/	/	-	-	◎	-	○	-	-	◎	-	-	-	東アジア。国内では三河湾、瀬戸内海、有明海	東北~九州の太平洋岸	干潟や泥底の浅海		外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に甚大な影響を与えている。				鹿児島		

<評価をおこなったものの掲載種(案)としなかったもの>

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入	生態的特徴			利用状況	利用に係る留意事項	備考	抽出根拠					文献等
			被害の深刻度	実施性-実行可能性					生物	導入	競争	交雑	捕食摂食	繁殖	気候						分布	問題となっている地域	生息環境など				①外来法	②W100	③GISD	④各県	⑤その他	
2	X国内由来の外来種					アズキガイ	<i>Pupinella rufa</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	長野県以西の本州、四国、九州	関東地方	森林の林床等		在来の地域では減少しているところも多いが、関東地方で増加している。爆発的に増殖すると不快動物として扱われることがある。生態系影響については不明。				千葉、鹿児島	学会意見	
3	X国内由来の外来種					コハクオナジマイマイ	<i>Bradybaena pellucida</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	九州	本州(関東地方、三重、広島)、四国	農耕地、草地等		農作物への影響が指摘されている。生態系影響については不明。 輸入について植物防疫法上の規制あり。				千葉	学会意見	池澤他(2012)
4	X国内由来の外来種					シュリマイマイ	<i>Satsuma marcatoria</i>		/	/	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	沖永良部島、沖縄島、久米島等	宮古島(？)、大東島(？)、与那国島、小笠原諸島等	森林、石灰岩地等		大東島のダイトウジマイマイ(<i>S. m. daitojimaensis</i>)及び宮古島のミヤコマイマイ(<i>S. m. miyakoensis</i>)は本種の移入個体群であるとする説がある。生態系影響については不明。 輸入について植物防疫法上の規制あり。					学会意見	

No.		科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	被害発生の可能性	被害の深刻度	特定外来種/旧要注意種	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散	重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等												
												生物	輸入	競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続																				
定着を予防する外来種(定着予防種)																																								
侵入予防種																																								
1	224	イネ	ピーチグラス	<i>Ammophila arenaria</i>	A未定着	侵入予防種				海岸砂丘	IV	◎	○	(◎)	×	◎	◎	(◎)	○	(○)	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパ沿岸地域、北米東部に分布	1.2m、多年草	砂丘の砂留めに栽植される。	日本でも販売される可能性がある。海外では、砂丘の砂留めに栽植される。一部の地域では、家屋の屋根、籠、椅子の座布団などに利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、海水で分布拡大すること等から、特に日本の海岸等の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		有用
その他の定着予防種																																								
2	47	カバノキ	ヨーロッパハンノキ(オウシュウクロハンノキ)	<i>Alnus glutinosa</i>	A未定着	その他の定着予防種				湿地	IV	◎	◎	(◎)	-	○	○	(◎)	○	(◎)	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパ、コーカサス、シベリア西部原産	20m、落葉高木	湖沼、自然林、植林地、河川敷、市街地、荒地、湿地に生育。日当たりの良い、湿った土壌を好むが、乾燥にも耐える。窒素固定を行う。	青森県、岩手県で植栽。海外では、浸食防止、土壌改良、観賞用に植栽	海外で侵略的な外来種とされていることから、特に生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	◎海外:ISSG		便覧、有用、園芸事典、JF	
3	50	クワ	フランスゴムノキ	<i>Ficus rubiginosa</i>	A未定着	その他の定着予防種					IV	○	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産、ヨーロッパや北アメリカに導入。	30m、常緑高木	自然林、植林地、川岸、低木林、市街地、環境への適応の幅は広い。	日本で観賞用に販売されている。海外では、日陰樹等として広く植えられている。	海外で侵略的な外来種とされており、動物により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	◎海外:ISSG		JF	
4	99	ベンケイソウ	クラッスラ・ヘルムシー	<i>Tillaea helmsii</i>	A未定着	その他の定着予防種				湿地	IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	◎	(○)	-	-	(◎)	○	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア、ニュージーランド	0.2m、水草	湿地や水辺を好んで生える。水槽内での栽培の難易度は普通。	日本でもアクアリウムで利用。	海外で侵略的な外来種とされており、水により断片が散布されること等から、自然水域への持ち込みは行うべきではない。	◎海外:ISSG		アズマツメクサと同じ仲間。ISSGでは <i>Crassula helmsii</i> 、和名(通称名)は本学名による。 <i>Tillaea</i> アズマツメクサ属の数が日本で採集されている。	
5	118	カエデ	ノルウェーカエデ(ヨーロッパカエデ)	<i>Acer platanoides</i>	A未定着	その他の定着予防種					IV	◎	◎	(◎)	-	◎	(◎)	◎	(◎)	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパからカフカス地域に広く分布。北米の自然林に侵入し、侵略的となっている。	落葉高木	海岸、自然林、植林地、攪乱地、市街地に生育。湿潤な温帯地域に生育。生長が早く、様々な土壌環境に適応する。耐陰性や耐干性があり、病気への耐性があり、海岸にも生育する。	庭園樹、街路樹、公園樹に利用。葉が周年暗紅色の園芸品種も育成。日本でも流通しており、近年苗木等として用いられている。	海外で侵略的な外来種とされており、風により種子が散布され、浅く張った根茎が在来種の生育を阻害し、葉から土壌微生物に影響を及ぼし、在来種の生育を阻害する毒素を放出する。北アメリカでは下層植生の衰退が報告されている。冷温な地域において、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		・日本にはカエデ属の種類が多いことから、定着する可能性が高いと考えられる。 ・日本での栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。 ・雌雄同株。	
6	118	カエデ	アメリカハナノキ(ベニカエデ)	<i>Acer rubrum</i>	A未定着	その他の定着予防種				ハナノキの生育地の周辺	I	○	◎	-	◎	-	◎	○	○	○	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	米国北部、カナダ原産。	落葉高木	沼沢地や川岸に生える。	庭木、公園樹、並木として利用される。	絶滅危惧種のハナノキの遺伝的攪乱を引き起こすことから、ハナノキの生育場所の周辺には持ち込まない、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	◎その他:勝木委員		樹木、日本生態学会第60回全国大会(2013)講演要旨	
7	135	グミ	ホソグミ(ロシアンオリーブ)	<i>Elaeagnus angustifolia</i>	A未定着	その他の定着予防種				湿地や河原	IV	○	◎	(◎)	-	◎	◎	(◎)	○	(◎)	-	-	(◎)	○	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパ南部から西アジアに分布。合衆国で河川を中心に急速に増加。	低木	農耕地、氾濫原、川岸、水路、湿地に生育。実生には耐陰性があり、貧栄養な環境を含み、様々な土壌、水分条件に生育する。他の低木や木本との競争に耐え、萌芽生長により広がる。	日本でも、観葉植物として、販売されている。海外では、果実は食用にされ、栽培されることもある。中国西部では薬用にする。	海外で侵略的な外来種とされており、窒素固定能力があることと、水や鳥、小型哺乳類動物により種子が散布される。自然水域や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		日本にはグミ属の在来種が数多くあることから、定着する可能性が高いと考えられる。	
8	139	ギョリュウ	タマリクス属雑種(ギョリュウ)	<i>Tamarix × hybrid</i>	A未定着	その他の定着予防種			(旧要注意)	湿地や河原	IV	○	◎	(◎)	×	○	◎	(◎)	○	(◎)	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	日本では、通称名ギョリュウで種名不明なものも流通している。	落葉低木	農業地域、沿岸地帯、荒地、河口、湖岸、河川、攪乱地、市街地、水路、湿地	日本では、通称名ギョリュウで種名不明なものも流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、水辺の生物や水利用への影響が大きいことから、自然の河岸等や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		JF, J. F. Gaskin and B. A. Schaal, 2002. Hybrid Tamarix widespread in U.S. invasion and undetected in native Asian range. PNAS 99:11256-11259.	
9	51	ヤルマ	ヤツデグワ	<i>Cecropia peltata</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種			旧要注意		IV	◎	○	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	熱帯アメリカ原産	20m、常緑高木	森林の低地に多いが、攪乱地、溶岩層、森林のギャップ、植林地などに生育。	沖縄等の暖地や温室などで観賞用に栽植される。果実は甘くて海外では食用にされる。薬用になる。	海外では侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		*旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥に運ばれる。	
10	51	ヤルマ	ケクロビア・シュレベリアナ	<i>Cecropia schreberiana</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種					IV	◎	○	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	コスタリカ、ジャマイカ等が原産。ポリネシア等に導入。	20m、高木	日当たりの良い肥沃地を好む。自然林、植林地、草地、川岸、攪乱地に生育。	日本では温室での栽培例がある。	海外では侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		*旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥やコウモリに運ばれる。	
11	101	トベラ	シマトベラ(トウソゴ)	<i>Pittosporum undulatum</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種					IV	◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア東部原産、台湾にも野生化。	12m、低木	関東の無加温温室で越冬。自然林、草地、河川敷、攪乱地、低木林に生育。	日本でも栽培されている。海外では、防風のために植えられ、ゴルフクラブや薪炭に利用され、観賞用としても利用、ミツバチの蜜源にもなる。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		有毒物質のサポニンを含み、他の植物の生育を阻害する。	
12	144	フトモモ	タチバナアデク(ピタンガ)	<i>Eugenia uniflora</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種					IV	◎	◎	(◎)	×	-	○	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	ブラジルを中心に熱帯アメリカに分布。アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカにも導入。	常緑の低木または小高木	自然林、植林、草原、低木林。海外では、果樹として栽培されたものが野生化。	日本でも流通している。果樹として熱帯各地で栽培される。海外では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		有用、Ylist、JF	
13	144	フトモモ	ムラサキフトモモ(ヨウミヤクアデク、メシゲラック、ムレザキフトモモ)	<i>Syzygium cumini</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種					IV	◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	インドから東南アジア、マレーシア、オーストラリア北部に広がる。	30m、木本	自然林に生育。熱帯および亜熱帯気候の広い環境条件下で生育。洪水や干ばつにも耐える。	各地で紫色の果実を食用するために栽培される。インドネシアでは薬用、種なしの品種もある。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	◎海外:ISSG		有用、Ylist、JF	

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	被害の程度		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
							被害の程度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						生活型	生育環境など							
14	147	ノボタン	アメリカカサノボタン	<i>Clidemia hirta</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種			旧要注意	IV		◎	◎	(◎)	x	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	(◎)	○	○	○	熱帯アメリカ原産	2m、低木	自然林、草原、水辺、攪乱地、低木林	海外では観賞用等に栽培される。日本では植物園の温室で栽培される。温室の鉢物に多い。	海外で侵略的な外来種とされ、鳥、人、車などによって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	軟弱そうに見えるが、丈夫で、年中花が咲き実が持つ。増殖は実生で行い、発芽もよい、挿し木もできる。南西諸島や小笠原では、大きな育成になる可能性がある。	①外来法:要注意、②WI100:IUCN、③村中:C、⑩海外:ISSG、⑪その他:藤井委員	園芸事典、藤井委員
15	156	ウコギ	シェフレラ・アクチノフィラ(ブラッサイア)	<i>Schefflera actinophylla</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種				IV		○	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	○	オーストラリア、ニューギニア原産、ハワイなど太平洋諸島で侵略的	30m、高木	自然林、攪乱地、市街地	観賞用に栽培される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、鳥によって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。		⑩海外:ISSG	JF、IPSW
16	163	ヤブコウジ	コウトウチバナ(セイロンマンリョウ)	<i>Ardisia elliptica</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種			旧要注意	IV		◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	○	アジア～オセアニアに分布。	常緑低木	熱帯の泥湿海岸地域に分布。海岸や沼澤森林等に生育。	観賞用に利用される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、鳥によって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。		①外来法:要注意、②WI100:IUCN、⑩海外:ISSG	Ylist、JF、外来生物
17	175	ガガイモ	オオバナアサガオ	<i>Cryptostegia grandiflora</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種				IV		◎	◎	(◎)	x	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	○	マダガスカル原産とされるが原産地ははっきりしない。北アメリカ、南アメリカに分布。オーストラリアで侵略的。	常緑のつる性木本	農耕地、自然林、植林地、氾濫原、河岸、攪乱地、低木林、水路、湿地、海浜	観賞用としてフェンスに這わせたり、生垣として用いる。日本でも栽培される。沖縄の石垣島では支柱を立てて庭木としている。刈りこめば低木状になる。茎からは良質の繊維がとれる。乳液からはゴムが採取され、第二次大戦のときにはゴム原料植物として栽培された。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	強健種で比較的栽培は簡単。潮風に強いので海岸地の植栽に適する。多湿地を嫌い、排水の良い砂質土壌を好む。繁殖は実生(取り播き)と挿し木による分布拡大・拡散もないので、掲載には当たらないと考える(日本造園学会)。	⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、日本造園学会
18	188	ノウゼンカズラ	トラノソメ(ネコノメ)	<i>Macfadyena unguis-cati</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種				IV		◎	◎	(◎)	x	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	○	メキシコ、ガテマラ、ブラジル、アルゼンチン原産。オーストラリア、合衆国南東部、アフリカ南部で侵略的。	常緑つる性、多年草	自然林、植林地、草原、攪乱地、市街地。若い時は耐陰性がある。	海外では観賞用に栽培されるほか、薬用にも利用される。苗木入手容易。近年トラノソメという名で市場に出ている。近年広く栽培されている。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	<i>Macfadyena= Dolichandra</i> 。案外に耐寒性がある、軽い霜では害をうけず、日本の中部以西の暖地ならばよく戸外で生育し、つるは長く伸びる。挿し木で簡単に発根し、よく生長する。	⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、IPSW、JF
19	189	キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ(ウリハローレルカズラ)	<i>Thunbergia grandiflora</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種				IV		◎	◎	(◎)	x	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	(◎)	○	-	○	インド～東南アジア原産。オーストラリアやハワイで特に問題になっている。オーストラリアでは特に最も問題のある外来植物の一つとなっている。	10m、木質のつる植物	自然林、植林地、攪乱地、川岸、海岸に生育。日本では、関東南部、横浜などで最近、路地での越冬がみられる。	観賞用に栽培される。苗木入手容易。斜面、フェンスや網目格子を簡単に覆ってしまう。海外では、薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされ、水により茎や根茎の断片が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	寒さで倒れやすいが、回復も早い。小笠原では近縁種の <i>T. laurifolia</i> が野生化している。海外では牧草地にも侵入している。	⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、Ylist
20	212	リュウゼツラン	アツバチトセラン(サンスベリア)	<i>Sansevieria trifasciata</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種				IV		◎	◎	(◎)	x	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	○	熱帯西アフリカ原産。ハワイで野生化。オーストラリアでは環境雑草。台湾で侵略的な外来種。	1.0m、多肉の多年草	海外では栽培された場所から逃げ出している。越冬には12～15℃必要だが、乾燥に強いので、水を控えれば0℃近い低温にも耐える。	観葉植物として栽培され、多くの園芸品種がある。株分けで繁殖するので、水を含めれば0℃に近い低温にも耐える。	海外で侵略的な外来種とされ、近縁種が小笠原で繁茂していること、鳥や動物による分布拡大があること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	近縁種のチトセラン <i>S. nilotica</i> が小笠原の父島、母島、弟島、姉島、姪島などに野生化している。耐陰性がある。	⑩海外:ISSG	有用、園芸事典、JF、Ylist、PIER、GCW
21	224	イネ	ダイサンチク(タイサンチク)	<i>Bambusa vulgaris</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種				IV		◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	○	東南アジアから太平洋諸島まで広く分布。	15m	自然林、植林地、川岸、攪乱地、水路に生育する。湿気のある低地を好むが、気候や土壌条件への耐性は広い。土手、道端など開けた場所に生育する。	庭園観賞、製紙・建築用、防風用に栽培される。若いだけのこは食用にされる。建築など各種の用途に用いられる。	海外で侵略的な外来種とされ、除去する際に根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。	近縁種の <i>Bambusa multiplex</i> インドシナ原産説と九州、琉球野生説がある。	⑩海外:ISSG	有用、園芸事典、Ylist、JF、木本II
22	225	ヤシ	シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ)	<i>Archontophoenix cunninghamiana</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着	その他の定着予防種				IV		◎	◎	(◎)	x	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	○	オーストラリア島北部原産。ブラジル、ニュージーランド等で侵略的。	20m	海岸、自然林、河岸、攪乱地、市街地に生育。ある程度の耐寒性と耐陰性がある。	優美な姿を観賞するために栽培される。カリフォルニアや地中海沿岸の温暖な地域では野外で栽培できる。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、水や鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所へは持ち込みを行うべきではない。		⑩海外:ISSG	有用、園芸事典、JF
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																																		
緊急的防除種																																		
23	150	アカバナ	オオバナミズキンバイ(オオバナミズキンバイなどを含むルドウィギア・グランディフロラ)	<i>Ludwigia grandiflora</i> (L. grandiflora ssp. grandiflora)	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①②③④⑤		特定外来	湖沼	I、II、IV、V		◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	○	◎	-	◎	-	○	○	南米及び北米南部原産。ヨーロッパや北米北部で帰化。	陸上～水中	沼沢、湿地、ため池、湖沼、水田、河川に生育する。コンクリートの護岸でも生育できる。	本種の可能性のある類似種が、観賞用水草として日本に流通している。水質浄化やビオトープ用の植物として利用されたと考えられる。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされており、琵琶湖南湖では急速に分布を拡大している。河川や湖沼への水草の導入は、基本的に行うべきでない。	ナガエツルノゲイトウと同様あるいはそれ以上に除草困難である。近縁の絶滅危惧種の <i>ミスギンバイ</i> の遺伝的攪乱を引き起こすことも危惧される。	①その他:藤井委員	水草研究会誌 89号、藤井委員、GCW、水草I、角野
24	157	セリ	ブラジルチドメグサ	<i>Hydrocotyle ranunculoides</i>	B定着初期/分布限定	緊急的防除種	①②⑤		特定外来	池沼	IV		◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	○	-	○	-	-	○	南アメリカ原産。	長さ1m以上、水生の多年草	川岸や水湿地を好む	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。			①外来法:特定、③村中:B、⑤対策:H20:K4、H23:4⑥専門家:水生19、⑦各県:兵庫・佐賀、⑧河川:0.0.1	便覧、写真図鑑

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階 /分布限定	カテゴリー	対策優先度の要件			特定外来/旧要注	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
							被害の深刻度	繁殖性・実行可能性	競争				交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続	重要地域	人体	経済・産業						利用	原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など
25	224	イネ	スバルティナ属	<i>Spartina</i> spp.	B定着初期 /分布限定	緊急的 防除種	①②③	⑤		特定外 来	干潟	II、IV													北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカで15~16種類が知られる。	スバルティナ・アルテルニフロラ(ヒガタアン) <i>S. alterniflora</i> が愛知県と熊本県で分布拡大中。	汽水性の多年草	海岸近くの河口域、塩沼地、干潟に生育。	海外では塩沼地の回復や、土壌の浸食防止に利用される。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	海外で侵略的な外来種とされており、植物体の断片により分布を拡大し、干潟の生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。日本でも希少種が生育する貴重な生態系である干潟への影響が懸念されている。河川や干潟等の自然水域への持ち込みは行うべきではない。	北アメリカ原産の <i>S. alterniflora</i> が導入されたイギリスで <i>S. maritima</i> と交雑して不稔雑種の <i>S. x townsendii</i> を形成し、それが倍増化して <i>S. anglica</i> が生まれた。スバルティナ・アングリカは特定でIUCNワースト100、ISSGには <i>S. anglica</i> 、 <i>S. alterniflora</i> 、 <i>S. densiflora</i> が掲載。	①外来法: (特定) ②W100: (IUCN) ⑤対策: H23.1、⑥専門家: 塩沼10.7各県: 愛知、⑩海外: ISSG、⑪その他: 藤井委員	Neira, Carlos, Levin, L A and Grosholz, E D. 2005. Benthic macrofaunal communities of three sites in San Francisco Bay invaded by hybrid <i>Spartina</i> , with comparison to uninvaded habitats. Marine ecology progress Series 292:111-126.			
26	34	アカウキクサ	外来アゾラ類	<i>Azolla</i> spp.	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①③	⑤		特定外 来(一部)	アカウキクサやオオアカウキクサの生育地周辺	I、IV													世界各地に分布。	本州、四国、九州に分布。現在各地で広がっているものの大半は、雑種アゾラと呼ばれるきたアイオオアカウキクサ <i>Azolla cristata</i> × <i>filiculoides</i> である。	3cm、浮遊植物	湖沼、水田、溝、水路など日当たりのよい浅い水域。	合鴨農法の中で、アイガモの飼料として各地に配布されたが、アゾラ・クリスタタについては特定外来生物に指定され、利用は規制されている。	アゾラ・クリスタタは特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 アイオオアカウキクサ(雑種アゾラ)は交雑の可能性はなく、外来生物法の規制の対象ではないが、絶滅危惧種のアカウキクサやオオアカウキクサ等との競合の可能性があるため、こうした種類の生育地へ侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	H20の対策と兵庫は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 アイオオアカウキクサ(雑種アゾラ)は交雑の可能性はなく、外来生物法の規制の対象ではないが、絶滅危惧種のアカウキクサやオオアカウキクサ等との競合の可能性があるため、こうした種類の生育地へ侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	①外来法: 特定、⑤対策: H20<4、H23.4、⑥専門家: 水生28.7各県: 千葉・兵庫、⑧河川: 1.1.5、⑩海外: ISSG	雑管、角野(2013)、写真図鑑、角野			
27	66	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①②③④	⑤		特定外 来	池沼や湿地	II、IV、V													南アメリカ原産。	1989年渡来。関東~沖縄の一部に分布。	長さ1m以上、多年草	水辺の湿った土地	本種は特定外来生物に指定され、利用は規制されている。	-	①外来法: 特定、③村中: B、⑤対策: H20.4、H23.6、⑥専門家: 水生28.7各県: 千葉・兵庫、⑧河川: 1.1.5、⑩海外: ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物				
28	141	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①③④	⑤		特定外 来	河原の固有種の生育地	IV、V													北アメリカ原産。	1952年に静岡に渡来。近年は飼料に混入し、北海道~九州に帰化。	数m、つる性の一年草。	林縁、荒地、道端、原野、樹園地、造林地等に生育する。河川敷飼料畑に大群生。日当たりの良い肥沃な環境を好む。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。規制以前にも、利用に関する情報はなかった。	-	①外来法: 特定、②W100: 日本、③村中: A、⑤対策: H20.51、H23.33、⑥専門家: 草原47、⑦各県: 青森・栃木・埼玉・千葉・京都・兵庫・愛知・広島、⑧河川: 44.78.84	便覧、写真図鑑、外来生物				
29	151	アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①③	⑤		特定外 来	池沼や湿地	IV													南アメリカ原産。	大正年間に渡来。北海道~九州、琉球で帰化。	種子は作らない	湖沼や河川でみられる。	観賞用の水草として導入されたいたが、特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	①外来法: 特定、②W100: 日本、③村中: A、⑤対策: H20:11、H23:15、⑥専門家: 水生35、⑦各県: 栃木・埼玉・千葉・京都・愛知・兵庫・広島・佐賀・宮崎、⑧河川: 23.29.46、⑩海外: ISSG	雑管、便覧、写真図鑑				
30	186	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①③	⑤		特定外 来	カワヂシャが生育する河原や湿地	I、IV													ヨーロッパ~アジア北部原産。南アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ。	渡来年代不明、本州、四国、九州で帰化。	1m、多年草	湿地、河原、水田。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	①外来法: 特定、③村中: A、⑤対策: H20:4、H23:6⑥専門家: 交雑24、⑦各県: 栃木・愛知・京都・兵庫・広島・佐賀、⑧河川: 6.17.36	便覧、写真図鑑、外来生物				
31	203	キク	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①③	⑤		特定外 来	河原の固有種の生育地	IV													北アメリカ原産	明治中期に渡来。北海道~九州、琉球、小笠原で逸出、帰化。	0.7m、多年草	河川敷、道路沿い、海岸などに大群落を作る。	園芸植物として渡来。ワイルドフラワー緑化等に使用されていた。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	愛知県でも、カワラサイコやカワラハハコを圧迫している。	①外来法: ②W100: 日本③村中: C、⑤対策: H20.22、H23.27、⑥専門家: 河原42、草原40、⑦各県: 千葉・兵庫・愛知・鳥取・広島・佐賀、⑧河川: 19.58.86	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物			
32	203	キク	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①②③	⑤		特定外 来	池沼	II、IV													中央~南アメリカ原産	1995年渡来、関東~四国、九州で帰化。	1.0m、多年草	河川や水路の水中や水際で繁茂する。	観賞用に利用された。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	治水や水利用の障害になっている。	①外来法: 特定、③村中: B、⑤対策: H20.8、H23.5、⑥専門家: 水生26、⑦各県: 栃木・埼玉・千葉・愛知・兵庫・鳥取・佐賀、⑧河川: 0.0.2、⑩海外: ISSG	便覧、写真図鑑			
33	203	キク	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①②③	⑤		特定外 来	湿原や林床	II、IV													北アメリカ原産	園芸植物として明治中期に渡来。北海道~九州、琉球で帰化。	3m、多年草	路傍、荒地、河原、湿原など、肥沃で湿った環境に生育する。国立公園の湿原や森林といった自然度の高い環境に繁茂し、問題となっている。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	ハナガサギク(ヤエザキオオハンゴンソウ)(広島、H23.1)含む。国立公園等の重要な地域で駆除が行われている。	①外来法: ③村中: B、⑤対策: H20.18、H23.2、⑥専門家: 草原40、高山20、⑦各県: 北海道・青森・栃木・千葉・愛知・兵庫・鳥取・広島、⑧河川: 18.32.35	便覧、写真図鑑、外来生物			

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	被害の程度		特定外来/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
							被害の深刻度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						生活型	生育環境など								
34	203	キク	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①④	⑤	特定外来	Ⅳ、Ⅴ			◎	-	-	◎	◎	◎	○	◎	◎	-	-	-	-	アフリカ(マダガスカル)原産	1976年渡来。本州、四国、九州で帰化。	0.7m、一 ~多年 草	海辺の埋め立て地や空き地などに生える。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	急性中毒は引き起こさないが、肝毒性や発がん性を有するピロリジンアルカロイドが乳汁へ移行するとの報告もあり、非意図的に人的被害をもたらす危険性もある。 ①外来法:特定、②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20<4、H23:1、⑥専門家:草原18、⑦各県:千葉、愛知、兵庫、⑧河川:0,0.5	①外来法:特定、②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20<4、H23:1、⑥専門家:草原18、⑦各県:千葉、愛知、兵庫、⑧河川:0,0.5	http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/fireweed.html	
35	226	サトイモ	ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	C分布拡大 ~まん延期	緊急的 防除種	①②③	⑤	特定外来	Ⅱ、Ⅳ			◎	x	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	-	-	南アフリカ原産。	昭和初期に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原。	0.3m、浮遊性の水草	池沼、河川、水田、水路など日当たりの良いところに生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	-	在来の水生植物に深刻な影響を及ぼす。	①外来法:特定、②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20<4、H23:7、⑥専門家:水生36、⑦各県:千葉、愛知、京都、兵庫、広島、滋賀、佐賀、宮崎、⑧河川:2,12,24、⑨海外:ISSG	①外来法:特定、②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20<4、H23:7、⑥専門家:水生36、⑦各県:千葉、愛知、京都、兵庫、広島、滋賀、佐賀、宮崎、⑧河川:2,12,24、⑨海外:ISSG	外来生物、便覧
36	203	キク	ツルヒヨドリ(ツルギク、ミカニア・ミクランサ)	<i>Mikania micrantha</i>	D小笠原・ 南西諸島	緊急的 防除種	①②③	⑤	旧要注意	Ⅱ、Ⅳ			◎	x	-	◎	◎	◎	○	◎	-	(○)	-	-	熱帯アメリカ原産、熱帯~亜熱帯	1984年に沖縄県うるま市の天願川河口付近で発見。本島中部一帯で繁茂し、西表島にも侵入した。周年にわたって開花する。	多年 草、つる 植物	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。イネ、牧草、ゴム、チャなどのプランテーションで問題になる。日陰地でも日当たりのよい所と同様に生育がよい。	インドでは第二次大戦後に、飛行機の離着陸場のカモフラージュに利用され、侵入した。日本での栽培は未確認。	-	写真図鑑の引用文献の学名はいずれもM. cordataだが、M. micranthaとして記述。日本に定着しているのは本種との種村名の混同もあり。M. scandensとの混同が多く、ともにツルギク、ツルヒヨドリの名で呼ばれる(写真図鑑)。	①外来法:要注意、②W100:IUCN、③村中:C、⑤対策:砂浜5、⑦各県:小笠原・奄美、⑨海外:ISSG、⑩その他:藤井委員	①外来法:要注意、②W100:IUCN、③村中:C、⑤対策:砂浜5、⑦各県:小笠原・奄美、⑨海外:ISSG、⑩その他:藤井委員	世雑1、藤井委員、横田委員、写真図鑑	
37	203	キク	アメリカハマグルマ(ミツバハマグルマ)	<i>Sphagneticola trilobata</i>	D小笠原・ 南西諸島	緊急的 防除種	①②③	⑤	旧要注意	Ⅱ、Ⅳ			◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	◎	-	フロリダ南部~熱帯アメリカ原産	沖縄には1970年代初期に渡来した。香川、宮崎、琉球、小笠原に帰化。	長さ5m、多年草	農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育。日向を好むが耐陰性もある。日本では、南西諸島の隆起珊瑚礁で繁茂。畑地の雑草となっている。	法面等の被覆用やつり鉢に利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島等で繁茂している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域への持ち込みは行うべきではない。	別学名 <i>Wedelia trilobata</i>	①外来法:要注意、IUCN、③村中:C、⑤対策:砂浜5、⑦各県:小笠原・奄美、⑨海外:ISSG、⑩その他:藤井委員	①外来法:要注意、IUCN、③村中:C、⑤対策:砂浜5、⑦各県:小笠原・奄美、⑨海外:ISSG、⑩その他:藤井委員	便覧、写真図鑑、園芸事典、JF、外来生物	
重点対策種																																			
38	61	ハマミズナ	バケヤギク(エデュリス、莫邪菊)	<i>Carpobrotus edulis</i>	B定着初期 /分布限定	重点対策種	①②③			Ⅱ、Ⅳ			◎	x	◎	◎	◎	◎	○	◎	-	-	○	-	南アフリカのケープ地方が原産。ヨーロッパ、オーストラリア、合衆国西部等で侵略的となっている。	愛知県の渥美半島先端部の砂浜に一時かなり広がった。	1m、多肉の多年草	海岸や攪乱地にマット状に生育する。水はけが良い土壌と、日当たりが良い環境を好む。	浸食防止、観賞用、被覆植物として利用され食用や薬用にもされる。日本でも、流通、市販されている。	海外で侵略的な外来種とされており、海浜の生態系への影響が大きい。動物により種子が散布されることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	ハギクソウやハマツツボへの影響が懸念。カルボプロツス属は丈夫で生長が速い。鉢植えではなかなか着花しないが、春に地植えすると夏頃に咲く。土壌のpHや養分条件を変える。	⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG	JF、園芸事典、IPSW		
39	92	モウセンゴケ	ナガエモウセンゴケ(ナガエノモウセンゴケ、ドロセア・インターメディア)等の外来モウセンゴケ類	<i>Drosera intermedia</i> , <i>Drosera</i> spp.	B定着初期 /分布限定	重点対策種	①②③			Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ			◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	北アメリカ、ヨーロッパ原産。	岡山県等で問題になっている。	15cm、多年草	ミスゴケ類が育つような湿地に生育。	観賞用に利用されている。	重要湿地への移植が問題。在来種のモウセンゴケ <i>D. rotundifolia</i> との自然交雑が確認されている。本種の除去作業は、湿地生態系への影響も大きい。日本と同じ気候帯に分布しているため、露地栽培でよく育つ。モウセンゴケ属は多数の種子を散布し、栄養繁殖も盛ん。	⑤対策:H20<4、H23:3、⑥専門家:湿地21、⑦各県:千葉、(ナガエモウセンゴケ)岡山・愛媛	便覧、写真図鑑、園芸事典			
40	103	マメ	ナガバアカシア	<i>Acacia longifolia</i>	B定着初期 /分布限定	重点対策種	①			Ⅳ			◎	x	◎	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	オーストラリア、タスマニア原産。ニュージーランド、南アフリカ、スペイン、ポルトガル、ブラジルで、侵略的。	本州(山口)で逸出。南房総で越冬。	8m、常緑小高木	温帯性。暖地では野外で越冬。窒素を固定。海岸部の山火事が起き易い場所に生育し、河川敷、低木林、草原、森林にもみられる。年間降水量550mm以上は必要。潮風に耐える。	観賞用や砂丘の安定化のために栽培される。いくつかの変種がある。苗木入手やや難。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、動物や水により種子が散布されることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	本種には、いくつかの変種がある。	⑩海外:ISSG	便覧、有用、園芸事典、JF、熱帯花木		
41	103	マメ	メラノキシロンアカシア(ブラックウッドアカシア)	<i>Acacia melanoxylon</i>	B定着初期 /分布限定	重点対策種	①			Ⅳ			◎	x	○	◎	◎	◎	○	-	-	◎	-	オーストラリア原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、インド洋、太平洋、南アメリカ、アメリカ合衆国内に分布。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。斜面下部では、同時に植栽されたクスギやコナラなどを被覆してほぼ純林を形成している。	35m、常緑高木	農耕地、沿岸地帯、河口、自然林、植林地、草原、河原、攪乱地、低木林、市街地、湿地。常緑のアカシアの中では比較的低温に耐えるので関東以西の沿岸部などの気温が低下しにくい場所では越冬できる。寒さにはかなり耐える。東京でも越冬。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。暖地では、マツクイムの被害跡地などの植栽に有望とされる。原産地では建築材として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、動物や水により種子が散布され、日本で既に侵略的になりつつあることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	⑩海外:ISSG	http://had0.big.ous.ac.jp/plants/dic/angiospermae/dicotyledonae/choripetale/leguminosae/melanoxylon/melanoxylon.htm				
42	103	マメ	シュコンルピナス(ルピナス、タヨウハウチワマメ、ノボリフジ)	<i>Lupinus polyphyllus</i>	B定着初期 /分布限定	重点対策種	①②③			Ⅱ、Ⅳ			◎	x	◎	○	◎	○	◎	◎	-	-	○	-	北アメリカ、カナダ原産。ヨーロッパ、南オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	渡来年代不明、北海道で逸出帰化。	1.5m、多年草	草原、林縁、森林、農耕地、攪乱地、荒地。	園芸植物として栽培。花色別の園芸品種がある。飼料や緑肥にもされる。	海外で侵略的な外来種とされており、日本では草原への影響が問題とされていること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	専門家の回答はルピナス。北海道ではシュコンルピナスはA3、キナルピナス <i>luteus</i> はD。志賀高原で対策が行われている。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原28、⑩海外:ISSG	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、IPSW		
43	150	アカバナ	アメリカミズユキノシタ(ルドウィジア・レベンス)	<i>Ludwigia repens</i>	B定着初期 /分布限定	重点対策種	①②③		旧要注意	Ⅱ、Ⅳ			◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	○	-	北アメリカ~メキシコ~西インド諸島原産。	1970年頃渡来。神奈川県(深泥池)で帰化。	多年草、水草	湖沼や水路等の水辺に生育。	アカアリウム用の観賞植物として栽培。	ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされており、日本では湿地への影響が懸念されていること等から、自然環境への持ち込みは行うべきではない。		①外来法:要注意、③村中:B、⑤対策:H20<4、H23:1、⑥専門家:水生12、⑧河川:0,0.1	便覧、写真図鑑、GW		
44	184	ナス	ダイオウナスビ	<i>Solanum mauritianum</i>	B定着初期 /分布限定	重点対策種	①			Ⅳ			◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	(○)	-	-	アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ等	静岡県南伊豆町で、分布を拡大中	10m、小高木	農耕地、沿岸、自然林、植林地、河原、攪乱地、市街地に生育。国内では、谷沿いのモウソウチク林に生育。二次林内であるが、樹林内に広がり、種子繁殖している。	農業試験場で栽培されていた可能性がある。		⑩海外:ISSG、⑪その他:勝山委員	大西・勝山(2011)Jpn. Bot. 86:253-255 勝山委員			

植物WG前に変更した種類または項目、植物WG後に再検討、変更した項目		植物WG後にカテゴリーを再検討・変更した種類																																
No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	特に関与となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
							被害の深刻度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	持続						生活型	生育環境など							
45	186	ゴマノハグサ	ハビコリハコベ(グロソスティグマ)	<i>Glossostigma elatinoide</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①②③			池沼や湿地	II、IV	◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	◎	2008年に愛知県豊川用水で確認。	1cm、水生の多年草	水生の絶滅危惧種への影響が危惧される。	観賞用に用いられる。	シラタマホシクサのような希少種が生育する貴重な生態系である湿地への影響が懸念されていることから、自然環境への持ち込みは行わなければならない。		⑦各県:愛知	写真図鑑
46	193	タヌキモ	オオバナイトタヌキモ(ウトリクラリア・ギンバ)	<i>Utricularia gibba</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①②③			湿地	II、IV	◎	○	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	◎	東南アジア、オーストラリア、アフリカ、アメリカ大陸に分布	1930年代にアメリカから観賞魚に随伴して侵入、食虫植物マニアによる栽培から逸出、水草類の随伴種としても侵入、兵庫県で帰化。	浮遊性の一年草	愛知県では希少種のミカワタヌキモの生育地への持ち込みが危惧されている。	観賞用に市販、流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、希少種のミカワタヌキモとの競合・駆逐等が懸念されていることから、自然環境への持ち込みは行わなければならない。	在来種のイトタヌキモssp. <i>exolata</i> の基本種で、種別しない見解もある。食虫植物。	⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG	便覧、写真図鑑、JF
47	193	タヌキモ	エフクレタヌキモ	<i>Utricularia inflata</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①②③			湿地	II、IV	◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	北アメリカ東部原産	1990年に静岡県磐田市で野生化したものは、その後消失した。それ以前から兵庫県、大阪府でも野生化が確認。	多年性の水草	池や湿地に生育する。	観賞用に利用されている。タヌキモ属は、種名が不明なものも含めて、近縁種が多数栽培されている。	希少種のタヌキモ類や、貴重な生態系である湿地への影響が大きいことから、自然環境への持ち込みは行わなければならない。	⑥専門家:湿地8、⑩その他:環境省、角野委員	便覧、写真図鑑、環境省、角野委員、角野	
48	204	オモダカ	ヒロハオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria platyphylla</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①③			河川や湿地	IV	(◎)	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	(◎)	◎	◎	北アメリカ原産、太平洋諸島やヨーロッパに分布。	1998年大阪府枚方市で初めて採集。	1.5m、抽水性の多年草	河川、水路、湖沼、湿地に生育。	海外では観賞用に栽培される。日本でも近縁種のナガバオモダカ <i>S. graminea</i> var. <i>platyphylla</i> の名前で利用されている可能性がある。	海外で侵略的な外来種とされており、近縁種のナガバオモダカは既に日本で侵略的となっている。種子が水散布されること等から、自然水域への持ち込みは行わなければならない。	日本では当初はナガバオモダカ <i>S. graminea</i> と考えられていた。別学名 <i>S. graminea</i> var. <i>platyphylla</i> 水路の水の流れを悪くし、洪水の危険性を増加させている。	⑩海外:ISSG	志賀隆、大阪市立自然史博物館立川水系調査グループ植物誌、水草研究会誌、Vol.93、pp.13-22(2010)、水草II
49	205	トチカガミ	クロモドモキ(ラグロシフォン・マヨール)	<i>Lagarosiphon major</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①③			湖沼や河川	IV	◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	南アフリカ原産。ヨーロッパに定着。ニュージーランドやマサリン諸島で侵略的。	近年、岡山県で野生化が確認。	沈水性の多年草	湖沼、河川、水路、湿地。	観賞用に販売、利用される。海外では飼料としての利用も検討されている。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域への持ち込みは行わなければならない。	<i>Elodea crispata</i> と呼ばれ、アナカリスと同属とされていた。弱アルカリと強光を好むので、水槽内での育成は難しい点がある。茎から分枝した新葉を摘み取り育てると、適応性があってうまく育つ。	⑤対策:H23-1、⑩海外:ISSG	水草Ⅲ、片山久・狩山俊悟(2012)「せんしん」くらしき80号、IPSW、角野	
50	205	トチカガミ	アマゾントチカガミ(アマゾンフロッグビット、リムノビウム・ラエビゲータム)	<i>Limnobium laevigatum</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①②③			温暖地の池沼や湿地	II、IV	◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	熱帯アメリカ(アルゼンチン)原産	1973年以前に渡来、大阪、琉球で逸出。	多年性の浮葉植物	繁殖は種子と繁殖茎で行う。	観賞用に販売、利用される。	種子や植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域への持ち込みは行わなければならない。	和歌山新宮市の国指定天然記念物「浮島の森」で駆除が行われた。	⑤対策:H23-2	便覧、水草Ⅲ	
51	212	リュウゼツラン	アツバキミガヨラン	<i>Yucca gloriosa</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①②③			海岸砂浜	II、IV	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	北アメリカの海岸地域原産。オーストラリアやヨーロッパ等でも帰化。ニュージーランドでは環境雑草とされる。	園芸植物として1961年以前に渡来。千葉県、静岡県で逸出。愛知県ではハギクソウなどの希少種の群生近くに侵入している。三重県では天然記念物の和具大島で繁殖し、駆除の対象となっている。	2.5m、低木	海岸の砂浜に侵入し、大きな株となるため、在来の海岸植物の生育を妨げている。寒さには強いので、中部以南であれば戸外で越冬する。日本には花粉を運ぶ昆虫がいけないので、自然環境下では結実しないと言われる。株や地下茎が海流によって流され、分布が拡大とされている。	海浜植物群落に侵入し、在来種の脅威となるとともに、景観上も問題となっている。ハギクソウのような希少種が生育する貴重な生態系である海岸砂地への影響が懸念されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には持ち込まないか、種子や植物体の逸出を防止する等の配慮が必要である。	愛知の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種として指定されている。かつてはユリ科に含められていた。葉先に鋭い刺がある。地際の小株を分けて増やす。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:砂浜5、⑦各県:千葉・愛知	便覧、観葉、有用、園芸事典、GCW、半田(日本緑化工学会31(4)450)		
52	231	カヤツリグサ	アサハタヤガミスゲ	<i>Carex longii</i>	B定着初期/分布限定	重点対策種	①③			湿地	IV	◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	北アメリカ原産。	1968年に神奈川県須賀市の米軍基地内、2003年に藤沢市で採集。静岡市の麻機遊水地で定着し、急増中。	0.6m、多年草	砂質の湿地、湿草地、林耕田やその周辺の溝等、排水の悪い土地に生育。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	⑩その他:勝山委員	勝山(2013)	
53	66.1	サボテン	ウチワサボテン属	<i>Opuntia</i> spp.	C分布拡大~まん延期	重点対策種	①②③		(旧要注意)	海岸砂浜や河原	II、IV	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	アメリカ大陸の広範囲に250種。	長野県にヒラウチワ(単刺回属) <i>vulgaris</i> 、沖縄県北大東島にセンニンサボテン <i>O. stricta</i> 、香川県などに種小名不明が帰化。	数mの木になるものもある。	種類によっては耐寒性があり、暖地では野外で生育する。在来の海岸植物を圧迫。愛知県では沿岸域における移入種として、ウチワサボテン属が条例の規制の対象となっている。	海外では産業的に重要な種が多く、果実、若い莖部を食用の目的で栽培されるほか、家畜の飼料として、庭の植え込みに利用する。日本でも、単刺回属 <i>O. vulgaris</i> や人への悪影響が懸念されることなどから、こうした環境に侵入することのないよう、植物体や果実を放置しない等の適切な管理が必要である。	サボテン科の中で最大の属。種類が多く同定困難。センニンサボテンが要注意で、HUCNワースト100、*ISSGは <i>O. cochenillifera</i> 、 <i>O. ficus-indica</i> 、 <i>O. monacantha</i> 。	①外来法:要注意、②W100:①UCN、⑤対策:H20<4、⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG	観葉、便覧、園芸事典、JF		
54	81	スイレン	ハゴロモモ(フサジュンサイ、カモンバ)	<i>Cabomba caroliniana</i>	C分布拡大~まん延期	重点対策種	①③		旧要注意	ため池、湖沼	IV	◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	北アメリカ東南部原産。	1929年に導入、1950年に野生化が確認。本州、四国、九州。	2.0m、水生の多年草	湖沼、ため池、河川、水路などに生育。水質がやや汚濁した環境にも生育する。	観賞用水草として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、断片の水散布により分布が拡大し、水生の希少種への影響も危惧されること等から、自然水域への持ち込みは行わなければならない。	愛知県では、ガガバヤやヒンなどの在来水草を圧迫している。ハゴロモモ(ジュンサイ)科 CABOMBAEACEAE に分類されるようになった。	①外来法:要注意、③村中:C、④FAO:8、⑥専門家:水生26、⑦各県:愛知・愛媛、⑧4.9.12、⑩海外:ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、Ylist	
55	81	スイレン	園芸スイレン	<i>Nymphaea</i> cv.	C分布拡大~まん延期	重点対策種	①③			ため池、湖沼	IV	◎	○	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	(◎)	◎	-	約40種類が熱帯から温帯にかけて広く分布する。	明治時代末期から園芸植物として渡来した。北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布。各地で生育しているが、外来種との区別が難しく、逸出と帰化の境界が明確でない。	浮葉性の多年草	湖沼、水路、人里近のため池などに多い。	観賞用に交配された多数の園芸品種が観賞用に池や温室で利用される。熱帯性と耐寒性に大きく分けられる。日本のヒツジグサと交配した品種も多く、種子や根茎はコンブを多く含む、食用にされることもある。根茎は薬用にも利用される。	海外で様々な種類が侵略的な外来種とされており、日本でもしばしば旺盛に繁殖して水面を覆い、絶滅危惧種を含む水生生物へ大きな影響を及ぼすため、駆除が行われている。自然水域への持ち込みは行わなければならない。	愛知県は在来種のヒツジグサを除くスイレン属。名古屋市では耐寒性の外来スイレンの駆除が行われている。神奈川県相模原市の池でも駆除。海外では、ニオイヒツジグサ <i>N. odorata</i> が侵略的に侵入している(ISSG)。ヨーロッパで <i>N. alba</i> が、スリナムで <i>N. Amazonum</i> が、ローデシアで <i>N. caerulea</i> が、パキスタンで <i>N. lotus</i> が、インドで <i>N. stertata</i> が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:水生31、⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG	有用、便覧、園芸事典、GAWW、GCW、http://www.bdn.agoya.jp/introduction/activities/water_lily.htm

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	被害優先度の要件		特定外来/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等																				
							被害の深刻度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候						永続	原産地や分布	日本での分布						生活型	生育環境など																		
65	180	クマツヅラ	シチヘンゲ(ランタナ)	<i>Lantana camara</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②		旧要注意	暖地の海岸	II、IV		◎	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	(◎)	○	-	北アメリカ南部～ 熱帯アメリカ原産。	江戸時代末期(1865年)に園芸植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で逸出、帰化。	3m、半つる性の低木	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。	コノハフナチ <i>L. montevideensis</i> との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が多く作出されている。暖帯域では路地、温帯では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。果実は黒熟し、少し甘味があるため、海外では食用や香料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用い	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも野生化している。園芸品種の中には結実しない種類もあるため、温暖な地域の特に重要な地域では、こうした種類を用	土壤中に窒素を蓄積。自家受粉も高受粉も行い、淡紅色系統のものが果実を良くつける。果実は鳥によって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。	①外来法:要注意、②W100:IUCN、③村中:C、④FAO:8、⑤専門家:海洋島28、⑦各県:愛知・愛媛・小笠原・奄美、⑩海外:ISSG																			世雑I、便覧、熱帯花木、外来生物、有用、JF
66	182	アワゴケ	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①③		旧要注意	湧水河川、水陸	IV		◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	○	-	ヨーロッパ原産、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに帰化。	1996年渡来。福島、栃木、群馬、千葉、神奈川県、山梨に帰化。ミズハコベを繁殖しながら鳥道に分布を拡大している可能性がある。	水辺の小型の多年草	水田、用水路、小規模の河川のほか、水際の湿地では陸生型となって生育する。関東北部のクレン栽培地も多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	湿地性の在来植物に悪影響。在来種のミズハコベと混交されている場合が多い。	⑤対策:H20<4、⑦各県:栃木・群馬、⑧河川:0.01																	便覧、帰化植物、GW、角野		
67	185	フジウツギ	フサフジウツギ(ニシキフジウツギ、チヂフジウツギ、ブッドレア)	<i>Buddleja davidii</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	河原	II、IV		◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	(○)	○	◎	中国西部原産。合衆国西部に分布。ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	園芸植物として渡来するが、渡来年代不明。北海道、本州、九州で逸出、帰化。兵庫県六甲山では沢治、環境の堆積地、林縁、造成地などの明る開けた場所に群生している。長野県長谷村の三峰川支流の黒川や戸台河川敷で、広範囲で繁殖を続け、アン原やヤナギを駆逐している。	2m、半常緑低木	自然林、河岸、崩壊地、草原、攪乱地、市街地、水路、湿地に生育。排水の良い向陽地に好み、寒さに強い。路面開閉雑草の性質が強く、舗道の割れ目やコンクリートブロックの間でも生長。山地の崩壊地や道路法面で優占群落を形成し、分布を拡大している。	多数の園芸品種があり、日本でブッドレアとして観賞用に栽培される。切り花にもされる。中国では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、草原を森林化する事等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	繁殖は種子によるが、挿木でもできる。洪水で流され易く、川岸が浸食しやすくなる。ニュージーランドでは林業被害を引き起こしている。	③村中:C、⑦各県:兵庫、⑧河川:0.6、⑩海外:ISSG																			便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、IPSW、大塚・園(2005)、伊藤ら(2011)、 http://www.kkrmlit.go.jp/rokkok/rokkok/vegetation/sp/184/index.html
68	203	キク	オオブタクサ(クワモドキ)	<i>Ambrosia trifida</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①③		旧要注意	湿地や河原	IV		◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	-	◎	北アメリカ原産	1952年渡来、北海道～九州、琉球で帰化。	1～6m、一年草	畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原など、やや湿り気のある場所に大きな群落を作る。	花粉対策用にブタクサ茶が販売されている。種子や苗の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。	-	埼玉ではヨシヤスゲ類など湿性草原の植物を駆逐。愛知県でも低湿地の植物への影響が懸念。飼料穀物や豆類に混入して侵入。	①外来法:要注意、②W100:日本、③村中:A、④FAO:8、⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原48、⑦各県:埼玉・千葉・愛知・京都・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、⑧河川:41,79,88																		世雑I、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物	
69	203	キク	セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ)	<i>Solidago altissima</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	湿原・湿地	II、IV		◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	○	-	北アメリカ原産	観賞用植物として明治時代(1897年頃)に渡来。大正末期から野生化。戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原で帰化。	2.5m、多年草	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって攪乱された環境が増えると繁殖する。	現在は一般的に栽培される種類ではないが、流通はある。	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所では、持ち込みを行うべきではない。	花粉の飛散量は少なく、花粉症の影響は小さいとの説あり。湿原や草原に侵入して駆除の対象となっている。戦前は、近縁種のカナダアキノキリンソウ <i>S. canadensis</i> と混同された。	①外来法:要注意、②W100:日本、③村中:A、④FAO:8、⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原54、⑦各県:北海道・青森・栃木・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎・奄美、⑧河川:71,110,111																			雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、園芸辞典
70	203	キク	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea var. leiophylla</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	湿原・湿地	II、IV		◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	北アメリカ原産	明治中期(1880年頃)渡来。北海道～九州で逸出、帰化。	1.2m、多年草	原野、道端、河川敷に発生。北海道ではセイタカアワダチソウより多い。	園芸植物として渡来。現在の本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	愛知県では今のところ自然生態系への影響は深刻ではない。 <i>Solidago gigantea</i> ssp. <i>serotina</i> 。北海道では、知床国立公園、ウトナイ湖、礼文島等で駆除が行われている。	①外来法:要注意、②W100:日本、③村中:B、⑤対策:H20<4、⑦各県:北海道・愛知、⑧河川:28,42,47																	便覧、写真図鑑、帰化植物、Ylist		
71	203	キク	外来性タンポポク群	<i>Taraxacum officinale, T. spp.</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	自然草原や高山	I、II、IV		◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	ヨーロッパ原産、世界中に帰化	セイヨウタンポポ <i>T. officinale</i> は1940年に北海道に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原で帰化。	0.4m、多年草	市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。	セイヨウタンポポやカントウタンポポが流通している。野菜として利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、国内では草原や高山等にも侵入し、在来のタンポポとの交雑が大きな問題とされている。こうした問題を提起し可能性のある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	①外来法:要注意、②W100:日本、③村中:A、④FAO:6、⑤対策:H20<14、⑥専門家:草原45・高山23・交雑42、⑦各県:北海道・青森・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、⑧河川:66,105,115、⑩海外:ISSG																		雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、JF、園芸辞典		
72	204	オモダカ	ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria weatheriana</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	湿地や池沼	II、IV		◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	○	-	北アメリカ原産、世界各地で栽培	1975年頃に渡来。千葉、神奈川県、東京、京都、和歌山、岡山で帰化。	0.6m、抽水性の多年草	湖沼、ため池、水路、河川に生育。天然記念物の京都の深泥池で繁殖。雌雄異株で日本には雌株のみ	ジャイアント・サジタリアの名でアクアリウムで栽培。	天然記念物の深泥池で繁殖するなど、水辺に生育する希少種と競合し、駆逐すること等から、自然水域へは持ち込むべきではない。	2010に <i>S. graminea</i> の学名から変更された。	①外来法:要注意、③村中:B、④FAO:9、⑤対策:H20<4、⑥専門家:水生19、⑦各県:愛知、⑧河川:0.1,1																		便覧、写真図鑑、帰化植物、角野	
73	205	トチカガミ	オオカナダモ(アナカリス)	<i>Egeria densa</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	池沼	II、IV		◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	○	-	南アメリカ原産、温帯	大正時代に渡来。本州～九州、琉球で帰化。京都の深泥池で繁殖。	多年草、沈水植物	湖沼、河川に生育する。日当たりの良い、浅い、停滞水域を好む。	観賞用に販売、利用される。魚の餌、植物生理の実験材料に利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域へは持ち込むべきではない。	日本にあるのは雌株のみで、種子繁殖はしていない。	①外来法:要注意、②W100:日本、③村中:A、④FAO:9、⑤対策:H20<4、⑥専門家:水生41、⑦各県:埼玉・鳥取・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎、⑧河川:30,60,70、⑩海外:ISSG																			世雑III、便覧、外来生物、JF

植物WG前に変更した種類または項目、植物WG後に再検討、変更した項目		植物WG後にカテゴリーを再検討・変更した種類																															
No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	被害の程度		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
							被害の深刻度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候						永続	生活型	生育環境など						
74	205	トチカガミ	コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	池沼や湧流	II、IV														アメリカ北東部原産、温帯	昭和の初めに入り、本州、四国で帰化。尾瀬沼で繁茂	多年草、沈水植物	湖沼、河川、池、溝、水路に生育する。日当たりの良い、流水～停滞水域、浅水を好む。	魚の餌、植物生理の実験材料に利用。観賞用の水草として利用されることがある。	河川で分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域へは持ち込むべきではない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	①外来法: 要注意、②W100: 日本③村中: A④FAO: 9⑤対策: H23:1、⑥専門家: 水生40、⑦各県: 埼玉・⑧各県: 愛知・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀、⑨河川: 25,55,62	世雑Ⅲ、雑管、便覧、JF、園芸事典、外来生物、世水Ⅲ
75	205	トチカガミ	外来セキショウモ(オオセキショウモ(ジャイアントパリスネリア)、セイヨウセキショウモに酷似した外来種)	<i>Vallisneria gigantea</i> , <i>Vallisneria</i> spp.	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③			池沼や湧流	II、IV														オオセキショウモ: 栃木県佐野市、栃木・群馬県境の才川、滋賀県草津市、熊本県白水村に定着。セイヨウセキショウモに酷似した外来種: 千葉県松戸市、愛知・岐阜県境の木曾三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認されている。	多年生、常緑の沈水植物	湖沼、河川など日当たりの良い水域	オオセキショウモ: アクアリウムプラントとして販売されている。セイヨウセキショウモの呼称で販売されているが、セイヨウセキショウモとは異なる分類群である(早稲倉ほか、未発表)。	オオセキショウモ: アクアリウムプラントとして販売されている。セイヨウセキショウモの呼称で販売されているが、セイヨウセキショウモとは異なる分類群である(早稲倉ほか、未発表)。	定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁茂し、冬季には大量の切れ葉が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川に佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁茂して侵略的」との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種(セキショウモやコウガイモ)よりも繁殖力が高いと思われる。高分類群ともに国内での有性繁殖は確認されていない。この項の文章は藤井ほか(未発表)による。在来種はセキショウモV. <i>nsatans</i> とコウガイモV. <i>denseserrulata</i> 、セイヨウセキショウモV. <i>spiralis</i> とパリスネリア・ナナV. <i>nana</i> はISSGに掲載。	⑩海外: ISSG、⑪その他: 藤井委員	水草Ⅲ、藤井・牧、未発表、早稲倉ほか、未発表、魚取	
76	216	ミズアオイ	ホテイアオイ(ウォーターヒヤシンス)	<i>Eichhornia crassipes</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	池沼や湿地	II、IV														熱帯アメリカ原産	明治年間(一説では江戸時代)に渡来。本州、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、浮遊性の多年草	高栄養化の進んだ湖沼、ため池、河川、水路などの水面。	観賞用として渡来。ピオトープや水質浄化にも利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、基本的には自然水域へ持ち込むべきではなく、利用する場合には逸出しないよう適切に管理する。	種子ができない場所も多い。	①外来法: 要注意、②W100: IUCN、日本③村中: A、④FAO: 12、⑤対策: H20:6、H23:4、⑥専門家: 水生38、⑦各県: 千葉・愛知・兵庫・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎・奄美、⑧河川: 22,34,51、⑩海外: ISSG	雑管、便覧、帰化植物、外来生物、園芸事典
77	217	アヤマ	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③		旧要注意	池沼や湿地	II、IV														ヨーロッパからアジア原産。世界各地の水湿地で観賞用に栽培される。	1897(明治30)年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出帰化。	1.2m、多年草	湖沼、ため池、河川、水路、水田周辺の畑地、林縁など周辺で繁殖し、湿原や草地にも侵入。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適する。	園芸植物として渡来。民家や公園に植えられていることが多い。水田に植えられていることが多い。様々な園芸品種がある。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適する。	花が美しいので水辺に植えられ、海外では侵略的な外来種とされ、日本でも河川などで分布を拡大している。近縁の絶滅危惧種のカキツバタ等の遺伝的攪乱や、これらを含む水辺や草原の在来植物との競合、駆逐が危惧されている。こうした影響を及ぼすおそれのある場所へは持ち込むべきではない。	地下に横にはうたい根茎があり、分枝して繁殖する	①外来法: 要注意、②W100: 日本、③村中: B、④FAO: 10、⑤対策: H23:2、⑥専門家: 水生16・草原38、⑦各県: 北海道・青森・埼玉・愛知・広島・佐賀、⑧河川: 54,88,98、⑩海外: ISSG	世雑Ⅲ、帰化植物、外来生物、園芸事典、JF
78	220	イグサ	コゴメ	<i>Juncus</i> sp.	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②			イグサなどが生育する河川敷や湿地	IV														ユーラシア産の <i>J. inflexus</i> に似るが別種。	1990年渡来。本州の一部で帰化。各地の河川敷に急速に分布を拡大。	1.5m、多年草	沿海地、河川敷、湿地に生える。	本種の利用状況に関しては不明であるが、イグサ属の植物は種小名が不明なものを含めて、種数が流通、利用されている。近縁種のイグサは、量産の材料にするために栽培されるほか、薬用等にも利用する。	水湿地に生育する在来種のイグサが消失するなど、水辺に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがあることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込むべきではない。	⑧河川: 0.0.6、⑩その他: 藤井委員	便覧、帰化植物、藤井委員、JF	
79	221	ツユクサ	ノハカカラクサ(トキワツユクサ、トラノスカンテア・フルミネンシス)	<i>Tradescantia fluminensis</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②		旧要注意	二次林林床	IV														南アメリカ原産、アジア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、北アメリカ南部で侵略的。	昭和初年に渡来。本州、四国、九州で逸出帰化。	多年草	石垣、崖地、路傍、林床などやや湿った日陰に生える。	園芸品種を含めて、観葉植物として利用。	海外でも侵略的な外来種とされ、日本でも分布を拡大している。耐陰性があるため、雑木林や極相林の林床や水辺への侵入が、確認または危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込むべきではない。	①外来法: 要注意、⑥専門家: 注意⑦各県: 千葉・愛知・広島・愛媛・宮崎、⑧河川: 14,37,51、⑩海外: ISSG	便覧、帰化植物、外来生物、園芸事典、IPSW	
80	224	イネ	オオハマガヤ(アメリカハマニク、アメリカカイゴンウ)	<i>Ammophila breviligulata</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①②③			海岸砂浜	II、IV														北アメリカ原産。	1955年頃から日本各地の飛砂防止に帰化。1976年に静岡で野生化が確認。青森、秋田、山形、宮城、新潟、石川、千葉、鳥取に分布。	1m、多年草	沿岸地域に生育する。	北米では砂止めに利用されている。北日本や日本海側を中心に、飛砂防止に帰化。	近縁種が海外で侵略的となり、本種も根や株で分布を拡大し、生態系を改変するおそれがある。日本の海岸の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	近縁種のビーチグラスA. <i>arenaria</i> は侵略的な植物にあげられている。海岸植物への影響が懸念。種子による繁殖は行わず、地下茎により栄養繁殖。	⑦各県: 千葉、⑧河川: 0.2.2	便覧、帰化植物、有用、ISSG、GW、USDA
81	224	イネ	シナダレスズメガヤ(ウイペングラブグラス、セイタカカゼクサ)	<i>Eragrostis curvula</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①③		旧要注意	河原、海岸砂浜	IV														アフリカ南部原産、温帯～熱帯	1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球。	1.2m、多年草	牧草地、路傍、荒地、河原等に生育。日当たりの良い、砂質土壌を好む。	栽培用に品種改良され、世界的には草質が良くないため、日本では牧草よりも砂防用に導入され、高速道路や宅地造成地の土どめに利用された。近年は生態系への影響が配慮され、あまり利用されなくなった。	河原や砂丘に侵入して大株となり、在来植物と競合し、駆逐する。その堆積を促進することで、生態系の物理的な基盤を変化させる。こうした環境に侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	愛知県ではススキのような大型の植物まで駆逐。河原に生育するカワラナギク(絶滅危惧Ⅱ類(VU))やカワラナギナ(準絶滅危惧(NT))への影響が危惧される。	①外来法: 要注意、②W100: 日本③村中: A④FAO: 8、⑤対策: H20:4、⑥専門家: 河原46、⑦各県: 埼玉・愛知・兵庫・広島・愛媛・佐賀・奄美、⑧河川: 61,104,107、⑨三省: 環・農・林・国都・国道	世雑Ⅲ、便覧、外来生物
82	224	イネ	チクゴズズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>	C分布拡大 ～まん延期	重点対策種	①④③			湿地や池沼	IV、V														北アメリカ南部原産。	1970年代に福岡県筑後地方で確認。本州、四国、九州、琉球の一部。	多年草	湿地、水路、水田、湖沼、河川、ため池に生育。キシュウズズメノヒエと分布が重なるが、より水深の深いところに生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	キシュウズズメノヒエの変種。防除困難な水田雑草。	③FAO: C、⑤対策: H20:4、H23:2、⑥専門家: 水生21、⑧河川: 7,9,23	雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅲ、魚取	

Table with 22 main columns: No., 科番号, 科名, 和名(別名, 流通名), 学名, 定着段階, カテゴリ, 被害の深刻度, 別種移住の要性, 特定外来/旧要注意, 特に関与となる地域や環境, 選定理由, 定着可能性, 生態系被害, 分布拡大・拡散, 重要地域, 人体, 経済・産業, 利用, 付着・混入, 生態的特徴, 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等. It contains detailed information on various plant species like Psidium cattleianum, Ipomoea cairica, Phyla canescens, etc., including their origin, characteristics, and management status.

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階 /分布限定	カテゴリ /その他 対策種	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意種	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性 生物 輸入	生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
							被害の深刻度	繁殖可能性					競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候	持続						原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など			
104	203	キク	栽培キク属	<i>Chrysanthemum (Dendranthema) cv.</i>	B定着初期/分布限定	その他 対策種																												キク属は交雑しやすいため知られ、19世紀にはイエギク×インギクのハイブリッド(ウゴシオキク)が確認されている。その他、イエギク×シマカンギク=サンインギク、サンインギク×ノジキク=ニジガハマギク、ナカガワキク×シマカンギク=ワジキク、シオキク×ノジキク、サツマノギク×シマカンギク、オオイワインテン×リュウノウギク=トクシキク、キイシオギク×シマカンギク=ヒメササギク、アワコガネキク×リュウノウギク=シロバナアブラギク、イエギク×コハマギク=ミヤコシマギク、イエギク×シオキク、サツマノギク、サツマノギク×リュウノウギク、キイシオギク×リュウノウギク、シマカンギク×リュウノウギクの雑種が知られている。キク属には、絶滅危惧種として、イワギク(VU)、オオイワインテン(VU)、オオシマノジキク(VU)、キクタニギク(NT)、チシマコハマギク(VU)、チョウセンノギク(EN)、トカラノギク(NT)、ナカガワノギク(NT)、ヒレオギク(VU)、ワカサハマギク(NT)が含まれる。ハナアブにより、お供のキクの花が運ばれていることも指摘されている。	6 専門家:交雑10	花粉、有用、園芸事典、いがり(2007)、中田(1997)
105	0	ミカツゼニゴケ	ミカツゼニゴケ	<i>Lunularia cruciata</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											雌雄異株だが、日本では雌株は未発見で、もっぱら無性芽によって繁殖しているらしい。海外では農業雑草となっている。	11 その他:日本 蕨類学会	便覧、日本蕨類学会、写真図鑑、コゲ309頁、有用、Hattori(1944) Bot. Mag. Tokyo 58: 1-7、GCW	
106	0	ウキゴケ	ウロコハタケゴケ	<i>Riccia lamellosa</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											日本産のウキゴケ属 <i>Riccia</i> は8種とされる。同属の中で最大の植物体をしており、際立つ特徴を持つことから野外においても識別は容易である。繁殖力が強く、同属の在来種と競合している。生育地ではmの地面を覆いつくすことも多く、今後更に拡大すると農業や園芸に被害を及ぼすことが危惧される。学名は広義の <i>lamellosa</i> であり、狭義の種とは別である。	11 その他:日本 蕨類学会	コケ316頁、USDA、古木達郎(2000) 蕨類研究7: 314-316、園芸事典、水草1、日本蕨類学会	
107	0	ウキゴケ	サビイロハタケゴケ	<i>Riccia nigrella</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											同属の在来種と競合しており、今後m分布が拡大することが予測される。	11 その他:日本 蕨類学会	USDA、園芸事典、水草1、日本蕨類学会、河津英子・古木達郎(2005) 蕨類研究9: 6-11	
108	3	イワヒバ	コンテリケラマゴケ (レインボーファン)	<i>Selaginella uncinata</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											温室等で栽培されてきたが、近年温暖地以西で、逸出、野生化している。人家近くの垣根の下部に生育する。明るい日陰を好む。耐寒性はそれほどない。	6 専門家:極相 質、7各県:佐賀、8河川:2.6.7.	便覧、写真図鑑、シダ、有用、園芸事典、JF、GCW、USDA	
109	57	タデ	シヤクテリソバ (シュコンソバ、ヒマラヤソバ)	<i>Fagopyrum dibotrys</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											種子は食用にされ、若芽や若葉は野菜として食べられる。日本では薬用植物として中国から導入され、近年も薬用として栽培されるが、作物としては栽培されていない。	3 村中:C、8河川:17.35.43	便覧、帰化植物、藤井委員、写真図鑑、Ylist、有用	
110	57	タデ	ヒメツルソバ(カンイタドリ)	<i>Persicaria capitata</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											河川では増加しており、自然の岩場に侵入して雑草化する可能性があること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	7各県:奄美、8河川:0.5.13	便覧、写真図鑑、帰化植物、藤井委員、JF、園芸事典、Ylist	
111	57	タデ	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											YListでは、標準名 <i>Rumex acetosella</i> ssp. <i>pyrenaiscus</i> 、別学名 <i>Acetosella angiocarpa</i> 、 <i>Rumex angiocarpus</i> 。種子と根茎により繁殖。種子の伝播は風、雨、動物等による。種子に休眠性がある。アレロパシン作用がある。シュウ酸を含む。	3 村中:C、5対策:H20<4、6 専門家:砂浜24、8河川:43.82.86、10 海外:ISSG	世雑II、便覧、写真図鑑、雑草、Ylist、園芸事典、IPSW	
112	57	タデ	ナガバギシギシ(チジスイバ)	<i>Rumex crispus</i>	C分布拡大 ~まん延期	その他 対策種																											ノハラダイオウ <i>R. pratensis</i> は、 <i>エゾノギシギシ</i> <i>R. obtusifolius</i> との雑種とされる。外国産ギシギシ類は、 <i>ノダイオウ</i> や <i>マダイオウ</i> との交雑が懸念される。海外では、シュウ酸による羊の中毒が報告されている。別学名 <i>Rumex crispus</i> ssp. <i>Fauriei</i> 。	3 村中:C、6 専門家:交雑11*、8河川:39.77.90、10 海外:ISSG	世雑II、便覧、写真図鑑、園芸事典、IPSW	

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
							被害の深刻度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競合	交雑	変異	散布	繁殖	気候	持続						原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など		
113	57	タデ	エゾノギンギン(ヒロハギンギン)	<i>Rumex obtusifolius</i> var. <i>agrestis</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来のギンギン類の生育地周辺	I、II、IV			◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	-	ヨーロッパ原産、温帯	明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州。	1.3m、多年草	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入。	海外では薬用に利用される。国内では本種の利用に関する情報は得られなかった。	-	ノハラダイオウ <i>R. × pratensis</i> は、ナガバギンギン <i>R. crispus</i> との雑種とされる。その他にも複数種の雑種が知られる。外国産ギンギン類は、ノダイオウやマダイオウとの交雑が懸念される。	①外来法: 要注意、③村中: C、④FAO: 6、⑤対策: H20: 4、⑥専門家: 草原43・交雑11*、⑦各県: 青森・愛知・京都、⑧河川: ①1,105,108、⑩海外: ISSG、⑪その他: 藤井委員		便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、JF、帰化植物、藤井委員	
114	64	ナデシコ	ムシトリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ)	<i>Silene armeria</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				河原	IV			◎	-	Q	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	ヨーロッパ原産。各国で観賞用に栽培され、野生化。	江戸時代末期に観賞用植物として渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。	0.7m、一年草	河川敷、市街地、荒地、道端に生育。病気、害虫もなく丈夫である。日当たりと排水の良い肥沃な土壌を好む。	観賞用植物として花壇などで栽培。玉咲きの園芸種などもある。	河川で分布を拡大しており、河原に生育する植物や景観への影響が懸念される。河川を通じて、分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	食虫植物ではない。種子で増殖する。	⑥専門家: 河原17、⑧河川: 50,97,104		便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、JF、帰化植物、藤井委員	
115	64	ナデシコ	マンテマ(マンテマ)	<i>Silene gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				海岸砂地、河原、湖岸の砂地	IV			◎	-	Q	◎	◎	◎	◎	◎	-	(○)	◎	-	ヨーロッパ原産、アジア、オセアニア、南北アメリカ、太平洋諸島等、温帯～熱帯。オーストラリア等では雑草化。	江戸時代に園芸植物として渡来。本州、四国、九州、屋久島。	0.5m、一年草	河川の砂地や疎林、埋立地、路傍の草地、河川敷、畑地、荒地、市街地に生育。海岸や湖岸の砂丘植生において侵略的。	流通、販売される。	河川で分布を拡大しており、種子が風や動物により散布され、海浜の砂地に侵入すること等から、海岸や湖岸の砂丘植生への影響が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	狭義のマンテマ <i>S. gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i> とシロバナマンテマ <i>S. gallica</i> var. <i>gallica</i> を含む。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。	⑧河川: 30,49,62		便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、GCW、世雑II	
116	65	アカザ	ホコガタアカザ	<i>Atriplex prostrata</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				塩湿地	IV			◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	(○)	-	-	ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリアやニュージーランドで雑草化。	1940年渡来。北海道～九州の一部に帰化。	0.8m、一年草	海岸の裸地や海岸埋立地に群生。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	砂浜での回答は外来ハマアカザ類。別学名 <i>A. hastata</i> 。	⑥専門家: C砂浜5・塩湿7、⑧河川: 8,14,24		便覧、写真図鑑、Ylist、帰化植物、世雑II、GCW		
117	78	メギ	ヒラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				都市近郊の森林林床	IV			◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	◎	-	中国～ヒマラヤ原産。イギリスやオーストラリアで雑草化している。	1681～1688年に庭園木として渡来。本州の一部で逸出。	3m、常緑低木	実生、挿木などで繁殖。半日陰地で良く育ち、土質を選ばない。都市近郊の二次林に逸出している。	本属では日本で最も広く植栽されている。庭園や公園に普通に植栽。	河川でやや増加傾向にあり、半日陰を好むこと等から、雑木林への影響が危惧されている。このような環境へ侵入するおそれのある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	別学名は <i>Mahonia japonica</i> 。近縁種のセイヨウヒラギナンテン <i>M. aquifolium</i> はヨーロッパで侵略的な植物とされている。鳥が種子を散布することから、いくつもの県で影響が危惧されている。	⑥専門家: 雑木11、⑧河川: 3,9,15		便覧、有用、木本I、樹木、園芸事典、JF、GCW、IPSW、日本造園学会、藤井委員(1998)
118	93	ケシ	アツミゲン	<i>Papaver somniferum</i> ssp. <i>setigerum</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種					V			◎	-	-	◎	◎	◎	◎	-	-	-	◎	-	北アフリカ原産で世界の各地に帰化。	1964年頃に渡来。関東以南～、九州、四国で逸出。	0.8m、越年草	線路や道路に沿った空地に散る。	花が綺麗なので誤って栽培される。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。不正栽培または自生しているけしを発見した場合は、各地方厚生(支)局 麻薬取締部(支所)、都道府県業務主管課、保健所、警察署へ連絡する。	麻薬取締法の対象種。ケシ <i>P. somniferum</i> と共通点が多く、同種の重種として扱われることもある。別学名 <i>Papaver setigerum</i> 。	⑤対策: H20<4、⑦各県: 千葉・広島・愛媛、⑧河川: 0,1,3		世雑II(母種)、便覧、写真図鑑、西田委員、Ylist	
119	95	アブラナ	ハルザキヤマガラシ(セイヨウヤマガラシ)	<i>Barbarea vulgaris</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	亜高山帯、河川敷	II、IV			◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	(○)	-	◎	-	ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布し、原産地は不明。	明治時代末年に渡来。1960年頃に野生化。北海道、本州、四国、九州に分布。	0.9m、越年草～短命多年草	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高1800m以上の亜高山帯に生育している事例もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	愛知県では、現在のところ自然生態系に大きな影響を与えるほどの量は生育していない。標高が高い地域にも侵入しているため、自然性の高い環境への影響が懸念される。	①外来法: 要注意、②W100: 日本、③村中: B、6、⑤対策: H20<4、H23<2、⑥専門家: 河原30、⑦各県: 青森、⑧河川: 18,39,44		世雑II、外来生物、写真図鑑	
120	95	アブラナ	セイヨウカラシナ(カラシナ)	<i>Brassica juncea</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				河原	IV			◎	×	Q	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	西アジア原産、温帯を中心に分布し、熱帯の一部まで広がる	奈良時代から平安時代初期頃に中国から渡来したらしいが、戦後分布を広げているのはヨーロッパ、北アメリカから入ったものと考えられている。北海道、本州、四国、九州、琉球。	1.5m、一年草	河川敷、堤防、畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい温暖地を好み、肥沃地ほど生育が良い。関西地方の河川敷などに大群落がある。	奈良時代から平安時代初期から栽培される。野菜として栽培されるカラシナの原種で、様々な品種が育成されている。種子からはカラシ油がとれ、良質の薬用植物である。中国では薬用にされる。	河川で分布を拡大しており、大繁りすることから、河原や草原に生育する植物との競合、駆逐が懸念される。河川を通じて、分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	群馬県では大い根が堤防に深く食い込み、堤防の強度低下を引き起こす。アブラナ <i>B. rapa</i> とクロガラシ <i>B. nigra</i> の含ませた雑2倍体、多量に摂取すると中毒の原因になる物質を含む。アロパバー作用がある。広島では特産野菜との交雑を防ぐために駆除。	③村中: C、⑤対策: H23<1、⑥専門家: 河原37・草原28、⑦各県: 埼玉・愛媛・群馬、⑧河川: 44,76,80		世雑II、便覧、園芸事典、JF
121	95	アブラナ	オニハマダイコン	<i>Cakile edentula</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				海岸砂浜	IV			◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	◎	-	北アメリカ東岸中部原産。オーストラリア等で雑草化。	1982年渡来。北海道、本州の一部で帰化。	高さ50cmの～二年草	海岸砂丘に生える。	海外では、多肉質の茎葉を食用にする。	青森県では、在来種と競合している様子は見られないとされている。絶滅危惧種のイソスミレのような砂丘地帯に生える。京都、利尻島などで駆除。標地砂浜の地盤を利用する海産性昆虫等への増殖の影響が懸念。	⑥専門家: 砂浜7、⑦各県: 青森・千葉、⑧河川: 7,8,15		便覧、帰化植物、浅井(1993)、GCW、藤井委員	
122	102	バラ	ピラカンサ類	<i>Pyracantha</i> spp.	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				河原の固有種の生育地	IV			◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	ヨーロッパ東南部からアジアにかけて6種が自生。トキワサンザシ <i>P. coccinea</i> は南東ヨーロッパ～小アジアに分布。タチバナモドキ <i>P. angustifolia</i> は中国原産、ニューゼalandで帰化、オーストラリア、ハワイで侵略的。ヒマラヤトキワサンザシ <i>P. crenulata</i> はヒマラヤ原産、ニューゼalandで帰化、アフリカ南部やオーストラリアで侵略的。	トキワサンザシとタチバナモドキは明治時代に渡来し、本州と九州の一部で逸出。ヒマラヤトキワサンザシは昭和初期に渡来し、本州の一部で逸出。	2～6m、常緑低木	草原、荒地、岩の多い尾根、川岸に生育。耐寒性、耐暑性があり、日当たりさえ良ければ土壌を選ばない。一度定着すれば、耐陰性もある。萌芽により急速に広がる。日本の気候条件下で良く育つ。	花だけでなく果実も美しいので、生垣、庭園樹、鉢物用樹として栽培される。種間雑種から育成された多くの園芸品種がある。雑種の稔性は高い。	河川で増加傾向にあり、丈夫な性質で、鳥により種子が散布されることから、河原の植物への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	⑧河川ではトキワサンザシとタチバナモドキ、その他ヒマラヤトキワサンザシも逸出。実生や挿し木で増やす。刺がある。	⑥専門家: 河原7、⑧河川: 7,14,37,72,74		便覧、樹木、帰化植物、有用、園芸事典、IPSW	

Table with columns: No., 科番号, 科名, 和名(別名, 流通名), 学名, 定着段階, カテゴリ, 被害の深刻度, 変異性・実行可能性, 特定外来種/旧要注意, 特に関与となる地域や環境, 選定理由, 定着可能性 (生物, 輸入), 生態系被害 (競合, 交雑, 改変), 分布拡大・拡散 (散布, 繁殖, 気候, 持続), 重要地域, 人体, 経済・産業, 利用, 付着・混入, 原産地や分布, 日本の分布, 生活型, 生育環境など, 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等. Rows include species like Cytisus scoparius, Desmodium paniculatum, Oxalis pes-caprae, Triadica sebifera, Tetrapanax papyrifer, Conium maculatum, Diodia teres, Cuscuta pentagona, Ipomoea triloba, Verbena spp., Datura spp., Bacopa rotundifolia.

植物WG前に変更した種類または項目、植物WG後に再検討、変更した項目		植物WG後にカテゴリを再検討、変更した種類		植物WG後にカテゴリを再検討、変更した種類																															
No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意種	特に関心となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
							被害の深刻度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候						永続	生活型	生育環境など								
135	203	キク	ネバリノギク	<i>Aster novae-angliae</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	半自然草地	IV														北アメリカ原産	大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。	1.5m、多年草	山村などで野生化している。		近年はあまり栽培されない。アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。	①外来法:要注意、②W100:日本、③村中:C、④河川:2.2.4	便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員	
136	203	キク	ユウゼンギク	<i>Aster novi-belgii</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	半自然草地	IV														北アメリカ原産	大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。	0.7m、多年草	山野に生える。		アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。	⑧河川:2.6.11、⑪その他:藤井委員	便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員	
137	203	キク	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	湿地	IV、V														北アメリカ原産、ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。	1920年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球で帰化。	1.5m、一年草	湿った草地、水田、水路、休耕地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育。一般に水辺や湿地に好んで生育。		本種の利用に関する情報は得られなかった。		種子の寿命は16年に及ぶこともある。水田雑草として、イネや水辺の希少種と競合する。		①外来法:要注意、③村中:C、⑤対策:H20<4、H23:1、⑦各県:北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・愛媛・奄美、⑧河川:7.7,11,12,1	世雑I、便覧、帰化植物、写真図鑑、外来生物
138	203	キク	アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	自然草原	IV														ヨーロッパ原産。北アメリカ、アフリカ南部、オーストラリア。	1960年代渡来、北海道、本州、四国、琉球で帰化。	1.5m、一年草	原野や河川敷に生える。肥沃で湿ったところを好む。		本種の利用に関する情報は得られなかった。		シカによる食害を受けにくく、駆除も困難が増加が危惧。国立公園の北海道利尻島など自然度の高い環境にも定着。		①外来法:要注意、④FAO:6、⑤対策:H20<4、H23:1、⑥専門家:草原28、⑦各県:北海道・愛知、⑧河川:5.13,19、⑩海外:ISSG	世雑I、雑管、便覧、写真図鑑
139	203	キク	ケナシヒメムカシヨモギ(ケナシムカシヨモギ)	<i>Coryza parva</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				海浜	IV														北アメリカ原産。	1926年に牧野富太郎によって新変種として記載された。北海道、本州、四国、九州、琉球、西日本に多い。	1.5m、越年草	道端、空き地などの乾いた開地に生える。		本種の利用に関する情報は得られなかった。		海浜環境で群落を形成する場合、コマツヨイグサと同様に砂の安定化により植生遷移を進めてしまうおそれがある。ヒメムカシヨモギに似ている。別学名 <i>Coryza canadensis</i> var. <i>pusilla</i> 、 <i>Erigeron canadensis</i> var. <i>levis</i> 、 <i>Erigeron pusillus</i>	⑧河川:11.21,20、⑪その他:藤井委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、Ylist	
140	203	キク	ハルシャギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				湿地、河原	IV														北アメリカ西部原産。	明治初期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原で逸出帰化。	1.2m、一年草	河川敷の草地、路傍、空気に生える。		ハルシャギクは園芸植物として渡来。コレオプシスの通称名で様々な園芸品種が流通、利用されている。特定外来生物に指定されたオオキンケイギクの代わりに利用が推奨されている可能性がある。	河原の在来植物との競合、駆逐が懸念されている。近縁種のオオキンケイギクは特定外来生物に指定されており、他の近縁種も同様の影響が懸念される。こうした影響を及ぼす場所への持ち込みは行うべきではない。	③村中:C、⑤対策:H20<4、H23:1、⑥専門家:河原9、⑦各県:埼玉、⑧河川:24,39,52	便覧、帰化植物、写真図鑑		
141	203	キク	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種			旧要注意	山地や亜高山帯の草原	II、IV														北アメリカ原産、世界各地に帰化	江戸時代末期に渡来、明治初年には広く帰化。北海道～九州で帰化。	1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。		若芽は食用にできる。海外では薬用利用もある。国内でも流通がある。		農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入する。	①外来法:要注意、②W100:日本③村中:A、④FAO:6、⑤対策:H20<5、H23:1、⑥専門家:草原51、⑦各県:青森・埼玉・愛知・京都・滋賀・愛媛、⑧河川:7.8,11,12,1	雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑I、JF、有用	
142	203	キク	ペラペラヨメナ(ペラペラヒメジョオン、メキシコヒナギク、エリゲロン・カルピンスキアヌス、源平小菊、ゲンベイコギク)	<i>Erigeron karvinskianus</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				海岸や川岸の岩壁	IV														中央アメリカ原産、アフリカ、ニュージーランド、ハワイ、ヨーロッパ	1949年渡来、本州、四国、九州、琉球で帰化	0.4m、多年草	農耕地、自然林、植林地、河川、攪乱地、市街地、湿地に生育。日本では、石垣の隙間や川沿いの崖などに生える。箱根や伊豆では、川岸などの自然の岩壁にも侵入している。		花卉として栽培される。源平小菊、ゲンベイコギク、エリゲロン・カルピンスキアヌスの名前でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも自然の岩壁に侵入して在来植物への影響が懸念されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	メキシコヒナギクは琉球でつけられた名前。別学名 <i>Vittadina triloba</i> 。	④FAO:6、⑦各県:広島、⑩海外:ISSG	便覧、帰化植物、写真図鑑、勝山委員、Ylist、JF、IPSW	
143	203	キク	マルバフジバカマ(ユーパトリウム・チョコレート)	<i>Eupatorium rugosum</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				二次林やスギ林の林床	IV														北アメリカ原産。	1896年に渡来。1916年に逸出し、北海道、本州、四国、九州で帰化。関東周辺に多い。	1m、多年草	市街地、路傍の石垣の間、日陰、特にスギ林の下に多く生える。		強羅自然公園の植栽品から逸出して、ユーパトリウム・チョコレート等の名前でも流通している。	耐寒性や耐陰性があり、樹林内へも侵入することから、林床に生育する在来植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	箱根では樹林内に侵入している。Y-Listでは、 <i>Ageratina altissima</i> 。	⑪その他:勝山委員	便覧、写真図鑑、Ylist、園芸事典	
144	203	キク	コウリンタンポポ(エフデナンポポ)	<i>Hieracium aurantiacum</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				寒冷地や亜高山帯の自然草原	II、IV														ヨーロッパ原産、アジア、北米にかけて広く分布。	明治中期に渡来、戦後帰化した。北海道～九州で逸出帰化。マット状に群生する。北海道にはサハリンから入った。	0.5m、多年草	原産地では高山に生える。山地の草地、畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育。乾いたところに多く、土壌pHの低い所にも生育する。雪や霜に耐えられる。酸性の強くない肥沃地では、他の雑草との競争力が弱い傾向にある。		園芸植物として渡来。花壇やロックガーデンに植えられる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、貴重な生態系である高山帯でも生育できる。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	大雪山国立公園では山麓、林道に侵入。特別保護地区への侵入が懸念される。北米の一部では強毒雑草になっている。	⑦各県:北海道、⑧河川:5.6.6、⑩海外:ISSG	世雑I、便覧、帰化植物、環境等、園芸事典、有用、JF	
145	203	キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				亜高山帯	II、IV														ヨーロッパ原産、アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がっており、世界的にみられる。	江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出、帰化。特に北海道に多い。	0.8m、多年草	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。		園芸植物として渡来、庭園で栽培。	海外では畑地の雑草となっている。日本では高山地域にまで侵入しているため、各地の国立公園等で駆除の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みを行うべきではない。	別学名 <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> 。マーガレット(モクシユンギク) <i>Argyranthemum frutescens</i> と混同されている場合あり。種子と地下茎で繁殖する。芝生種子等に混入もある。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みを行うべきではない。各地の国立公園で駆除が行われている。	③村中:B、⑤対策:H20<6、H23:1、⑥専門家:草原33、⑦各県:北海道、⑧河川:2.0,5,8,7	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、Ylist、世雑I	
146	203	キク	アラゲハンゴンソウ(キヌガサギク、ルドベキア・ヒルタ、グロリオサ・デージー)	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>	C分布拡大 ～まん延期	その他の総合対策種				湿原、自然草原	II、IV														北アメリカ原産	1930年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出、帰化。	0.9m、二年草	造成地、法面、牧場等に生育。全国の山岳道路沿いにみられ、北海道の原生花園やアポイ岳の麓にも生育。		園芸植物として渡来。グロリオサ・デージー'Gloriosa Daisy'をはじめ、様々な園芸品種が利用されている。	山岳道路沿いに分布を拡大し、鋼路湿原等の生物多様性の保全上重要な地域で駆除の対象になり、草原の在来植物との競合が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所への持ち込みは行うべきではない。	オオハンゴンソウの近縁種。アポイ岳の麓で採集、報告された。乗鞍など各地の重要地域で駆除が行われている。牧草種子または家畜飼料に混入して分布を拡大したとされる。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原27、⑧河川:1.0.6	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、有用、園芸事典	

Table with columns: No., 科番号, 科名, 和名(別名, 流通名), 学名, 定着段階, カテゴリー, 被害の深刻度, 変異性・実行可能性, 特定外来/旧要注意, 特に関与となる地域や環境, 選定理由, 定着可能性(生物, 輸入), 生態系被害(競争, 交雑, 改変), 分布拡大・拡散(散布, 繁殖, 気候, 永続), 重要地域, 人体, 経済・産業, 利用, 付着・混入, 原産地や分布, 日本の分布, 生活型, 生育環境など, 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等.

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	植物WG後に再検討・変更した項目				特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性	生物 輸入	生態系被害					重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
							別種優先度の要件		分布拡大・拡散							競争	交雑	改変	散布	繁殖						気候	持続	原産地や分布							日本での分布		生活型	生育環境など
							被害の深刻度	変異性・実行可能性	原産地	日本																		原産地	日本									
180	224	イネ	コヌカグサ(レッドトウモロコシ、クワコヌカグサ)	<i>Agrostis gigantea</i> , <i>Agrostis nigra</i>	C分布拡大 ～まん延期	産業管理 外来種																					ヨーロッパ産、北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯～亜寒帯、合衆国やカナダで侵略的とされる。	明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球(奄美大島)	1.0m、多年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好む。	・飼料用、特に放牧用として利用されている。種子流通量は多くはないが、国内の種苗会社から販売されている。 ・牧草としては、生産性や栄養価はあまり高くはないもの、やせた土地などの条件不利地や林間放牧等での利用においては、代替となる種はほとんどない。 ・いくつかの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	・河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。 ・国立公園や草原に特有な希少種等が生育する自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防ぐために、結実前に刈り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	種子、地下茎および匍匐茎で繁殖する。1種当たりの生存種子数は約1,000個、休眠期間が長く、澄んだ土壌表面で容易に発芽する。土壌中の種子の寿命は5年以上。アレロパシー作用を持つ。 世界的に温帯～亜寒帯地域にみられる畑地雑草で、コムギ、オオムギ、エンバク、牧草類、果樹類の減収や品質低下をもたらす。日本でもコムギ、バレイシヨ、ナンサイ畑の雑草とされる。在来種が再生するような環境では、コヌカグサを緑化につかうべきではないとされる(ISSG)。コヌカグサの別学名 <i>Agrostis alba</i> 、コヌカグサとクワコヌカグサとの間には中間型もあり、同種として扱う見解もあるため、両種を含む。	③村中・B、⑦各県:青森・栃木・奄美、⑧河川:52.87.93、⑨三省:環・農・林・国道、⑩海外:ISSG	便覧、イネ、世雑Ⅲ、雑穀、花粉、粗飼料、花、粉、農林水産省・林野庁、農産物検査、Ylist、GOW、農産物検査、イネ、農産委員			
181	224	イネ	カモガヤ(オーチャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>	C分布拡大 ～まん延期	産業管理 外来種				旧要注意	山地草原	Ⅱ、Ⅳ															地中海～西アジア原産、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯	1861～1864年(文久年間)に渡来、1868年(明治初年)にアメリカから導入、北海道、本州、四国、九州、琉球	1.5m、多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好む。	・飼料用(主に採草用)としてチモシーと並び最も広く利用されており、沖縄を除く全国で栽培されており、特に北海道～東北地方では基幹となる草種。世界的に利用されている草種のひとつ。 ・牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 ・多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 ・生産性・持続性・栄養価等の観点から、代替となる草種はない。 ・多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	・海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査で法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 ・牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布 家畜改良センター法 §10①三)として、増殖を行っている。 ・トウモロコシ、モロコシ、コムギ、牧草、果樹の雑草。イネ科やマメ科の牧草種子に混入して、品質を低下。 ①外来法:要注意、②W100:日本③村中:A、④FAO:10、⑤専門家:草原42、⑦各県:青森・埼玉・愛知・兵庫・奄美、⑧河川:57.104.105、⑨三省:環・農・林・国道	便覧、燻化植物、写真図鑑、世雑Ⅲ、雑穀、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省・林野庁				
182	224	イネ	オニウシノケガサ(トルフェスク、ケンタッキー31フェスク)	<i>Festuca arundinacea</i>	C分布拡大 ～まん延期	産業管理 外来種				旧要注意	農草地、河川堤防などの半自然草地、亜高山帯の草地	Ⅱ、Ⅳ															ヨーロッパ、北アメリカ、アジア原産、亜寒帯～暖帯	1905(明治38)年に導入、北海道、本州、四国、九州、琉球、亜高山帯の自然公園にも侵入	2.0m、多年草	牧草地、市街地、運動場、庭、路傍、荒地、河原、林縁等に生育。日当たりの良い、肥沃で水分の豊富な所を好む。	・チモシーやオーチャードグラスと比較すると栄養価は劣るが、環境変化に適したため飼料用(主に放牧用)や緑化用として全国で利用されている。特に、寒地帯の永年性の牧草としては、関東以西の温暖地で利用可能な種が非常に少なく、代替品種はない。世界的に利用されている草種のひとつ。 ・牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 ・多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 ・多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・「生態系環境配慮型トルフェスク」として、農研機構及び雪印種苗が共同開発した「MST-1(無花穂トルフェスク)」や生産性の低い「ボンサイ3000(矮性トルフェスク)」という品種が開発されているが、種子の価格が高いことや生産性が低いことから、緑化用としての利用に限定されており、代替は非常に困難。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。 ・奄美地域では、要注外来生物に選定される等で利用されなくなった。	・海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査で法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 ・牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布)として、増殖を行っている。 ・オーストラリア、ニュージーランド、合衆国の一部地域で侵略的となっている。 ①外来法:要注意、②W100:日本③村中:A、④FAO:8、⑤専門家:草原43、⑦各県:青森・栃木・埼玉・愛知・兵庫・奄美、⑧河川:61.99.112、⑨三省:環・農・林・国道	世雑Ⅲ、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省・林野庁				
183	224	イネ	ドクムギ属(ライグラス類)	<i>Lolium</i> spp.	C分布拡大 ～まん延期	産業管理 外来種				旧要注意	河原や自然草原、ボウムギは海岸砂地	Ⅳ															ヨーロッパ原産、温帯～暖帯	明治時代に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球	1.0m、一年草～多年草	畑地、樹園地、路傍、空地、荒地に生育。日当たりの良い、温暖な肥沃地を好む。	で利用されており、関東以西の単年性牧草としては、(おそらく)最も利用されている草種。北海道・沖縄を除く地域では、基幹となる草種。 ・牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 ・多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 ・多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 ・比較的耐湿性を有することから水田裏作での栽培に適していることや、さらに生産性・栄養価・嗜好性等非常に優れており、代替となる種はない。 ・緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。	河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、河川敷への侵入が問題となっている。国立公園や、特有な希少種等が生育している河川敷周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分するよう努める。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	・(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布 家畜改良センター法 §10①三)として、増殖を行っている。 ネズミムギ(<i>イタリアライグラス</i>) <i>L. multiflorum</i> 、ヤブムギ(<i>ベニアラライグラス</i>) <i>L. perenne</i> 、これらの雑種であるハイブリッドライグラス <i>L. x hybridum</i> 等が利用される。家畜に食べられて糞に混入して運ばれることが多い。アレロパシー作用がある。ボウムギ <i>L. rigidum</i> は海岸砂地に野生する。 ①外来法:要注意、③村中:B、④FAO:8、⑤対策:H23-2、⑥専門家:河原37、⑦各県:青森・栃木・埼玉・愛知・兵庫・奄美、⑧河川:本12.42.66.82、32.57.12.12、56.100.108、57.5.8.19.22、57.0.0.3、57.12.12、3.6.5.9三省:環・農・国道、⑩藤井委員	世雑Ⅲ、雑穀、花粉、粗飼料、農林水産省・林野庁、農産委員、写真図鑑				

Table with columns for species information (No., 科番号, 科名, 和名, 学名, 定着段階, カテゴリ, 被害の深刻さ, 変異性, 実行可能性), distribution (地域別), ecological characteristics (生態的特徴), utilization (利用状況), and management (管理). Includes species like Phleum pratense, Mowsonia adulis, Vulpia myuros, Panicum maximum, Paspalum notatum, and Pennisetum purpureum.

Table with columns: No., 科番号, 科名, 和名(別名, 流通名), 学名, 定着段階, カテゴリ, 別種名, 特定外来種/旧要注意, 特に関心となる地域や環境, 選定理由, 定着可能性, 生態系被害, 分布拡大・拡散, 重要地域, 人体, 経済・産業, 利用, 付着・侵入, 生態的特徴, 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等. Rows include species like ムラサキツメクサ, シロツメクサ, キバナノマツバニンジン, シナアブラギリ, メマツヨイグサ, アレチマツヨイグサ, マツヨイグサ, メリケンムグラ, マルバルコウ, ママアサガオ.

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリー	被害の程度		特定外来種/旧要注意	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴			利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
							被害の程度	被害の程度				生物	輸入	競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続						原産地や分布	日本での分布	生活型						生育環境など
215	183	シソ	ヨウシュハッカ	<i>Mentha arvensis</i>	C分布拡大 ~まん延期																				ヨーロッパ原産、北米で帰化。	1975年に渡来、本州、九州の一部で逸出、帰化。ややまれ。	0.7m、多年草	畑地、溝、土手、水路、あぜ、湿った牧草地、林縁などに生育。気候的には冷涼で、湿潤な肥沃地を好む。生活環境に対する適応性が高い。	香料に用いる。日本には栽培用に導入され、一部に帰化。近年の利用に関する情報は得られなかった。			多形な種で、地理的な変異が認められている。在来種のハッカ <i>Mentha arvensis</i> var. <i>piperacens</i> は変種で、競合する可能性がある。不快な臭いがある。本属は種間交雑が容易に起こるが、交雑種はしばしば不稔とされる。	⑧河川:0.4,12	雑種 I、便覧、写真図鑑、帰化植物、園芸事典
216	183	シソ	マルバハッカ(ニガハッカ)	<i>Mentha suaveolens</i>	C分布拡大 ~まん延期																				ヨーロッパ原産、ニュージーランド等に帰化。	渡来年代不明、関東～四国、九州で逸出、帰化。	0.8m、多年草	湿った道端や空地に生える。人家付近で野生化する。繁殖力が旺盛である。	ハーブとして栽培され、多用される。			<i>M. rotundifolia</i> は本種とナガバハッカ <i>M. longifolia</i> の雑種ではないかと考えられている。	⑧河川:0.1,19	便覧、写真図鑑、園芸辞典、GCW
217	183	シソ	アメリカハッカ	<i>Mentha x gentilis</i>	C分布拡大 ~まん延期																				ヨーロッパ、北アメリカ	渡来年代は不明だが、1931年に大阪で採集。北海道、本州、四国で、まれに帰化。	0.8m、多年草		日本での本種の栽培に関する情報は得られなかった。			ヨウシュハッカとオランダハッカ(ミドリハッカ)の雑種。ハッカの仲間には雑種を作り易い。	⑧河川:0.2,10	便覧、帰化植物
218	184	ナス	ワルナスビ	<i>Solanum carolinens</i>	C分布拡大 ~まん延期																				北アメリカ原産、温帯～熱帯	明治末期に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に帰化。	0.8m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、河原、市街地などに生育。乾燥や日陰に強い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			茎、葉の脈上、花序などに鋭い刺がある。ソラニンなどの有毒物質を含む。牧草に混入して分布拡大。	①外来法:要注意、③村中:B、④FAO:7、⑤対策:H20:4、H23:2、⑦各県:埼玉・愛知・京都・鳥取・滋賀、⑧河川:27.41.56	雑種 I、雑管、写真図鑑、牧草
219	186	ゴマノハグサ	ヒサウチソウ	<i>Bellardia trixago</i>	C分布拡大 ~まん延期																				地中海沿岸原産、北アメリカやオーストラリアにも帰化。	1982年渡来。三重、愛知、徳島、香川に帰化。本管三川や琵琶湖畔で繁茂中。	0.3m、半寄生の一年草	荒地、海岸近くの草地に生える。	利用に関する情報は得られなかった。			カリフォルニアの侵略的な外来植物にあげられている。一度侵入すると防除困難な害草である。	⑪その他:藤井委員	便覧、写真図鑑、帰化植物、藤井委員、IPCW
220	186	ゴマノハグサ	マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>	C分布拡大 ~まん延期																				北アメリカ原産、亜寒帯～熱帯	1941年渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球。	0.5m、一年草	牧草地、荒地、路傍、河川敷、芝生の中などに生育。日当たりのよい乾いた砂質土壌に多い。瀬戸内海沿岸でみられる。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			吉野熊野国立公園の七里御浜(第一種特別地域)など海岸線に侵入、繁茂。ゴルフ場などに発生して問題となることもある。種子の寿命が58年との記録あり。海外では牧草地の雑草。	⑦各県:京都、⑧河川:21.53,82	雑種 I、便覧、写真図鑑、環境省、帰化植物
221	186	ゴマノハグサ	セイヨウヒキヨモギ	<i>Parentucellia viscosa</i>	C分布拡大 ~まん延期																				地中海沿岸原産、ヨーロッパ、南北アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア	1973年渡来、本州、四国、九州、琉球で帰化	0.7m、半寄生の一年草	路傍、堤防に生育。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			海外で侵略的な外来種とされ、草本としては大型であること、種子の生産量が多く寿命も長いこと等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれがある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	⑥専門家:草原7、⑦各県:広島、⑧河川:2.10,23	便覧、帰化植物、写真図鑑、GCW
222	186	ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ(ニワタバコ)	<i>Verbascum thapsus</i>	C分布拡大 ~まん延期																				ヨーロッパ原産、アジア、オーストラリア、南北アメリカなど寒帯～温帯	明治初年に、観賞用に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球で帰化。	2m、一年草	畑地、牧草地、放牧地、路傍、荒地、鉄道沿線などに生育する。日当たりの良い砂質土壌に多い。土質を選ばずよく育ち、こぼれ種子で増えていく。	近縁種との雑種を含む園芸品種が観賞用に栽培される。薬用に育ち、こぼれ種子で増えていく。			海外で侵略的な外来種とされ、草本としては大型であること、種子の生産量が多く寿命も長いこと等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれがある場所へは、持ち込みを行うべきではない。	⑥専門家:河原40、⑧河川:21.34.44、⑩海外:ISSG	雑種 I、便覧、帰化植物、園芸事典、有用
223	186	ゴマノハグサ	コテングクワガタ	<i>Veronica serpyllifolia</i> ssp. <i>serpyllifolia</i>	C分布拡大 ~まん延期																				ヨーロッパ原産、南北アメリカ、中国、ニュージーランドに帰化。	1947年渡来。北海道、本州、四国で帰化。亜高山帯の林縁にまれに帰化している。栃木県ではシカによる在来植物の食害と、足への付着により分布を拡大。	0.2m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、芝生、路傍、林縁などに生育する。肥沃で湿った所を好む。よく分枝してマット状に広がる。	北海道では水田畔のカバープラントに使われたことがある。			在来種のテングクワガタ <i>V. serpyllifolia</i> ssp. <i>humifusa</i> は亜種。	⑦各県:栃木、⑧河川:0.0.6、⑩海外:ISSG	雑種 I、便覧、帰化植物、写真図鑑
224	188	ノウゼンカズラ	キササゲ	<i>Catalpa ovata</i>	C分布拡大 ~まん延期																				中国原産	庭園樹として古い時代に渡来。本州、四国、九州で逸出帰化。東京都多摩川で多数が生ずる。	10m、落葉高木	しばしば人家近くの川岸などに野生化している。	古くから暖地で、薬用または観賞用に栽培される。材を下駄などに利用したり、若葉を食用にもした。			種子は風散布される。古くから利用されているわりには、確認河川数は多くなく、侵略性に関する情報が少なかった。	⑧河川:10.21.19、⑪その他:環境省	便覧、木本II、有用、日本緑化工学会誌 34(1)、69-74、園芸事典、JF
225	196	オオバコ	ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>	C分布拡大 ~まん延期																				ヨーロッパ原産、オーストラリア等、熱帯～寒帯	江戸時代末期に牧草種子に混入して渡来。北海道～九州、琉球で帰化。	0.7m、二～多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、市街地、空地、河原、草原、芝地、牧草地など、日当たりの良いところから日陰地まで生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			牧草地や芝地の雑草。草原への影響。	①外来法:要注意、④FAO:7、⑤対策:H23:1、⑥専門家:草原44、⑦各県:北海道・青森・愛知・愛媛、⑧河川:52.99.102	雑種 I、花粉、便覧、帰化植物、写真図鑑、外来生物
226	203	キク	ブタクサ	<i>Ambrosia elatior</i>	C分布拡大 ~まん延期																				北アメリカ原産、アジア、ヨーロッパに帰化	明治初期渡来、北海道～九州、琉球に帰化。	1.5m、一年草	畑地、牧草地、空地、道端、河川敷、土壌の種類や水分に対する適応性が高く、畑を放棄するとブタクサ群落になる。	若芽は煮てから水にさらして食べられる。果実には約20%の油脂を含み、食用になる。研究用にブタクサ花粉が販売されている。花粉対策用にブタクサ茶が販売されている。種子や苗の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。			遷移が進むと消えるが、シードバンクを作る。	①外来法:要注意、③村中:C、⑤対策:H23:2、⑦各県:北海道・青森・愛知・京都・鳥取・愛媛、⑧河川:61.97.102	雑種 I、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、有用
227	203	キク	ヒロハホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>sandwicensis</i>	C分布拡大 ~まん延期																				北アメリカ原産、南北アメリカ、アジア、オセアニアなどの温帯に分布。	1960年代に渡来。80年代以降に増加。本州、四国、九州で帰化。関西ではホウキギクと置き換わっている場所が多い。	1.5m、一～多年草	路傍、空き地、河川敷、休耕畑、造成地。九州では休耕田、水田、イグサ田に発生する。ホウキギクと同様の場所に生え、混生することが多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			ホウキギクとの間でムラサキホウキギクと呼ばれる不稔の雑種ができる。別学名 <i>Aster subulatus</i> var. <i>ligulatus</i> 他、ホウキギクより後から侵入し分布を拡大。塩湿地への影響が懸念される。	③村中:C、⑦各県:埼玉・京都、⑧河川:35.68,87	便覧、写真図鑑、帰化植物、Ylist
228	203	キク	ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>subulatus</i>	C分布拡大 ~まん延期																				北アメリカ原産、南北アメリカ、アフリカ、オセアニアに分布。	1910年頃に渡来。20年頃には増えただ。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島。	1.5m、一～多年草	空地、埋め立て地、畑地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。明るいやや湿った所を好む。	本種の利用に関する情報は得られなかった。			ヒロハホウキギクとほぼ同じ範囲に分布しているが、個体数はより少ない。ヒロハホウキギクとの間でムラサキホウキギクと呼ばれる不稔の雑種ができる。	③村中:C、⑥専門家:塩田15、⑧河川:53.84,83	雑種 I、便覧、帰化植物、写真図鑑

Table with columns for species identification (No., 科名, 和名, etc.), biological characteristics (生態的特徴), and impact assessment (被害の程度, etc.). Rows include species like Conyza sumatrensis, Erigeron canadensis, and Bromus diandrus.

No.	科番号	科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	被害の深刻度		特定外来種/旧要注意種	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散			重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	生態的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
							被害の深刻度	変異性・実行可能性				生物	輸入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候						永続	生活型	生育環境など								
242	128	クロウメモドキ	イヌナツメ(インドナツメ)	<i>Ziziphus mauritiana</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	○	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	熱帯アフリカやアジアに分布。インドや東南アジア、中国南部で栽培	熱帯アフリカやアジアに分布。インドや東南アジア、中国南部で栽培	2m, 低木	農耕地、自然林、河岸、攪乱地、乾燥した熱帯地域に植えられ。牧草地、森林、サバナで侵略的。	インドでは、ナツメよりも本種の方が果実として重要。市場でも果実が売られる。飼料、薬用、材、薪炭にも利用。日本でも流通している。		⑩海外:ISSG	有用, JF		
243	142	ミノハギ	タバコソウ(ベニチョウジ)	<i>Cuphea ignea</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	-	(◎)	○	(○)	○	-	-	○	-	メキシコ原産、ハワイ等に侵入	メキシコ原産、ハワイ等に侵入	1m, 低木状の草本	自然林、植林地、川岸、攪乱地、湿地に生育。	本属の中では最も普通に栽培される。苗木入手容易。この属の植物は、ほかに10種あまりが観賞用に利用される。日本でも、観賞用に鉢植えや花壇に栽培される。		⑩海外:ISSG	有用、園芸、熱帯花木、JF		
244	147	ノボタン	シコンノボタン	<i>Tibouchina urvilleana</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	-	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	ブラジル原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	ブラジル原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	1.5m	農耕地、自然林、攪乱地、低木林、市街地	この属で最も広く観賞用に栽培される。日本でも観賞用に栽培される。苗木入手容易。繁殖は挿し木。		⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、日本造園学会		
245	150	アカバナ	フクシア・ポリビアナ	<i>Fuchsia boliviana</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	○	(◎)	x	-	-	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	ペルー〜アルゼンチン原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	ペルー〜アルゼンチン原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	5m, 低木	自然林、植林地。攪乱地	日本でも栽培可能。種子が販売されていた。変種も数種ある。		⑩海外:ISSG	熱帯花木、有用		
246	150	アカバナ	ツリウキソウ(フクシア・マゲラニカ)	<i>Fuchsia magellanica</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	-	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	チリ〜アルゼンチン原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	チリ〜アルゼンチン原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	3m, 低木	林縁、低木林、森林、川岸。耐寒性はフクシアの中では最も強く、関東以南の環境には耐えるが、暑さには弱い。	日本でも栽培可能。販売されている。種内の変異が大きく、変種や園芸品種などがいくつもある。		⑩海外:ISSG	熱帯花木、有用、IPSW		
247	151	グンネラ	オニブキ	<i>Gunnera manicata</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	○	-	(◎)	○	(○)	○	-	-	○	-	南ブラジル原産	南ブラジル原産	2m, 草本	日当たりがよく、深い肥沃な土地で、池や流れの縁などに十分に水の供給できる場所に適する	この属の最大になり、観賞用に庭園等に植えられる。日本でも栽培される。流通している。		⑩海外:ISSG	有用、園芸事典、JF		
248	151	グンネラ	コウモリガサソウ	<i>Gunnera tinctoria</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	○	-	(◎)	○	(○)	○	-	-	○	-	チリからコロンビアに分布。ヨーロッパ、北アメリカ、ニュージーランド等で侵略的。	チリからコロンビアに分布。ヨーロッパ、北アメリカ、ニュージーランド等で侵略的。	1.5m, 多年草	沿岸地帯、自然林、河岸、湿地。日当たりがよく、深い肥沃な土地で、池や流れの縁などに十分に水の供給できる場所に適する。	日本でも栽培される。流通している。海外では食用、薬用、染料等に利用される。		⑩海外:ISSG	園芸事典、JF、IPSW		
249	174	キョウチクトウ	メキシコキョウチクトウ(キバナキョウチクトウ)	<i>Thevetia peruviana</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	-	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	熱帯アメリカから西インド諸島原産。	熱帯アメリカから西インド諸島原産。	5m, 常緑小高木	農耕地、攪乱地、低木林、市街地。耐陰性はない。	観賞用に栽培される。果実の核を装飾用に利用。薬用に利用。苗木入手容易。		⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、Ylist、園芸事典、JF		
250	188	ノウゼンカズラ	ヒメノウゼンカズラ	<i>Tecoma capensis</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	○	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	南アフリカ原産。合衆国やオーストラリア等に侵入。	南アフリカ原産。合衆国やオーストラリア等に侵入。	2.5m, ややつるの常緑低木	攪乱地、市街地。日当たりの良い場所を好む。やや乾燥気味の高湿で周年開花。	鉢物として多く利用。壁に沿って育てたり、生垣にする。日本でも栽培されている。苗木入手容易。色変わり園芸品種がある。		⑩海外:ISSG	有用、熱帯花木、JF、園芸事典		
251	203	キク	ツルヒヨドリ(ツルギク)	<i>Mikania cordata</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	-	◎	x	-	◎	◎	◎	○	◎	-	(○)	-	○	-	旧世界の原産で、アフリカ、アジア、太平洋諸島の熱帯〜亜熱帯に分布。	旧世界の原産で、アフリカ、アジア、太平洋諸島の熱帯〜亜熱帯に分布。	20m以上、つる植物	畑地、樹園地、牧草地、川岸、路傍、荒地に生育する。雨量が1,500mm以上で肥沃な湿った所を好み、乾いた所には少ない。日陰地では生育が悪い。湿地環境で深刻な影響を与えている。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		①その他:横田委員→M. micranthaへ	写真図鑑、横田委員→M. micranthaへ、世雑 I	
252	204	キバナオモダカ	キバナオモダカ(ヌマオオバコ)	<i>Limnorchis flava</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	○	(◎)	x	-	◎	(◎)	○	(○)	○	-	-	-	-	熱帯アメリカ原産、世界の熱帯地域に広く帰化	熱帯アメリカ原産、世界の熱帯地域に広く帰化	0.8m, 多年草	—	観賞用に温室で栽培。日本でも栽培されている可能性。海外では、若葉や花序は野菜として食用にされる。		⑩海外:ISSG	有用、Ylist、角野委員		
253	212	リュウゼツラン	フルクラエア・フォエティダ(フォエチダ)	<i>Furcraea foetida</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	-	(◎)	○	(○)	○	-	-	○	-	ブラジル原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	ブラジル原産。ハワイやレユニオンで侵略的。	2.5m, 多肉の草本	農耕地、自然林、攪乱地、低木林に生育する。	海外では観賞用や繊維をとるために利用される。日本でも販売されている。葉に斑の入る園芸品種もある。		⑩海外:ISSG	園芸事典、JF、PIER		
254	233	ショウガ	ショウズク(カルダモン)	<i>Elettaria cardamomum</i>	D小笠原・南西諸島/A未定着							○	◎	(◎)	x	-	-	(◎)	○	(○)	○	-	-	○	-	インド南西部の原産。スリランカ、マレーシア等で栽培。	インド南西部の原産。スリランカ、マレーシア等で栽培。	3m, 多年草	自然林、植林地。越冬温度は8〜12℃。	種子を香辛料にする。		⑩海外:ISSG	有用、園芸事典、JF		
255	66	ヒユ	ツルノゲイトウ(ホシノゲイトウ)	<i>Alternanthera sessilis</i>	D小笠原・南西諸島							◎	x	-	◎	◎	◎	○	○	○	○	-	-	-	-	南アメリカ原産、北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなど、熱帯〜亜熱帯を中心に温帯の一部にまで広がる。	南アメリカ原産、北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなど、熱帯〜亜熱帯を中心に温帯の一部にまで広がる。	長さ0.5m、一年草〜多年草	水田、休耕地、湿地、畦畔、河原、沼沢、林縁などに生育する。日当たりの良いところ〜半日陰地に生育するが、湿った方が生育が良い。	海外では、若芽や葉が野菜として利用され、ときに栽培される。中国では薬用にされる。園芸的に栽培されるのは、 <i>A. ficoidea</i> 'Sessilis'と思われる。		⑧河川:13.21.26、⑩海外:ISSG	世雑 II、便覧、植物図鑑、増補植物図鑑、JF、有用、園芸辞典		
256	186	ゴマノハグサ	オトメアゼナ	<i>Bacopa monnieri</i>	D小笠原・南西諸島							○	x	-	○	○	○	○	○	○	○	-	(○)	○	-	北アメリカ等が原産。ケイマン諸島に侵入。	戦後渡来、沖縄に帰化。	0.3m, 水生の多年草	池、水路、溝などの岸辺に生育する。日当たりの良い水溜まりであれば、土壌の種類は選ばない。	インドでは薬用にされる。パコパ類は販売、利用されている。		①外来種:要注意、④FAO:7、⑩海外:ISSG	世雑 I、便覧、水草 II		
257	224	イネ	シンクロナイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>	D小笠原・南西諸島							◎	x	-	◎	○	◎	○	○	○	○	-	(◎)	-	◎	-	熱帯アメリカ原産、北アメリカ、南ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、太平洋諸島など熱帯〜亜熱帯に分布。	熱帯アメリカ原産、北アメリカ、南ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、太平洋諸島など熱帯〜亜熱帯に分布。	0.8m, 一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい肥沃な土壌を好み、乾いた土壌〜湿った土壌に適応。	本種の利用に関する情報は得られなかった。		⑤対策:回答ではクロナイガC. browniiだが、シンクロナイガと考えられる。小笠原では返還時(1968年)頃の勢力は弱い。侵入年代が古く、勢力が衰えてきたこと、利用による分布拡大の可能性が低いことから掲載対象外とした。	⑤対策:H20<4、⑦各県:小笠原	世雑 III、便覧、写真図鑑

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 植物の掲載種の付加情報(根拠情報)(案)【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

No.		科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	定着可能性		生態系被害				分布拡大・拡散				生息的特徴				利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
No.		科名	和名(別名、流通名)	学名	定着段階	カテゴリ	生物	輸入	競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続	重要地域	人体	経済・産業	利用	付着・混入	分布	生活型	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
植物WG前に変更した種類または項目、植物WG後に再検討・変更した項目																													
植物WG後にカテゴリを再検討・変更した種類																													
定着を予防する外来種(定着予防種)																													
侵入予防種																													
1001	0	イワツタ	変異種のイチイツタ(キラークマノエ)	<i>Caulerpa taxifolia</i>	XA未定着	侵入予防種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	海藻	熱帯～亜熱帯海域に分布するものは20℃以下では生存できないが、地中海に生育するものは10℃以下でも死滅しない。	本種の流通、販売は確認されなかったが、水族館で展示されていることもあり、観賞用の海藻として熱帯魚店などで販売される可能性がある。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも利用されている可能性が高い。栽培に用いた水を含め、自然海域に持ち込むべきではない。	緑藻植物門	②W100:IUCN・日本、⑦各県:佐賀、⑩海外:ISSG、⑪その他:岩崎委員	H16第1回G会合植物資料、海洋産業研究会(2003)	
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																													
緊急的防除種																													
1002	109	トウダイグサ	小笠原諸島・奄美諸島などのアカギ	<i>Bischofia javanica</i>	XD小笠原・南西諸島	緊急的防除種	①②③	⑤	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	琉球(沖縄諸島、八重山列島)	25m、常緑性高木	森林に広くみられるが、野生化どうか不明な所も多い。	庭木、街路・防風樹。市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	首里金城の大アカギは文化財保護法で天然記念物に指定。	②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20<4、⑥専門家:海洋島34、⑦各県:小笠原・奄美	木本I、樹木、JF
重点対策種																													
1003	93	ケン	白山などの高山帯のコマクサ	<i>Dicentra peregrina</i>	XB定着初期/分布限定	重点対策種	①②③	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北海道・本州中北部、千島・カムチャッカ・樺太・シベリア東部	0.1m、多年草	高山の砂礫地に点々と生える。	市販品が流通、販売されている。	産地が異なるものや不明なものを持ち込みは、遺伝的攪乱を引き起こすので行うべきではない。高山帯は、自然公園法等により植物の植栽が規制されている。	自然公園法の指定植物。	⑥専門家:高山22、⑪その他:白山で駆除	草本II、JF
1004	109	トウダイグサ	屋久島などのアラギリ(ドクエ)	<i>Vernicia cordata</i>	XB定着初期/分布限定	重点対策種	①②③	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	本州(中部地方以西)、四国、中国、九州、朝鮮半島、中国、台湾。	15m、落葉高木	山地に生えるほか、栽培される。強健で生長は比較的早く、湿潤な土壌、日当たりを好む。剪定、移植に耐える。	種子からとる桐油は有毒だが、乾性油としてすぐれ、印刷用インクやペンキ、油紙などに利用。昔は和傘に塗った。樹皮のタンニンには染色や皮なめしに利用。材は下駄や器具に利用。	強健で生長は比較的早く、シカの被害を受けにくいことから急激に増加し、在来種との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域への持ち込みは行うべきではない。	別学名 <i>Aleurites cordata</i> 。中国の広東省と福建省が原産で日本には約300年前に渡来したとされたが、中国には自生しないことから、現在は日本が原産と考えられている。種子が原因の食中毒の事例がある。増殖は実生による。	⑪その他:日本生態学会	便覧、干葉植物誌、Ylist、目録、樹花4、木本I、有用、園芸事典
1005	37	マツ	小笠原諸島などのリュウキュウマツ(オキナワマツ)	<i>Pinus luchuensis</i>	XD小笠原・南西諸島	重点対策種	①②③	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	吐噶喇列島以南の琉球	25m、常緑高木	暖地の森林に生える。	庭木、防風・防潮樹に利用される。市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、小笠原諸島など自然分布域でない場所では可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	母島・父島の松枯れの原因のマツノマダラカミキリがグリーアノールに被害を及ぼし、再繁殖、落葉層による他種の発芽抑制。	⑤対策:H20<4、⑥専門家:海洋島25、⑦各県:小笠原	木本I、樹木、JF
1006	50	クワ	小笠原諸島などのガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	XD小笠原・南西諸島	重点対策種	①②③	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	屋久島以南・琉球、台湾・中国大陸南部・東南アジア・インド・ニューギニア・オーストラリア	20m、常緑高木	海岸近くに生える。	南西諸島では防風、防潮用のほか木陰樹としても植えられる。市販品が流通、販売されており、観葉植物としても利用される。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	果実は食べられる。ISSGの表題は <i>Ficus microcarpa</i>	⑥専門家:海洋島6、⑦各県:小笠原、⑩海外:ISSG	木本I、JF、観葉植物
1007	50	クワ	小笠原諸島などのシマグワ	<i>Morus australis</i>	XD小笠原・南西諸島	重点対策種	①②③	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	九州南部、南西諸島から中国大陸、インド東部	10m、落葉高木	低山地の林内に生える。	養蚕用に栽培される。市販品が流通、販売されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れたことから、利用されている。	クワ属の在来種の生育場所の周辺では、可能な限り利用を控えるか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	シマグワ <i>M.australis</i> とヤマグワ <i>M. bombycis</i> を分ける見解と、ヤマグワ(シマグワ) <i>M. australis</i> として同種とする見解がある。	⑥専門家:海洋島24・交雑24、⑦各県:小笠原	木本I、有用、園芸事典、樹木、JF
1008	196	オオハコ	高山帯のオオハコ	<i>Plantago asiatica</i>	XX普通種	重点対策種	①②③	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	千島・樺太、北海道～琉球、朝鮮、中国	0.5m、多年草	日当たりの良い道端や荒地に普通	市販品が流通、販売されている。葉に斑が入る園芸品種が栽培される。	高山植物であるハクサンオオハコとの交雑が確認され、遺伝的攪乱が危惧されている。こうした問題は野生の非意図的な持ち込みによるものと思われるが、栽培品についてもこうした問題を引き起こさないよう、オオハコ属の希少種の生育場所の周辺には持ち込みを行うべきではない。	⑤対策:H20:14	草本III、雑管、JF、園芸事典	
その他の総合対策種																													
1009	57	タデ	山地のギンギン	<i>Rumex japonicus</i>	XX普通種	その他の総合対策種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	日本全土、朝鮮・中国・千島・樺太	1.0m、多年草	原野や道端の湿地に多い	市販品が流通、販売されている。薬用や染色に利用される。	ギンギン属の植物は雑種を作りやすく、希少種の遺伝的攪乱が懸念される。ギンギン属の生育場所の周辺には持ち込まないか、花粉の散布を防止するよう配慮する。	日本では最近報告はないが、シュウ酸を含むので中毒を起こす。	⑤対策:H20<4	草本II、雑管、花粉、牧草、JF、園芸事典、世継II
1010	225	ヤシ	九州北部以北の森林内などのシュロ類	<i>Trachycarpus</i> spp.	XC分布拡大～まん延期	その他の総合対策種	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	シュロ <i>T. fortunei</i> は南九州の原産で中国にも分布、トウシュロ <i>T. wagnerianus</i> は中国原産。本州以南に分布。	7m、常緑高木	市街地を中心に野生状態のものが見られる。	市販品が流通、販売されている。	二次林にも自然林にも侵入するので、特に温暖な地域では、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	シュロとトウシュロの識別はやや困難。ISSGはシュロ <i>T. fortunei</i>	⑥専門家:雑木38・極相25、⑦各県:埼玉、⑩海外:ISSG	便覧、木本II、JF

＜種の抽出に利用した既存の文献等＞

作業量の限界から、全体で数百種類程度となるよう、かつできるだけ異なる観点から抽出を行った。

①特定外来生物(12種)と要注意外来生物(84種)

②IUCNのワースト100のうち植物27種(在来種を除く全種が既に①に含まれている)。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN

日本の侵略的外来種ワースト100のうち植物26種(既に全種が①に含まれている)。日本生態学会(2002)外来種ハンドブック。地人書館。

③村中ら(2005)掲載の108種(※河川重視の評価)。

村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷺谷いづみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討。保全生態学研究10: 19–33。

④FAO方式による雑草性リスク評価の結果、6点以上の特に注意すべき外来植物(＊は今後導入される可能性のある外来植物)

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会(2008)外来生物のリスク管理と有効利用。養賢堂。

⑤地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種(数字は対策事例数)

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書。

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書。

⑥専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた)種(数字は回答者数)

ハビタットの種類:海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養砂礫地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価　http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lecture/invasiveness2010.pdf

⑦都道府県などで特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種

北海道ブルーリスト2010、http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/

カテゴリーA2:本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種17種(カテゴリーA1はなし、A3は106種が掲載)

青森県(2006)青森県外来種対策学術調査報告書―青森県外来種リスト―。http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2008-0607-1553-a.pdf

カテゴリーA(侵略的定着外来種):本県に定着している外来種のうち、生物多様性への影響が報告されている又は懸念される種のうち、代表的な選定種30種

栃木県、長谷川順一(2008)栃木県の自然の変貌、自然の保全はこれよりのか(自刊)。

近年増加が顕著な帰化植物

群馬県、石川真一・清水義彦・大森威宏・増田和明・柴宮朋和(2009)外来植物の脅威―群馬県における分布・生態・諸影響と防除方法―。上毛新聞社事業局出版部。

県内で生育が確認され、生態系等への被害が想定される「県内危険外来種」11種

埼玉県環境防災部みどり自然課(2005)埼玉県内において在来の植生に悪影響を及ぼすおそれのある侵入的外来植物について。改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編299–306pp。

危険度5　極めて危険・すでに在来植生に侵入し、在来種と競合して在来種を駆逐しているもの。コカナダモ、オオフサモなど17種

・すでに在来の種と交雑し、雑種に繁殖力があるもの。セイウタンポポなど

危険度4　非常に危険・すでに在来植生に侵入し、近い将来、在来種を駆逐する危険の高いもの。オニマタビなど25種

・すでに在来種との交雑が確認されているが、現時点では雑種に繁殖力がないもの

侵入した植生のタイプ:河川敷、池沼・湿地、落葉樹林、林縁、路傍等

千葉県外来種対策(植物)検討委員会(2010)千葉県の外来種(植物)の現状等に関する報告書。　http://www.bdcchiba.jp/alien/bdc-alien/alienplantsreport2009.pdf

「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種

愛知県環境部自然環境課(2012)愛知県の移入動植物ブルーデータブックaiti2012(STOP!移入種　守ろう！あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～付属資料抜刷)

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/pdf/10_shiryou3-plants.pdf

環境影響が大きい、あるいは今後大きくなることが予想される植物78種

愛知県、上記のうち「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(以下「条例」という。)において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種13種

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html

滋賀県で注意すべき外来生物、10種　http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/shiga.html

ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例、**指定外来種**　http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/kyoseijourei.html#kisyo_gairai

京都府外来生物情報、京都府外来生物リスト

被害甚大種(京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に策が必要な外来種)5種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/list/spermatophyta.html

被害危惧種(京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来種)のうち特に被害が大きいと認められる種37種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html

兵庫県(2010)生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応、兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

2警戒種(生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される32種)

鳥取県生物学会(2007)鳥取県の外来性動植物のリスト(2007)。山陰自然史研究3:37–45。

本県への影響大とされる10種

岡山県、外来食虫植物の除去(岡山県自然保護センター)　http://opnacc.eco.coocan.jp/chosa-kenkyu/gairai-shokuchu-shokubutsu.html

広島県、吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎(2007)広島県における外来植物の現状とその問題点。比婆科学224:1–18。

ランクA:広島県の自然生態系に重大な影響をおよぼすおそれのある種64種

愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について　http://www.pref.ehime.jp/h15800/gairaiseibutu/index.html、侵略的外来生物40種

佐賀県環境の保全と創造に関する条例、移入規制種18種、http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1262/_33058/_33943/jourekiseishu.html

宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会(2011)改訂・宮崎県版レッドデータブック宮崎県の保護上重要な野生生物。宮崎県環境森林部自然環境課。植物のブラックリスト11種類

小笠原諸島、延島冬生(2010)小笠原諸島に侵入している外来植物の現状。植調44(1)5–13。侵略的外来樹木9種、侵略的外来草本8種

奄美、環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所(2010)平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出規制植物種検討調査業務報告書。

⑧多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種(表の数字は3回の調査での確認河川数で、下記に該当する種は太字で示した)
河川水辺の調査調査1・2・3回目調査結果総括検討(河川版)(生物調査編)/平成20年3月　国土交通省河川局河川環境課　http://www3.river.go.jp/gaiyou.htm

a.多くの河川で確認されている

1巡目から3巡目までのいずれかで、出現率(出現河川数／対象河川数)が50%を超えるもの(史前帰化植物を除く)。

b.確認される河川数が急激に増えている

1巡目から3巡目までに確認河川が4倍以上、または2巡目から3巡目までに確認河川数が2倍以上になった種

(各回の対象河川数の違いは出現率として補正して算出、1巡目や2巡目の出現河川数が0の種類も含む、3巡目の確認河川数が10以上を対象)

1巡目: H2～H7に78河川で実施、2巡目: H8～H12に119河川で実施、3巡目: H13～H17に121河川で実施

⑨緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種(括弧内は調査実施主体の略)

環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局(2006)平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書。

なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向(案)の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、(外国産)在来緑化植物とされている。

⑩海外の評価

ISSG掲載の在来種以外: Lists of Invasive Alien Species (IAS), http://www.issg.org/database/reference/Index.asp

⑪その他

検討委員からの情報提供

【主な参考文献と略称】

Bossard, C. C., J. M. Randall and M. C. Hochovsky. 2000. Invasive Plants California's Wildlands. University of California, Berkeley. 360pp.(IPCW)

Global Compendium of Weeds、<http://www.hear.org/gcw/index.html>(GCW)

橋本梧郎(1996)ブラジル産薬用植物事典. アポック社. (ブラジル)

林弥栄(1985)山溪カラー名鑑日本の樹木. 山と溪谷社. (樹木)

Holm, L. G., J. V. Pancho, J. P. Herberger, and D. L. Plucknett (1991) A Geographical Atlas of World Weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida.(GAWW)

堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇(1989)世界有用植物辞典. 平凡社. (有用)

星野卓二・正木智美・西本眞理子(2011)日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社. (カヤツリグサ)

岩槻邦男(1992)日本の野生植物シダ. 平凡社. (シダ)

岩月善之助(2001)日本の野生植物コケ. 平凡社. (コケ)

JFコード(日本花き取り引きコード)センター <http://www.jfcode.jp/TOP.aspx>(JF)

角野康郎(2014)ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版. (角野)

草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎(1994)雑草管理ハンドブック. 朝倉書店. (雑管)

邑田仁・米倉浩司(2012)日本維管束植物目録. 北隆館. (目録)

長田武正(1989)増補日本イネ科植物図鑑. 平凡社. (イネ)

大野照好・片野田逸朗(1999)琉球弧・野山の花. 南方新書. (琉球弧)

尾崎章・河瀬晃四郎・山中雅也(1991)山溪カラー名鑑観葉植物. 山と溪谷社. (観葉)

Institute of Pacific Islands Forestry, Pacific Island Ecosystems at Risk (PIER) Plant threats to Pacific ecosystems. <http://www.hear.org/pier/index.html> (PIER)

斎藤洋三・井出武・村山眞司(2006)新版・花粉症の科学. 化学同人. (花粉)

坂崎信之(1998)日本で育つ 熱帯花木植栽事典. アポック社. (熱帯花木)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類. 平凡社. (草本Ⅰ)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類. 平凡社. (草本Ⅱ)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ 合弁花類. 平凡社. (草本Ⅲ)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅰ. 平凡社. (木本Ⅰ)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅱ. 平凡社. (木本Ⅱ)

清水建美(2003)日本の帰化植物. 平凡社. (帰化植物)

清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七(2005)牧草・毒草・雑草図鑑. 全国農村教育協会. (牧草)

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001)日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. (外来生物)

鈴木基夫・横井政人(1998)山溪カラー名鑑園芸植物. 山と溪谷社. (園芸)

太刀掛優・中村慎吾(2007)改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会. (便覧)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花、離弁花①. 山と溪谷社. (樹の花3)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花、離弁花②. 山と溪谷社. (樹の花4)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花、合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. (樹の花5)

高野信雄(1989)粗飼料・草地ハンドブック. 養賢堂. (粗飼料)

竹松哲夫・一前宣正(1987)世界の雑草Ⅰ—合弁花類—. 全国農村教育協会. (世雑Ⅰ)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草Ⅱ—離弁花類—. 全国農村教育協会. (世雑Ⅱ)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草Ⅱ—離弁花類—. 全国農村教育協会. (世雑Ⅱ)

塚本洋太郎(1994)園芸植物大事典全3巻. 小学館.

豊田武司(2003)小笠原植物図譜(増補改訂版). アポック社. (小笠原)

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹(2010)日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会. (写真図鑑)

United States Department of Agriculture, Natural Resources Conservation Service, plants Database. <http://plants.usda.gov/java/> (USDA)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅰ. ハロウ出版社. (水草Ⅰ)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅱ. ハロウ出版社. (水草Ⅱ)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅲ. ハロウ出版社. (水草Ⅲ)

米倉浩司・梶田忠(2003-)BG Plants 和名-学名インデックス」(YList)http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html

Weber, E. 2003. Invasive Plant Species of the World、A Reference Guide to Environmental Weeds、CABI Publishing.(IPSW)